

14.21  
34



始



142  
34

大正二年度

三重縣水產試驗場事業報告

三重縣水產試驗場



# 大正二年度三重縣水產試驗場事業報告

## 目次

三重縣水產累年統計要覽

大正二年度事業別豫算表

德田川放流鱸野外孵化場(多氣郡丹生村)

### 撈部

經漁業試驗.....一頁

秋刀魚及鮪漁業試驗.....二六頁

漁船々員簡易講習會.....四四頁

### 殖部

一 鱈養殖試驗.....五七頁

二 海苔養殖試驗.....六七頁

三 車蝦養殖試驗.....八九頁

四 真珠介養殖試驗.....九二頁

五 蛤養殖試驗.....九三頁

六 海鼠蕃殖試驗.....一〇三頁



大正  
4. 5. 10  
内交

- 七 櫛田川鱒放流事業.....一〇六頁
- 八 各種養殖事業實地指導.....一一三頁

**製造部**

- 一 鯉節製造試驗.....一一五頁
- 二 明鮑濕乾試驗.....一一七頁
- 三 鯉節製造講習.....一二三頁
- 四 蝦煎餅製造講習.....一二五頁
- 五 罐詰製造指導.....一二五頁
- 六 聯電築造指導.....一三五頁
- 七 海苔製造指導.....一三五頁
- 八 講 話.....一三六頁

**調査ノ部**

- 一 定期海洋観測.....一三六頁
- 二 多氣郡沿岸養殖適地調査.....一四一頁
- 三 桑名郡地先海苔養殖場調査.....一四五頁

**氣象観測**

三重縣水産累年統計表

種別	三十七年	三十八年	三十九年	四十年	四十一年	四十二年	四十三年	四十四年	大正元年	二年
漁業者	九、三九九	九、六八八	八、四四八	六、七九七	五、七〇〇	六、九四四	七、〇二一	六、三六八	六、一三五	六、七、五八
專業業者	三、七三五	四、〇四九	三、五〇八	三、八八二	三、三五一	四、〇九七	四、三六一	四、二二四	四、七、六九	四、五、〇〇
兼業者	五、〇八四	五、九九九	五、九四〇	五、五九九	三、三二九	二、五七七	二、六六〇	二、一四四	二、四、三六	二、二、四七
沿岸線一里ノ漁民數	三、七七八	三、八〇〇	三、七〇〇	三、八九九	三、三二九	二、八七七	二、九〇〇	二、八〇六	二、三、〇〇九	二、三、三三
漁船數	一、四、二七七	一、三、八二一	一、三、八五七	一、三、八三九	一、三、〇〇四	一、三、〇〇九	一、三、〇〇九	一、三、〇〇九	一、三、〇〇九	一、三、〇〇九
日本型漁船	一、四、二七七	一、三、八二一	一、三、八五七	一、三、八三九	一、三、〇〇四	一、三、〇〇九	一、三、〇〇九	一、三、〇〇九	一、三、〇〇九	一、三、〇〇九
西洋型漁船	二、二、七五五	二、二、八〇三	二、二、八五三	二、二、八三九	二、三、〇〇四	二、三、〇〇九	二、三、〇〇九	二、三、〇〇九	二、三、〇〇九	二、三、〇〇九
補助機關付漁船	二、二、七五五	二、二、八〇三	二、二、八五三	二、二、八三九	二、三、〇〇四	二、三、〇〇九	二、三、〇〇九	二、三、〇〇九	二、三、〇〇九	二、三、〇〇九
沿岸線一里ノ漁船數	五、九	五、九	五、九	五、九	五、九	五、九	五、九	五、九	五、九	五、九
近海漁獲高	二、四、六〇〇	二、七、三二二	二、六、六二一	二、四、九二二	二、五、五二二	二、六、六二一	二、五、五二二	二、四、九二二	二、五、五二二	二、六、六二一
沿岸線一里ノ漁獲高	八、八七五	一一、二九〇	一〇、一三二	一〇、三九五	一〇、六四八	一〇、四二二	一〇、三三六	一〇、三三六	一〇、三三六	一〇、三三六
遠海出稼船數	一、五、六〇〇	一、四、五九五	一、四、六〇〇	一、三、七〇〇	一、三、八二一	一、三、〇〇九	一、三、〇〇九	一、三、〇〇九	一、三、〇〇九	一、三、〇〇九
出稼船漁獲高	七、〇〇〇	一、一、三三七	一、一、三四五	一、一、三四五	一、一、三四五	一、一、三四五	一、一、三四五	一、一、三四五	一、一、三四五	一、一、三四五
一艘平均漁獲高	二、六、六三三	三、六、三三三	三、六、三三三	三、六、三三三	三、六、三三三	三、六、三三三	三、六、三三三	三、六、三三三	三、六、三三三	三、六、三三三
養殖場面積	九、八、〇〇〇	八、四、〇、〇〇〇	八、四、〇、〇〇〇	八、四、〇、〇〇〇	八、四、〇、〇〇〇	八、四、〇、〇〇〇	八、四、〇、〇〇〇	八、四、〇、〇〇〇	八、四、〇、〇〇〇	八、四、〇、〇〇〇
公有水面	三、八、〇〇〇	三、八、〇〇〇	三、八、〇〇〇	三、八、〇〇〇	三、八、〇〇〇	三、八、〇〇〇	三、八、〇〇〇	三、八、〇〇〇	三、八、〇〇〇	三、八、〇〇〇
私有水面	三、九、〇〇〇	三、九、〇〇〇	三、九、〇〇〇	三、九、〇〇〇	三、九、〇〇〇	三、九、〇〇〇	三、九、〇〇〇	三、九、〇〇〇	三、九、〇〇〇	三、九、〇〇〇
養殖價額	三、九、〇〇〇	三、九、〇〇〇	三、九、〇〇〇	三、九、〇〇〇	三、九、〇〇〇	三、九、〇〇〇	三、九、〇〇〇	三、九、〇〇〇	三、九、〇〇〇	三、九、〇〇〇
公有水面	二、八、〇〇〇	二、八、〇〇〇	二、八、〇〇〇	二、八、〇〇〇	二、八、〇〇〇	二、八、〇〇〇	二、八、〇〇〇	二、八、〇〇〇	二、八、〇〇〇	二、八、〇〇〇
私有水面	一、一、〇〇〇	一、一、〇〇〇	一、一、〇〇〇	一、一、〇〇〇	一、一、〇〇〇	一、一、〇〇〇	一、一、〇〇〇	一、一、〇〇〇	一、一、〇〇〇	一、一、〇〇〇
公有水面百坪ノ金額	二、八、〇〇〇	二、八、〇〇〇	二、八、〇〇〇	二、八、〇〇〇	二、八、〇〇〇	二、八、〇〇〇	二、八、〇〇〇	二、八、〇〇〇	二、八、〇〇〇	二、八、〇〇〇
私有水面	一、一、〇〇〇	一、一、〇〇〇	一、一、〇〇〇	一、一、〇〇〇	一、一、〇〇〇	一、一、〇〇〇	一、一、〇〇〇	一、一、〇〇〇	一、一、〇〇〇	一、一、〇〇〇
私有水面百坪ノ金額	三、〇、〇〇〇	三、〇、〇〇〇	三、〇、〇〇〇	三、〇、〇〇〇	三、〇、〇〇〇	三、〇、〇〇〇	三、〇、〇〇〇	三、〇、〇〇〇	三、〇、〇〇〇	三、〇、〇〇〇
製造物價額	二、一、二、六七二	二、七、八、二七九	二、八、一、五五〇	二、八、一、五五〇	二、八、一、五五〇	二、八、一、五五〇	二、八、一、五五〇	二、八、一、五五〇	二、八、一、五五〇	二、八、一、五五〇
金額合計	三、四、一、〇五〇	三、八、三、七四二	三、七、四、〇三三	三、九、九、七九四	三、九、九、七九四	三、九、九、七九四	三、九、九、七九四	三、九、九、七九四	三、九、九、七九四	三、九、九、七九四

備考 元年度ニ比シ合計金額ノ減少ハ一年中ハ漁況一般不況ニシテ只鯉ニ於テ拾萬餘圓ノ增收アリシモ鯉、鯉、秋刀魚等ハ終始不況ニ終ハリ約七拾四萬圓ノ減少ヲ來シ從ツテ製造收入ニモ影響セリ

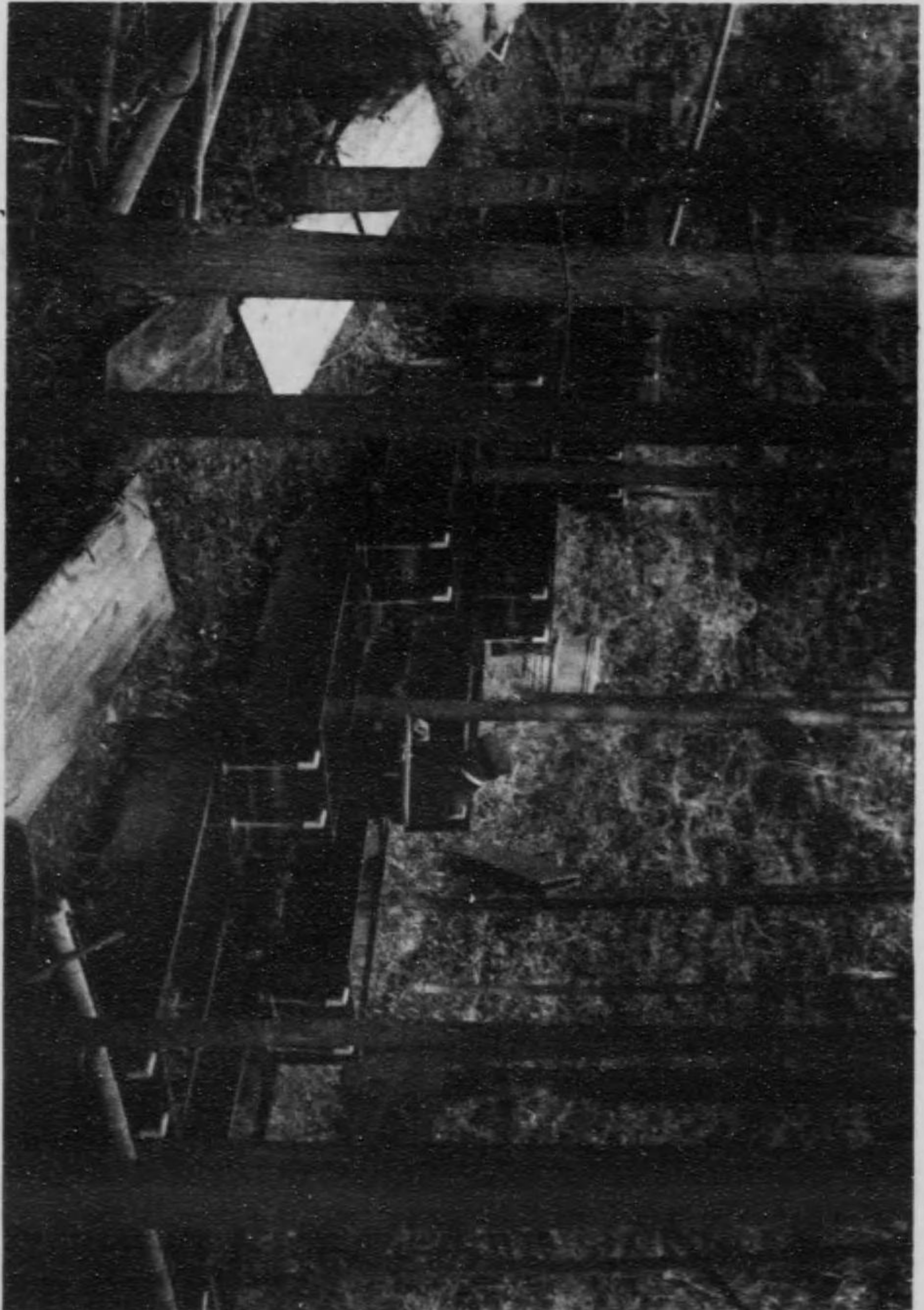


本廠圖書經費明細表

日期	品名	數量	單位	金額	備註
1952.12.1	...	...	...	...	...
1952.12.2	...	...	...	...	...
1952.12.3	...	...	...	...	...
1952.12.4	...	...	...	...	...
1952.12.5	...	...	...	...	...
1952.12.6	...	...	...	...	...
1952.12.7	...	...	...	...	...
1952.12.8	...	...	...	...	...
1952.12.9	...	...	...	...	...
1952.12.10	...	...	...	...	...
1952.12.11	...	...	...	...	...
1952.12.12	...	...	...	...	...
1952.12.13	...	...	...	...	...
1952.12.14	...	...	...	...	...
1952.12.15	...	...	...	...	...
1952.12.16	...	...	...	...	...
1952.12.17	...	...	...	...	...
1952.12.18	...	...	...	...	...
1952.12.19	...	...	...	...	...
1952.12.20	...	...	...	...	...
1952.12.21	...	...	...	...	...
1952.12.22	...	...	...	...	...
1952.12.23	...	...	...	...	...
1952.12.24	...	...	...	...	...
1952.12.25	...	...	...	...	...
1952.12.26	...	...	...	...	...
1952.12.27	...	...	...	...	...
1952.12.28	...	...	...	...	...
1952.12.29	...	...	...	...	...
1952.12.30	...	...	...	...	...
合計					

科目	目	核算額	庶務部
水產試驗場	實驗費	16,498,000	7,170,020
	燃料費	4,712,000	4,712,000
	電費	1,040,000	1,040,000
	水費	2,779,000	2,779,000
	修繕費	480,000	480,000
	雜費	420,000	420,000
	給養費	5,532,000	1,050,390
	給食費	89,000	-
	給服費	196,000	108,000
	給藥費	108,000	-
	給醫費	1,390,000	-
	給診費	1,305,000	-
	給診費	371,300	76,800
	給診費	2,094,540	742,320
	給診費	158,260	153,260
水產試驗場	船隻燃料費	5,314,000	1,094,400
	船隻修繕費	150,000	-
	船隻管理費	422,900	101,810
	船隻其他費	1,230,900	255,590
水產試驗場	船隻燃料費	2,752,600	-
	船隻修繕費	600,000	500,000
	船隻管理費	258,000	-
水產試驗場	船隻燃料費	243,000	243,000
	船隻修繕費	-	-
	船隻管理費	697,000	40,250
水產試驗場	船隻燃料費	414,375	-
	船隻修繕費	229,375	-
	船隻管理費	229,375	-
水產試驗場	船隻燃料費	185,000	-
	船隻修繕費	-	-
	船隻管理費	185,000	-





(村生丹郡氣多) 塙化解外野鯨流放川田橋

Table with multiple columns and rows, containing faint text and numbers, possibly a ledger or record book. The text is illegible due to fading.



# 大正二年度三重縣水產試驗場事業報告

## ● 漁 撈 部

主任技手 田 中 登

大正二年度漁撈部ニ於テハ左ノ業務ヲ施行セリ  
一、鯉漁業試験

本場ケツチ型吸入瓦斯發動機付漁船三水丸ヲ以テ紀志勢海洋ニ於テ四月十八日ヨリ試験ヲ開始シ九月三十日之ヲ終了ス

二、秋刀魚及鯖漁業試験  
漁業試験船三水丸ヲ以テ十月二十三日ヨリ試験ヲ開始シ翌年三月二十八日之ヲ終了ス  
三、漁船船員簡易講習會  
本年二月二十八日ヨリ二月二十日ニ至ル間度會部ヘ五ヶ村志摩郡ヘ二ヶ村ヘ場員ヲ派シ漁船運用航海其他必要事項ニ關スル講習會ヲ開催セリ

## 一、鯉 漁 業 試 驗

本年鯉漁業試験ハ四月十七日迄ニ諸種ノ準備ヲ完了シ同月十八日ヨリ九月三十日ニ至ル間紀志勢海外洋ニ於テ監督技手機關手及同助手各一名其他漁夫十八名試験船三水丸ニ乗組ミ漁場調査ノ傍ラ漁業試験ヲ施行セリ而シテ各般ノ便宜上本場所在地ヲ根據地トシ漁期中ハ專ラ濱島港ヨリ出漁セリト雖モ其間漁場ノ狀況餌料ノ關係或ハ天候ノ都合ニヨリ便宜ノ港ニ入港セシコト屢々アリ而シテ十月以降本縣外洋漁況一般ニ不振ナリシモ同月下旬ヨリ十二月上旬ニ涉リ本縣沿海再ビ鯉漁好況ヲ呈セルハ異例トスル處ナリ

## 二、餌 料 購 入

1

昨年度ハ五六及七月ノ三ヶ月間ハ餌料中鯖子ノ混同セルモノ多カリシモ本年ハ鯖子及キミ鱈比較的多ク鯖子ハ寧ロ皆無ニ近ク

鯉鰻ハ昨年ヨリモ一般ニ不便ナリシモ鯉鰻ノ昨年ニ比シ少ナカリシ結果安價ニ購入スルコトヲ得タリ今茲ニ二ヶ年間各月ニ於ケル三水丸購入餌料鯉鰻一籠ノ價格ヲ表示スレバ左ノ如シ

月	年	度	最	高	最	低	全	中	平	均
四	元	年	四、五〇〇	四、五〇〇	三、七五〇	四、二〇〇	四、三、七五	八、六三	二元	元
五	元	年	六、八〇〇	六、八〇〇	一、二〇〇	三、八〇〇	三、五八〇	三、九八〇	二元	元
六	元	年	三、五〇〇	三、五〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	一、九八〇	三、九八〇	二元	元
七	元	年	三、五〇〇	三、五〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	二、一三〇	二、一三〇	二元	元
八	元	年	二、四〇〇	二、四〇〇	一、〇〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇	二元	元
九	元	年	二、七〇〇	二、七〇〇	一、〇〇〇	一、六〇〇	一、五八七	一、五八七	二元	元
十	元	年	六、五〇〇	六、五〇〇	三、五〇〇	四、四六〇	四、四六〇	二元	元	
平	均	年					三、七四二	二、一七〇		

三、出漁ノ狀況

四月十八日 和歌山縣潮岬沖合ニ於テ鯉鰻漁況良好ナルヲ聞キ午後一時三十分本場發問崎ニテ餌料活鯉五籠ヲ購入シ同沖合ニ向ヘリ四月十九日午前八時ヨリ同十一時ノ間ニ潮岬東南四五哩附近ニ於テ鯉群ニ遭遇シ直チニ之レヲ飼付ケ二回ニテ一尾平均四百五十尾内外ノモノ百六十九尾ヲ釣獲シ午後四時三十分和歌山縣東牟婁郡大島ニ入港シ漁獲物ヲ陸揚セリ

四月二十日 餌料活鯉購入ノ爲メ午前六時大島ヲ發シ午後二時三十分北牟婁郡尾鷲ニ投錨セリ歸港ノ途次ニ木島口南方七八哩附近ノ海面ニ於テ秋刀魚群ノ洄游セルモノヲ發見セリ

四月二十一日 餌料缺乏ニツキ尾鷲ニ休泊セリ

四月二十二日 餌料缺乏及ビ天候不良ノ爲メ休漁セリ

四月二十三日 午前二時尾鷲發出漁セシモ風波高ク船體動搖激シキヲ以テ中途ヨリ引歸シ午前四時北牟婁郡引本ニ入港セリ

四月二十四日 午後八時十五分引本ヲ發シ潮岬沖合方面ニ向ヘリ

四月二十五日 潮岬南方二十三哩附近ヲ搜索セシモ鯉群ヲ認メズ風波高増大潮流急激ニシテ船體動搖烈シク午後七時三十分尾鷲ニ入港セリ

四月二十六日 午前十時三十五分尾鷲拔錨志摩郡御座崎西南七八哩附近ニテ一本釣漁船ノ遭難セルモノヲ發見シ之レヲ救助シ午後四時三十分歸場セリ

四月二十七日 天候ノ都合ニヨリ休泊セリ

四月二十八日 午前七時本場發出漁御座崎ヨリ南方二十二哩附近ヲ搜索セルモ魚群ヲ認メズ午後十一時二十分北牟婁郡尾鷲ニ入港セリ

四月二十九日 餌料鯉購入ノ爲メ休漁

四月三十日 午前四時尾鷲港出漁九鬼崎ヨリ南南東九哩附近ニ於テ午前八時ヨリ約三十分ノ間ニテ鯉十三尾ヲ釣獲セルモ魚群小魚體大ニシテ餌付惡シ本日沖合出漁中機關ニ二回故障アリシモ直チニ修理シ午後六時二十分尾鷲ニ入港シ漁獲物陸揚賣却セリ

五月一日 雨天ニ拘ラズ午前五時二十分尾鷲發出漁九鬼崎ヨリ東南八哩附近ニ於テ鮪交リ鯉群ニ遭遇シ直チニ之レヲ餌付ケ魚群大ニシテ餌付良シケレドモ餌料少キ爲メ鯉二十五尾鮪九尾ヲ釣獲シ午後一時尾鷲ニ入港シ漁獲物ヲ陸揚賣却セリ

五月二日 餌料購入ノ爲メ午前十時二十分尾鷲ヲ發シ午後五時十分歸場セリ

五月三日 午前三時四十分本場發御座崎ヨリ南十二哩附近ノ漁場ニ於テ曳繩ニテ鮪二尾ヲ得同シク十七八哩附近ニ於テ出會ヒ鯉ニ遭遇シ百四十五尾ヲ釣獲シ午後五時三十分歸場セリ

五月四日 午前四時三十分本場發御座崎ヨリ南微西十六哩附近ノ漁場ニ於テ鳥付鮪群ニ遭遇シ一尾平均二貫八百目内外ノ鮪二  
 十尾ヲ釣獲シ午後七時三十分歸場ス此ノ日魚群小ニシテ餌付良ケレドモ直チニ魚群ヲ見失ヘリ

五月五日 午前四時十分本場發出漁御座崎ヨリ南方四十二哩附近ノ海面迄搜索中鯨及ビ鮪ノ游泳セルモノヲ數回認メシモ餌ニ  
 付カズ或ハ足早ク追ヒツキ難キモノアリ此ノ日風力強カラザレドモ波浪高ク作業容易ナラズ午後九時三十分歸場セリ

五月六日 午前五時三十分本場發御座崎ヨリ南方二十四五哩附近ヨリ大王崎南方九哩ニ至ル間ヲ搜索セルモ魚群ヲ認メズ午前  
 十一時頃ヨリ小雨アリシモ午後六時三十分歸場後雨止ム

五月七日 午前三時五十分本場發志摩郡御座崎ヨリ南方二十八哩附近ニ至ル間搜索中鳥群ヲ二回認メシモ魚群ヲ認メズ午後六  
 時十分歸場セリ

五月八日 機關部手入ノ爲メ休漁

五月九日 同前

五月十日 午前四時本場發出漁志摩郡大王崎東南十二哩附近ノ漁場ニ於テ鯨三十六尾ヲ釣獲セシモ魚體小餌付惡シ此ノ日潮流  
 急激ニシテ波浪高ク作業困難ナルヲ以テ午後四時四十分歸場セリ

五月十一日 午前二時三十分本場發御座崎ヨリ東南東十六哩附近ノ漁場ニ於テ午前六時ヨリ正午ニ至ル間ニ鯨二百十九  
 尾ヲ釣獲セシガ魚群大魚體小餌付良好ニシテ擬餌釣ニモ掛リシガ午前十一時頃ニ至リ附近ヨリ二十有餘艘ノ發動機付漁  
 船集合シ來リシヲ以テ本船ハ同漁場ヲ去リ午後三時歸場シ漁獲物ヲ陸揚賣却セリ

五月十二日 午前二時本場發御座崎ヨリ南南東十二三哩附近ノ海面ニ於テ大ナル魚群ニ遭遇セシモ餌ニ付カズ其後搜索ヲ引續  
 キ同四十二三哩ニ至リ潮色良好ナルモ魚群ヲ認メズ午後六時五十分歸場セリ

五月十三日 天候險惡ニツキ休漁

五月十四日 同前

五月十五日 午前四時三十分本場發午前八時頃大王崎南方五哩ノ沖合ニテ稍大ナル鯨魚群ニ遭遇セルモ餌ニ付カズ午後一時三  
 十分黑森ノ鼻ヨリ南方三十二哩附近ニテ大ナル魚群ヲ認メ直チニ之レヲ餌付ケ餌付良好ニシテ頻ニ釣獲中一隻ノ漁船本  
 船ニ接近妨害セシヲ以テ餌付不良トナリ僅ニ百二十八尾ヲ釣獲シ午後十時十分歸場セリ

五月十六日 午前四時本場發出漁魚群搜索中大王崎南方十二三哩及同南南西十五哩附近ニテ大ナル魚群ニ遭遇セシモ餌ニ付カ  
 ズ其後引續キ御座崎南微東四十四五哩附近迄進行搜索セルモ魚群ヲ認メズ午前中東軟風ナリシモ午後強北風ニ變シ加之  
 小雨アリシヲ以テ船容易ニ進マズ午後九時三十分歸場セリ

五月十七日 天候ノ都合及ビ機關手入ノ爲メ休泊セリ

五月十八日 天候回復セルモ機關ノ都合ニヨリ休泊セリ

五月十九日 天候急變ノ爲メ休泊

五月二十日 午後八時本場發御座崎ヨリ針路ヲ南方ニ取レリ

五月二十一日 志摩郡御座崎南方六十二哩附近ノ漁場ニ於テ午前八時鯨群ニ遭遇シ百四十三尾ヲ釣獲セルモ魚群大ナル割合ニ  
 餌付宜シカラズ午後八時三十分歸場後直チニ漁獲物ヲ陸揚賣却シ午後十時三十分本場ヲ出漁シ沖合ニ向ヘリ

五月二十二日 御座崎ヨリ南方六十四哩附近ニ至ル間搜索セルモ魚群ヲ認メズ午後六時御座崎ヨリ南方十八哩附近ニ漂泊セリ  
 此ノ日午前中風波稍大ナルモ午後一時ヨリ風力減シ海上平穩トナレリ

五月二十三日 大王崎東南三十六哩附近ヲ搜索シ鮪群ヲ認ムレドモ鯨群ヲ見ズ午後九時三十分歸場後直チニ活鯨ヲ購入積入レ  
 午後十時五十分本場發出漁沖合ニ向ヘリ

五月二十四日 午後一時頃大王崎東南微東五十四哩附近ニ於テ鯨群ニ遭遇シ直チニ之レヲ餌付ケシモ餌付宜シカラズ一尾平均  
 五百九目ノモメ僅九尾ヲ釣獲シ午後四時半頃針路ヲ濱島ニ向ケ取レリ

五月二十五日 午前八時十分歸場直チニ漁獲物ヲ陸揚賣却セリ

五月二十六日 機關部手入ノ爲メ休漁  
 五月二十七日 天候ノ都合ニヨリ休漁  
 五月二十八日 午前八時三十分本場發大王崎ヨリ南微東十七八哩乃至二十四五哩附近ノ漁場ニ於テ數回鯉群ニ遭遇セルモ皆餌ニ付カズ同附近ノ海面ニ於テ秋刀魚及鮪ノ大群ヲ認メ午後八時四十分歸場セリ  
 五月二十九日 午前二時本場發大王崎南方二十六哩ヨリ御座崎南方二十四哩ニ至ル間搜索進行中三回魚群ニ遭遇セルモ餌ニ付カズ午後五時歸場セリ  
 五月三十日 天候ノ都合ニヨリ休漁  
 五月三十一日 午前四時二十分本場發九鬼崎東南二十七哩附近迄ヲ搜索セルモ魚群ヲ認メズ午後九時四十分尾鰲ニ投錨セリ  
 六月一日 午前三時三十分尾鰲港拔錨午前十時二十分御座崎ヨリ南微西十九哩附近ニ於テ鯉群ニ遭遇 追尾セルコト三十分ニシテ之レヲ飼ケシモ餌付良好シカラズ一尾平均五百五十匁目ノモノ三十尾ヲ釣獲シ午後四時五十分歸場シ直チニ漁獲物ノ陸揚ヲ終ヘ午後十時三十分本場發漁場ニ向ヘリ  
 六月二日 大王崎東南三十四五哩ヨリ御座崎南方二十四哩ニ至ル間搜索セルモ魚群ヲ認メズ同沖合逆潮流急激ニシテ色惡シク正午ヨリ小雨アリ午後六時四十分歸場セリ  
 六月三日 午前三時二十分雨天ニ拘ラズ本場發出漁御座崎ヨリ南方十七哩沖合ノ漁場ニ於テ群大魚體小ナル魚群ニ出合ヒ之レヲ餌付ケシモ餌付良好ナラズ一尾平均二百五十匁目ノモノ百八十四尾ヲ釣獲シ午前九時四十分歸場セリ  
 六月四日 午前五時本場發御座崎ヨリ南方三十二哩附近ニ於テ鯉群ニ數回遭遇セルモ餌ニ付カズ午後三時十分歸場此ノ日同附近ニテ鮪大群及潤目鰻ノ群ヲ認ム午後二時漁場ヲ引揚ケ歸港ノ途次小雨ニ出合ヘリ  
 六月五日 天候ノ都合ニヨリ休漁  
 六月六日 同前

六月七日 午前四時三十分本場發出漁御座崎ヨリ南方三十三哩附近ノ漁場ニ於テ二回鯉魚群ニ遭遇セルモ餌ニ付カズ風向ノ都合ニヨリ針路ヲ尾鰲ニ取リ午後七時同港ニ投錨セリ  
 六月八日 昨日使用ノ殘餘ノ餌鰻ヲ以テ午前零時三十分尾鰲發潮岬南方四五哩附近ニ於テ鯉十四尾ヲ釣獲セリ魚體四百匁平均ニシテ魚群大ナレドモ附近ニ鯉群ノ游泳セルモノアリテ餌付良好シカラズ午後六時漁場ヲ引揚ケ歸場ノ途ニ付キンモ逆風ニシテ波浪高ク作業容易ナラズ  
 六月九日 午前九時歸場セシ漁獲物ヲ陸揚賣却セリ  
 六月十日 午前二時五十分本場發大王崎南南東二十一哩附近ニ於テ鯨付鯉群及ビ同東南二十五哩附近ニ於テ二三回遭遇セルモ魚群大ナル割合ニ餌付共ニ良好ナラズ午後四時頃安乘燈臺ヨリ東南十三哩ノ海面ニ於テ鮪群及秋刀魚群ノ游泳セルモノヲ認ム此ノ日鯉二十尾ヲ釣獲シ午後八時二十分歸場セリ  
 六月十一日 午前一時四十分降雨ニ拘ラズ本場發出漁大王崎東南微東三十六哩附近ニ於テ魚群大ナル鯉群ニ三回遭遇セルモ餌ニ付カズ午後七時歸場セリ  
 六月十二日 豪雨ニツキ本朝休漁セルモ午後三時頃ヨリ俄然晴天トナリシヲ以テ午後九時本場發沖合ニ向ヘリ  
 六月十三日 九木崎ヨリ東南二十九哩及三木崎ヨリ南南西九哩附近ニ於テ鯨付魚群ニ遭遇セルモ餌ニ付カズ午後十一時三十分和歌山縣大島ニ入港セリ此ノ日午後九時頃新宮ヨリ南方五哩附近ニ於テ小雨アリシモ直チニ止ム  
 六月十四日 死ニ殘リノ鰻ヲ以テ午前三時雨天ニ拘ラズ大島發二木島ヨリ東南七哩附近ニ於テ鯨付魚群ニ遭遇シ追尾セルコト一時間半ナルモ速力早ク餌付困難ナリシヲ以テ右魚群ヲ放棄シ御座崎ヨリ南東微東三十六哩附近ニ於テ鯉十二尾ヲ釣獲セリ魚體魚群共ニ小ニシテ餌付良好ナラズ  
 六月十五日 午前二時三十分歸場後出漁準備ヲ整ヘ午後九時二十分本場發沖合ニ向ヘリ  
 六月十六日 渥美半島大山南方二十八哩附近ノ漁場ニ於テ鯉五十九尾ヲ釣獲セリ魚體五六百匁目ニシテ魚群大餌付良好ナリ午

後七時二十分歸場此ノ日午後一時頃小雨アリシモ直チニ止ム

六月十七日 午前五時本場發志摩郡御座崎ヨリ南方十七哩附近迄搜索中鯉魚群ニ遭遇セルコト二回ナレドモ餌ニ付キ難ク海上波浪高ク作業困難ニツキ沖合漂泊ヲ中止シ午後二時四十分歸場セリ

六月十八日 午前中ハ風波強キヲ以テ休漁セシモ午後一時頃ヨリ風力減シ海上平穩トナリシヲ以テ午後八時本場發御座崎ヨリ針路ヲ東南微東ニ取リ沖合ニ向ヘリ

六月十九日 御座崎ヨリ東南微東三十六哩附近ノ漁場ニ於テ五百匁目内外ノ鯉百六十二尾同ジク東南微東二十七哩附近ニ於テ二百五十匁内外ノ鯉八十二尾ヲ釣獲シ魚群大ニシテ餌付共ニ良好ナリシモ游泳力共ニ早ク魚群ヲ追尾シ餌付クル迄ニ約一時間ヲ要セリ此ノ日午後九時三十分歸場シ漁獲物陸揚賣却シ午後十一時本場ヲ發シ沖合ニ向ヘリ

六月二十日 大王崎ヨリ東南二十九哩附近ノ海面ニ於テ小ナル魚群ニ遭遇シ十九尾ヲ釣獲シ午後八時二十分歸場セリ此ノ日午前中ハ風波共ニ大ニシテ作業困難ナリシモ夜ニ入り風力減シ海上平穩トナリシヲ以テ午後十時五十分本場發沖合ニ向ヘリ

六月二十一日 九木崎ヨリ東南三十六哩迄ヲ搜索セルモ魚群ヲ認メズ午後七時十分歸場セリ

六月二十二日 天候ノ都合ニヨリ休漁

六月二十三日 午前五時本場發大王崎ヨリ南南東五十六哩ニ至ル間搜索中數回魚群ノ大ナルモノニ出會ヒシモ共ニ餌ニ付キ難ク午後六時同沖合ニ漂泊セリ

六月二十四日 大王崎ヨリ南南東四十四哩附近ノ漁場ニ於テ一尾平均四百五十匁魚群大餌付良好ナルモ百三十三尾ヲ漁獲シ午後三時三十分歸場シ漁獲物ヲ陸揚賣却セリ

六月二十五日 大王崎ヨリ東南七十八哩及東南微南四十五哩附近ニ於テ魚群大ナル鯉群ニ遭遇セルモ共ニ餌ニ付カス此ノ日海上平穩ナリシヲ以テ沖合ニ漂泊セリ

六月二十七日 大王崎東南微東三十二哩ヨリ御座崎南方十六哩附近ニ至ル間搜索セシモ魚群ヲ認メズ午後六時四十分歸場セリ

六月二十八日 天候ノ都合ニヨリ休漁

六月二十九日 午後十時本場發沖合ニ合ヘリ

六月三十日 御座崎ヨリ南方八哩附近ニ於テ一尾平均五百匁目魚群大ニシテ餌付良好ナル魚群ニ遭遇セシモ暫時ニシテ魚群ヲ見失ヒ百四十二尾ヲ釣獲シ引續キ大王崎ヨリ東南二十哩附近迄搜索セシモ魚群ヲ認メズ午後七時三十分歸場セリ

七月一日 午前三時四十分本場發大王崎ヨリ東南八哩乃至十哩附近ノ二ヶ所ニ於テ一尾平均五百五十匁魚群大ニシテ共ニ餌付不良ナル魚群ニ遭遇シ僅九十七尾ヲ漁獲シ午後七時歸場シ漁獲物ヲ陸揚賣却セリ

七月二日 午前二時四十分本場發大王崎ヨリ東南微東二十二哩附近ニ至ル漁場ヲ搜索セシモ魚群ヲ認メズ午後五時二十分歸場セリ

七月三日 午前一時本場發大王崎ヨリ南微東二十七哩乃至三十哩附近ノ間ニ於テ三回魚群ニ遭遇シタルモ共ニ餌ニ付カス其内一回ハ鯨付ニシテ速力早ク追尾困難ナリ午後八時二十分歸場セリ

七月四日 機關部手入ノ爲メ休漁

七月五日 同前

七月六日 午前中機關部手入ノ爲メ休漁セルモ午後四時修理ヲ終ヘタルヲ以テ午後八時本場ヲ發シ沖合ニ向ヘリ

七月七日 御座崎ヨリ南方十二哩附近ニ於テ一尾平均七八百匁目魚群大ニシテ餌付良好ナル魚群ニ遭遇シ直チニ之レヲ飼付ケシガ附近ヨリ約二十隻計リノ漁船集來シタルヲ以テ右漁場ヲ讓リ鯉七十八尾ヲ釣獲シ殘餘ノ鯉ヲ以テ歸途搜索シタルモ魚群ヲ認メズ午後六時歸場セリ

七月八日 午前二時本場發御座崎南方十七哩ヨリ東方大王崎沖合ニ至ル間搜索中四回鯉群ヲ發見セルモ皆游泳早ク餌ニ付キ難シ此ノ日志摩郡麥崎ヨリ南方十五哩附近ニ於テ三十四隻ノ發動機付漁船集合シ釣獲セルモノヲ認メ午後六時三十分歸場

七月九日 午前二時三十分本場發大王崎ヨリ南南東十二度附近ニ於テ鯨付魚群ニ出會ヒシモ波浪高キ爲メ魚群ヲ見失ヒ其後引續キ古和口南方十四度附近迄搜索セルモ魚群ヲ認メズ午後六時尾鰐ニ入港碇泊セリ

七月十日 午前三時三十分尾鰐港拔錨桃頭島ヨリ針路ヲ東南ニ取リ三十度附近迄搜索セルモ魚群ヲ認メズ午後六時二十分歸場セリ

七月十一日 午前三時五十分本場發御座崎ヨリ南南東十三度附近ニ於テ鯨付魚群ヲ追尾シ之レヲ飼付ケ七十八尾ヲ釣獲セリ又田會崎南方四度附近ニ於テ二十二尾ヲ漁獲セリ前者ハ魚體魚群共ニ大ナルモ飼付良シカテズ後者ハ魚體小群大ニシテ餌付良好ナルモ餌付少キ爲メ漁獲少ナシ午後一時四十分歸場シ漁獲物ヲ陸揚賣却セリ

七月十二日 午前二時十五分本場發大王崎南方十二度ヨリ西方古和口沖合ニ至ル間搜索セルモ魚群ヲ認メズ午後三時三十分歸場セリ

七月十三日 午前一時三十分本場發渥美半島大山ヨリ南南東十六度附近ノ漁場ニ於テ魚群ヲ飼付ケシガ南方附近ヨリ七隻ノ漁船襲來セシ爲メ魚群大ニシテ餌付良好ナル割合ニ釣獲少ナク午後五時四十分歸場シ漁獲物陸揚後餌料ヲ整ヘ午後十時本場發沖合ニ向ヘリ

七月十四日 大山ヨリ東南南南十九度附近ニ於テ三回魚群ニ遭遇セルモ共ニ餌付宜シカラズ一尾平均三百四五十尾ノモノ僅ニ十尾ヲ漁獲シ午後九時四十分歸場セリ

七月十五日 午前一時三十分本場發志摩郡神島附近ヨリ渥美半島大山東南二十一度ニ至ル線ヲ搜索セルモ魚群ヲ認メズ天候及ビ餌料ノ都合ニヨリ矢ニ入港セリ

七月十六日 天候ノ都合ニヨリ矢ニ休泊

七月十七日 午前一時四十分の矢港發大山ヨリ南南東二十四度附近ノ海面ニ於テ鯨付鯨交リ鯨群ニ遭遇シ一尾平均一貫二百尾

目内外鮪百五十二尾一貫内外ノ鯨四十三尾ヲ釣獲シテ午後六時歸場セリ此ノ日漁具竿三本ヲ折損セリ

七月十八日 降雨ニ拘ラズ午前一時二十分本場發大王崎南方九度附近ニ於テ鯨付鯨群ニ遭遇セシモ餌ニ付カズ同漁場ヨリ東北東ニ進ムコト二時間ニシテ鯨三頭ヲ發見セシモ魚群ヲ認メズ午後六時三十分歸場セリ

七月十九日 機關部手入ノ爲メ休漁

七月二十日 午後九時本場發漁場ニ向ヘリ

七月二十一日 遠州大山ヨリ南南東十六度附近ニ於テ午前十時頃ヨリ鯨付鯨ニ遭遇シ之ニ追尾セルコト三時間ニシテ漸ク之レヲ飼ヒ付ケ魚體一尾平均一貫及目内外ニシテ餌付良好ナルモノ百二尾釣獲シ午後八時二十分歸場セリ

七月二十二日 午前三時本場發大山ヨリ南方二十七度附近ノ漁場ニ於テ屢々鯨群ニ出會ヒタルモ飼付宜シカラズ僅十尾ヲ釣獲シ同漁場ヨリ西北ニ進ムコト一時間半ニシテ鯨付鯨ヲ發見シ追尾セシモ游行早キ爲メ釣獲スルコトヲ得ズ午後八時四十分歸場セリ

七月二十三日 餌料ヲ整ヘ午後九時本場發沖合ニ向ヘリ

七月二十四日 黒森ノ鼻南方十二度ヨリ大山南方二十五度ニ至ル間進行搜索セルモ魚群ヲ認メズ午後六時四十分歸場セリ

七月二十五日 午前三時本場發出漁御座崎ヨリ南方三十二度附近ニテ鯨群ヲ發見セルモ游行速ク漁獲皆無ニシテ午後五時五十分歸場セリ

七月二十六日 午前三時本場發大王崎ヨリ東南十九度附近ニ於テ鯨付鯨混同セル鯨群ニ出會ヒ直チニ之レヲ飼付ケシモ約二十隻ノ漁船來集シタルヲ以テ殆ト漁獲スルヲ得ズ僅八尾ヲ得テ午後六時五十分歸場セリ

七月二十七日 機關部手入ノ爲メ休漁

七月二十八日 午前中機關部手入ノ爲メ休泊セルモ午後八時機關修理ヲ終ヘ餌料ヲ購入シ本場發沖合ニ向ヘリ

七月二十九日 大王崎南方十二度附近ニ於テ餌付不良ナル鯨六尾及大王崎東南南十五度附近ニ於テ餌付良好ナル鯨九十尾ヲ

釣獲セリ共ニ一尾平均五百匁内外ニシテ魚群大ナリ午後三時歸場シ漁獲物ヲ陸揚賣却セリ  
 七月三十日 午前一時本場發大山南方二十七湮附近ニ於テ魚群小ニシテ魚體大餌付不良ナル魚群ニ遭遇シ僅十尾ヲ釣獲シ其後  
 殘餘ノ餌料ヲ以テ同漁場ヨリ東ニ進ムコト三時間搜索セルモ魚群ヲ認メズ午後九時歸場セリ  
 七月三十一日 午前中餌料ノ都合ニヨリ休漁セルモ午後八時餌料ヲ整ヒシヲ以テ本場發沖合ニ向ヘリ  
 八月一日 大王崎沖合南方二十湮附近ヨリ御座崎南方十八湮附近ニ至ル間進行搜索スレドモ魚群ヲ認メズ尙引續キ西方ニ向ハ  
 シトセシガ午前八時頃ヨリ晴雨計漸次ニ降下シ始メ加之豪雨至リシヲ以テ濱島ニ針路ヲ取り午後二時二十分歸場セリ  
 八月二日 天候險惡ニツキ休漁  
 八月三日 午前一時三十分本場發志摩郡神島南方二三湮沖合ヲ經テ大王崎東南十八湮附近ニ至ル間搜索セルモ魚群ニ遭遇セズ  
 午後六時二十分歸場セリ此日波浪高ク船體動搖激シク作業困難ナリ  
 八月四日 天候險惡ニツキ休漁  
 八月五日 午前中天候ノ都合ニヨリ休漁セルモ午後ニ至リ天氣回復セシヲ以テ餌料ヲ整ヘ午後八時本場ヲ發シ沖合ニ向ヘリ  
 八月六日 遠州御前崎ヨリ南南西十八湮附近ニ於テ鮪群ノ游泳セルモノニ出會セルモ別ニ鯉群ヲ認メズ午後六時順風ニ孕帆走  
 ニテ針路ヲ西方ニ取ル  
 八月七日 午前四時半風力減シタルヲ以テ遠州目須賀沖合ヨリ機關ヲ準備シ帆機兩走ニテ西方ニ進ミ大王崎南方四五湮附近ニ  
 達シタル時二三隻ノ漁船ノ魚群搜索中ノモノヲ發見セル外魚群ヲ認メズ午後四時二十分歸場セリ  
 八月八日 天候ノ都合ニヨリ休漁  
 八月九日 午前中天候ノ都合ニヨリ休漁セルモ午後天氣回復セシヲ以テ餌料ヲ整ヘ午後九時二十分本場發沖合ニ向ヘリ  
 八月十日 御座崎ヨリ南方三十二湮附近ニ於テ流木付魚群ニ遭遇シ直チニ之レヲ餌付ケシガ魚群大餌付良好ニシテ一尾平均四  
 百五十匁ノ鯉千二百三十一尾鱈十尾鮪二尾ヲ釣獲セリ此日活鱧ハ多ク撒餌ニ使用シ大部分擬餌釣ニテ釣獲シ沖合ノ都合

上針路ヲ尾鷲ニ取テ午後四時歸港セリ

八月十一日 午前二時三十分尾鷲發九木崎ヨリ東南二十八湮附近ニ至ル沖合ヲ搜索セルモ魚群ヲ認メズ午後八時十分歸場セリ  
 八月十二日 午前中ハ場務ノ都合ニヨリ休漁セルモ午後餌料活鱧ヲ整ヘ午後九時本場發沖合ニ向ヘリ  
 八月十三日 九木崎ヨリ東南五十四湮ニ至ル間搜索セルヲ鯉群ヲ認メズ歸途御座崎ヨリ南方三十二湮附近ニテ鳥付鯉群ヲ發見  
 シ午後十時歸場セリ  
 八月十四日 天候ノ都合ニヨリ休漁  
 八月十五日 場務ノ都合ニヨリ休漁  
 八月十六日 同前  
 八月十七日 午前中場務ノ都合ニヨリ休漁セルモ午後餌料活鱧ヲ整ヘ午後六時本場發漁場ニ向ヘリ  
 八月十八日 九木崎ヨリ東南三十六湮附近ニ於テ流木付小鯉一尾平均六十匁内外ノモノ百六十五尾ヲ釣獲シ午後十時十分尾鷲  
 ニ入港セリ此ノ日歸港ノ途次降雨アリ海上波浪高ク作業容易ナラズ八月十九日天候ノ都合ニヨリ尾鷲ニ碇泊休漁セリ  
 八月二十日 午前五時尾鷲發黑森ノ鼻ヨリ南方八湮附近ニ於テ魚群ヲ發見シ直チニ之レヲ餌付ケシガ同附近ヨリ十數隻ノ漁  
 船襲來セシ爲メ僅三尾ヲ漁獲シ午後四時歸場セリ  
 八月二十一日 天候ノ都合ニヨリ休漁  
 八月二十二日 同前  
 八月二十三日 午前二時五十分本場發古和口南方八九湮ヨリ東方大山沖合二十四五湮附近ニ至ル間搜索セルモ魚群ヲ認メズ午  
 後三時四十分歸場セリ  
 八月二十四日 天候ノ都合ニヨリ休漁  
 八月二十五日 場務ノ都合ニヨリ休漁

八月二十六日 天候ノ都合ニヨリ休漁  
 八月二十七日 同前  
 八月二十八日 同前  
 八月二十九日 午前二時五十分本場發御座崎東南微南二十湮附近ヨリ大王崎東南十九湮附近ニ至ル間搜索セルモ漁群ヲ認メズ  
 此日海上平穩ナリシヲ以テ遠州白須賀沖合ニ漂泊セリ  
 八月三十日 御座崎東南二十五湮附近ニ於テ餌付良好ナル小鯉大群ニ遭遇シ一尾平均七十匁内外ノモノ千八十尾ヲ漁獲シ同漁  
 場ヨリ北方八九湮附近ニテ鯖群ヲ認メ直チニ之レヲ飼付ケ三百六十尾ヲ釣獲シ午後零時三十分歸場セリ  
 八月三十一日 天候ノ都合ニヨリ休漁  
 九月一日 同前  
 九月二日 餌料活鯉缺乏ノ爲メ休漁  
 九月三日 午前九時十五分本場發御座崎南方十二湮附近ヨリ三木崎南方九湮ニ至ル間搜索セルモ魚群ヲ認メズ午後五時北牟婁  
 郡長島ニ入港セリ  
 九月四日 午前五時四十分長島發御座崎ヨリ南南西二十湮附近ノ漁場ニ於テ流木付小鯉群ニ遭遇シ直チニ之レヲ飼付ケ一尾平  
 均百匁内外ノモノ百三十尾ヲ釣獲シ午後八時五十分長島ニ入港セリ  
 九月五日 午前六時三十分長島發古和口南方二十湮ヨリ針路ヲ東方ニ取り麥崎南方十五湮附近ニ至ル間搜索セルモ鯉群ヲ認メ  
 ズ午後五時四十分歸場セリ  
 九月六日 午前四時五十分本場發御座崎南方十五湮附近ヨリ安乘燈臺東南十二湮附近ノ海面ニ至ル間搜索セルモ流木ノ外魚群  
 ヲ認メズ午後九時三十分歸場セリ  
 五月七日 天候ノ都合ニヨリ休漁

九月八日 同前  
 九月九日 同前  
 九月十日 午前四時本場發御座崎南方三十二湮ヨリ古和口南方八湮ニ至ル間ヲ搜索セルモ魚群ヲ認メズ午後五時三十分歸場ス  
 此日田曾崎南方五湮ノ地点ニテ烏付鯉群ノ游泳セルモノヲ發見セリ  
 九月十一日 天候其他場務ノ都合ニヨリ休漁  
 九月十二日 同前  
 九月十三日 同前  
 九月十四日 同前  
 九月十五日 同前  
 九月十六日 同前  
 九月十七日 午前二時五十分本場發御座崎ヨリ東南二十八湮附近ノ漁場ニ於テ二回魚群ニ遭遇セシモ共ニ游行早キヲ以テ追尾  
 スルコト能ハズ午後十時四十分尾鷲ニ入港セリ  
 九月十八日 午前四時三十分尾鷲發九木崎ヨリ東南二十湮附近ニ至ル間搜索セルモ魚群ヲ認メズ午後五時四十分歸場セリ  
 九月十九日 午前四時三十分本場發大山ヨリ東南三十二湮附近ノ地点ニ於テ一尾平均八百匁群大ニシテ餌付良好ナルモノ二百  
 尾ヲ釣獲シ漁獲物賣却ノ爲メ針路ヲ度會郡大湊ニ取レリ  
 九月二十日 午前二時三十分度會郡大湊沖合ニ假泊シ漁獲物ヲ山田市河崎町へ陸揚賣却シ午後八時歸場セリ  
 九月二十一日 天候ノ都合ニヨリ休漁  
 九月二十二日 雨天ニ拘ラズ午前四時五十分本場發黒森南方二十湮附近ヨリ三木崎南方七湮附近ニ至ル間往復搜索セルモ魚群  
 ニ出會ハズ此日波浪稍々高キニ拘ラズ天候險惡ナラザルヲ以テ大王崎南方二十四湮沖ニ漂泊セリ



十五日	十五日	十五日	十五日	十五日	十五日	十五日	十五日	十五日	十五日	十五日	十五日	十五日
0. B	3. B	0. B	10. R	10. C	2. B	2. B	10. R	8. C	9. C	1. B	10. R	2. S
3. W	4. NW	1. SW	2. N	1. SSW	1. S	1. NNE	3. S	2. NE	3. E	4. S	2. S	2. S
7	6				5	4	3	2				
志摩郡 南南東 御座岬 十六 岬	志摩郡 東南 大王岬 十二 岬	志摩郡 南方 御座岬 二十八 岬	志摩郡 南方 大王岬 九 岬	同 南方 四十二 岬上	同 南方 十六 岬上	志摩郡 南方 御座岬 十八 岬	同 東南 八 岬上	北牟婁郡 南南東 九 鬼岬	志摩郡 南方 御座岬 二十二 岬	和歌山縣 南方 湖岬 二十三 岬	南牟婁郡 東南 六 市木 岬	
自午前 至正午 六時	自午前 至同 七時三 十分			自午後 至同 四時半	自午後 至同 四時半	自午前 至午後 七時三 十分	自午前 至同 七時三 十分	自午前 至同 八時二 十分				
三、五	二、〇	三、〇	二、〇	二、〇	三、〇	三、〇	二、〇	二、〇、五	二、〇	二、四、〇	一、六、五	
二、一〇、一〇、五	一、八、〇、〇、四八	一、九、五、〇、五	一、九、〇、〇、四八	二、〇、〇、〇、五	二、〇、〇、〇、五	二、〇、五、〇、五	一、九、五、〇、五	一、八、七、〇、五	一、八、五、〇、五	一、九、〇、〇、五	一、九、五、〇、四八	
NE	W	NE	S	同	同	同	同	E	同	E	E	
緩	急	緩	急	活	同	同	同	緩		急	緩	
同	同	同	同	同	同	同	同	同		同	同	
鯉	鯉			鮪	鮪	鮪	鮪	鯉				
二九	三六			二〇	二〇	二五	九	三				
四〇〇	四〇〇			二、八〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	五、五〇〇	五、五〇〇				
五九、〇一〇	九、八六四			三、二〇〇	四、三七八	四、〇三八	六、二四〇					

漁業表

月日	九月十九日	九月十八日	九月十七日	九月十六日	九月十五日	九月十四日	九月十三日	九月十二日	九月十一日	九月十日	九月九日	九月八日	九月七日	九月六日	九月五日	九月四日	九月三日	九月二日	九月一日
天候風向漁場	曇風向漁場	曇風向漁場	曇風向漁場	曇風向漁場	曇風向漁場	曇風向漁場	曇風向漁場	曇風向漁場	曇風向漁場	曇風向漁場	曇風向漁場	曇風向漁場	曇風向漁場	曇風向漁場	曇風向漁場	曇風向漁場	曇風向漁場	曇風向漁場	曇風向漁場
漁具使用時	自午前八時至同十一時	自午前八時至同十一時	自午前八時至同十一時	自午前八時至同十一時	自午前八時至同十一時	自午前八時至同十一時	自午前八時至同十一時	自午前八時至同十一時	自午前八時至同十一時	自午前八時至同十一時	自午前八時至同十一時	自午前八時至同十一時	自午前八時至同十一時	自午前八時至同十一時	自午前八時至同十一時	自午前八時至同十一時	自午前八時至同十一時	自午前八時至同十一時	自午前八時至同十一時
氣温	一七、〇	一七、五	一七、〇	一七、〇	一七、〇	一七、〇	一七、〇	一七、〇	一七、〇	一七、〇	一七、〇	一七、〇	一七、〇	一七、〇	一七、〇	一七、〇	一七、〇	一七、〇	一七、〇
水温	一九、〇	一九、〇	一九、〇	一九、〇	一九、〇	一九、〇	一九、〇	一九、〇	一九、〇	一九、〇	一九、〇	一九、〇	一九、〇	一九、〇	一九、〇	一九、〇	一九、〇	一九、〇	一九、〇
比重	一、〇、五	一、〇、五	一、〇、五	一、〇、五	一、〇、五	一、〇、五	一、〇、五	一、〇、五	一、〇、五	一、〇、五	一、〇、五	一、〇、五	一、〇、五	一、〇、五	一、〇、五	一、〇、五	一、〇、五	一、〇、五	一、〇、五
潮流方向	急	緩	急	急	急	急	急	急	急	急	急	急	急	急	急	急	急	急	急
種類	鯉	鯉	鯉	鯉	鯉	鯉	鯉	鯉	鯉	鯉	鯉	鯉	鯉	鯉	鯉	鯉	鯉	鯉	鯉
捕魚一尾平均重量	二、九	二、九	二、九	二、九	二、九	二、九	二、九	二、九	二、九	二、九	二、九	二、九	二、九	二、九	二、九	二、九	二、九	二、九	二、九
價格	五、九、〇	五、九、〇	五、九、〇	五、九、〇	五、九、〇	五、九、〇	五、九、〇	五、九、〇	五、九、〇	五、九、〇	五、九、〇	五、九、〇	五、九、〇	五、九、〇	五、九、〇	五、九、〇	五、九、〇	五、九、〇	五、九、〇

九月二十三日 昨日漂泊セル漁場ヨリモ未明ニ機關ヲ準備シ東方舞坂沖合二十三湊附近ニ至ル間搜索セルモ魚群ヲ認メズ歸途  
 大山南方二十四湊附近航行中風力増大セル爲メ主帆ヲ破損セラレシガ午後四時三十分歸場セリ  
 九月二十四日 主帆修理ノ爲メ休漁  
 九月二十五日 午前六時本場發御座岬ヨリ南方三十二湊附近ニテ魚群ノ小ナルモノヲ發見セルモ直チニ見失ヒタリ午後八時十  
 分歸場セリ  
 九月二十六日 午前二時十分本場發御座岬ヨリ東南二十四湊附近ニ至ル間搜索セルモ鳥群三回ノ外魚群ヲ認メズ午後六時四十  
 分歸場セリ此日歸途大王崎南方七八湊ノ地点ヨリ降雨アリ  
 九月二十七日 天候ノ都合ニヨリ休漁  
 九月二十八日 同前  
 九月二十九日 場務ノ都合ニヨリ休漁  
 九月三十日 同前  
 今茲ニ本年度三水丸ノ出漁セル漁場ノ位置並ニ潮流水温比重等ニ付其概況ヲ表示セバ次ノ如シ

三水丸

廿六日	二十日	十九日	十六日	十四日	十三日	十一日	十六日	八日	七日	四日	三日
10-C	9-C	9-C	10-C	10-R	10-C	10-R	8-C	4-B	0-B	10-C	10-R
2-ESE	1-NW	1-NW	2-E	3-N	2-SW	3-E	2-S	2-NNE	2-N	1-NW	1-W
	18	17	16				15	14			13
東北車婁郡九鬼岬 東南三十三六哩	志摩郡大王御 東南二十九哩	志摩郡御座岬 東南三十六哩	渥美半島大山 南方二十八哩	志摩郡御座岬 東南三十六哩	北牟婁郡九鬼崎 東南二十九哩	志摩郡大王御 東南三十六哩	渥美半島大山 南方二十八哩	和歌山縣潮岬 南方五哩	同方三十三哩上	同方三十二哩上	同方十七哩上
	自午後一時 至同二時	自午後四時 至同四時半					自午前十時 至午後四時二十分	自正午 至午後五時半			自午前六時 至同七時
二四、〇	二六、〇	二六、五	二四、〇	二六、〇	二五、〇	二三、五	二三、五	二三、〇	二五、〇	二〇、五	二〇、五
二二、〇、〇、四二E	二二、〇、〇、四六SW	二二、〇、〇、四六NE	三三、〇、〇、四四E	二〇、五、〇、四八W	二二、〇、〇、四六SW	二二、〇、〇、四六SW	二二、〇、〇、四六SW	二〇、〇、〇、四五E	二二、〇、〇、四四W	二二、五、〇、四五同	一九、〇、〇、二五W
緩同	緩同	緩同	緩同	急	緩	急	緩同	急	急		緩同
	鯉	鯉	鯉				鯉	鯉			小鯉
	一九	一九	五九				二〇	一四			一八
	二、〇〇	四八〇	四、五〇				三八〇	四〇〇			一、五〇
	二、八六九	五三、〇六	一七、〇六				五、一六〇	四、〇八八			三、〇九六

二六日	一六日	廿五日	廿五日	廿五日	廿五日	廿五日	廿五日	廿五日	十五日	十五日	十五日
10-C	10-C	4-B	10-C	10-E	0-B	2-B	3-B	10-C	10-C	10-C	10-C
2-SE	3-NE	1WSW	2-NE	1-CN	1-SW	2-W	2-S	2-E	3-N	2-NW	3-SSW
	12				11	10		9		8	
同方二十四哩上	志摩郡御座岬 南方十九哩	北牟婁郡九鬼崎 東南二十七哩	同方二十六哩上	同方二十四哩上	同東南五十四哩上	志摩郡大王御 東南三十六哩	同方六十四哩上	同方六十二哩上	同方四十四哩上	同三十二哩上	同四十二哩上
	自午前十時十分 至同十一時十分				自午後三時 至同四時三十分	自午前十一時半 至同十二時半		自午前八時 至同九時		自午後一時三十分 至同二時三十分	
二三、〇	二四、〇	二三、五	二三、五	二三、〇	二四、〇	二三、〇	二三、〇	二三、〇	二四、〇	二三、〇	二三、〇
一九、五、〇、四八W	二三、〇、〇、四四同	二三、五、〇、四五SW	一九、五、〇、四五同	二〇、〇、〇、四五W	二〇、〇、〇、四八同	一九、五、〇、四四E	一九、五、〇、四六同	一八、五、〇、四八E	二二、〇、〇、四五同	二〇、五、〇、四八E	二二、〇、〇、四五S
急	同	緩同	同	急同	同	急	同	緩同	同	急同	緩同
	鯉				鯉	鯉		鯉		鯉	
	三〇				九	二八		一四		二八	
	五、五〇				九、四五〇	五、五〇		四、五〇		四、五〇	
	九、八五四				二、六七三	九、七六五		三、七、四〇八		三、六、五六	

廿七 六月	廿七 五月	廿七 四月	廿七 二月	廿七 一月	十七 八月	十七 七月	十七 五月	十七 四月	十七 三月	十七 二月	十七 一月
0. B	3. B	9. C	4. B	4. B	10. R	3. B	1. B	1. B	2. B	2. B	1. B
1. SW	1. S	1. S	2. N	1. SW	2. E	1. SE	1. S	1. NW	1. S	1. S	1. E
29			28	27		26		25	24		23
志摩郡 南方 大王 十九 湍	志摩郡 御座 岬 三十二 湍	志摩郡 大王 二十九 湍	同 南方 二十七 湍上	同 南 徵東 十六 湍上	同 南方 十六 湍上	同 南 南東 二十四 湍上	同 東 南 二十一 湍上	同 東 南 十九 湍上	同 南 美半 島 十六 湍上	同 南 方 十五 湍上	同 志 摩 郡 御 座 岬 十三 湍
自正午 至午後 二時半			自後一 時 至同二 時	自午後 二時半 至同二 時五十分		自午前 十時半 至午後 一時		自正午 至午後 一時	自午前 八時 至同十 時二十分		自午前 七時四 十分 至同八 時
三〇、 二、〇	三〇、 〇、〇	二九、 五、〇	二九、 〇、〇	二九、 〇、〇	二九、 〇、〇	三〇、 〇、〇	三〇、 〇、〇	三〇、 〇、〇	三〇、 〇、〇	三〇、 〇、〇	三〇、 〇、〇
二、〇、 〇、〇	二、〇、 〇、〇	二、五、 一、〇	二、五、 一、〇	二、五、 一、〇	二、五、 一、〇	二、七、 一、〇	二、七、 一、〇	二、五、 一、〇	二、五、 一、〇	二、五、 一、〇	二、五、 一、〇
SW	同	同	同	W	W	E	同	W	W	W	E
急		同	同	急	緩	急		緩	急	緩	急
同		同	同	同	同	同		同	同	同	同
鯉			鯉	鯉		鮪鯉			鯉		鯉
八			一〇	一〇		四、 五、 一、〇〇		〇、 〇、 〇、〇	二、 七、 〇、〇		一、 〇、 〇、〇
〇〇七、 〇〇七、			五、 五、 〇	八、 五、 〇		〇、 〇、 〇、〇		〇、 〇、 〇、〇	五、 五、 〇		六、 〇、 〇、〇
四、 五、 四			三、 九、 〇	五、 九、 四		九、 六、 二、九		四、 〇、 〇、〇	八、 四、 九、〇		三、 五、 七、〇

十七 八月	九七 八月	八七 八月	七七 八月	三七 八月	二七 八月	一七 八月	三六 十月	廿六 七月	廿六 六月	廿六 四月	廿六 三月
1. B	2. B	2. B	8. C	10. C	8. C	3. B	4. B	2. B	4. B	10. C	10. C
1. S	2. N	1. E	1. SE	2. E	1. E	1. S	1. NE	1. W	2. NW	2. E	1. N
			22			21	20			19	
志摩郡 南方 會見 江 二 湍	同 南 方 十二 湍上	同 南 方 十二 湍上	同 志 摩 郡 御 座 岬 十二 湍	同 南 方 二十 七 湍上	同 東 南 二十 二 湍上	同 東 南 十 湍	同 志 摩 郡 御 座 岬 八 湍	同 東 南 三十 二 湍上	同 東 南 七 十八 湍上	同 同 四十 四 湍上	同 志 摩 郡 大 王 岬 五 十六 湍
			自午前 五時至 六時 至午後 一時至 二時			自午後 四時 至午後 一時	自午前 六時 至午後 六時三 十分			自午前 六時 至同七 時	
二、 〇、 〇	二、 〇、 〇	二、 〇、 〇	二、 七、 〇	二、 〇、 〇	二、 〇、 〇	二、 七、 〇	二、 四、 五	二、 七、 〇	二、 〇、 〇	二、 五、 〇	二、 四、 五
二、 五、 〇、〇	二、 五、 〇、〇	二、 三、 〇、〇	二、 三、 〇、〇	二、 三、 五、〇	二、 五、 〇、〇	二、 三、 〇、〇	二、 三、 五、〇	二、 三、 五、〇	二、 三、 〇、〇	二、 三、 〇、〇	二、 三、 〇、〇
W	同	同	同	同	同	同	同	同	同	E	SW
緩			同				活			緩	緩
			同			同	鯉				
			夫			老	一、 四、 一			鯉	
			八、 〇、 〇			五、 〇、 〇	五、 〇、 〇			三、 四、 〇〇	
			三、 五、 八			三、 四、 八	五、 四、 五、〇			三、 七、 四、五	



廿九日	廿九日	10-C	9-C	志摩郡御座岬	二五、五	二四、五、〇、三	SW	緩	同
廿六日	廿六日	1-E	1-ENE	同 東南 二十四湮上	二六、〇	二四、五、〇、三	同	同	同

備考

本場本年度鯉漁業試験ハ四月十八日ヨリ開始シ九月三十日ヲ以テ終了ス

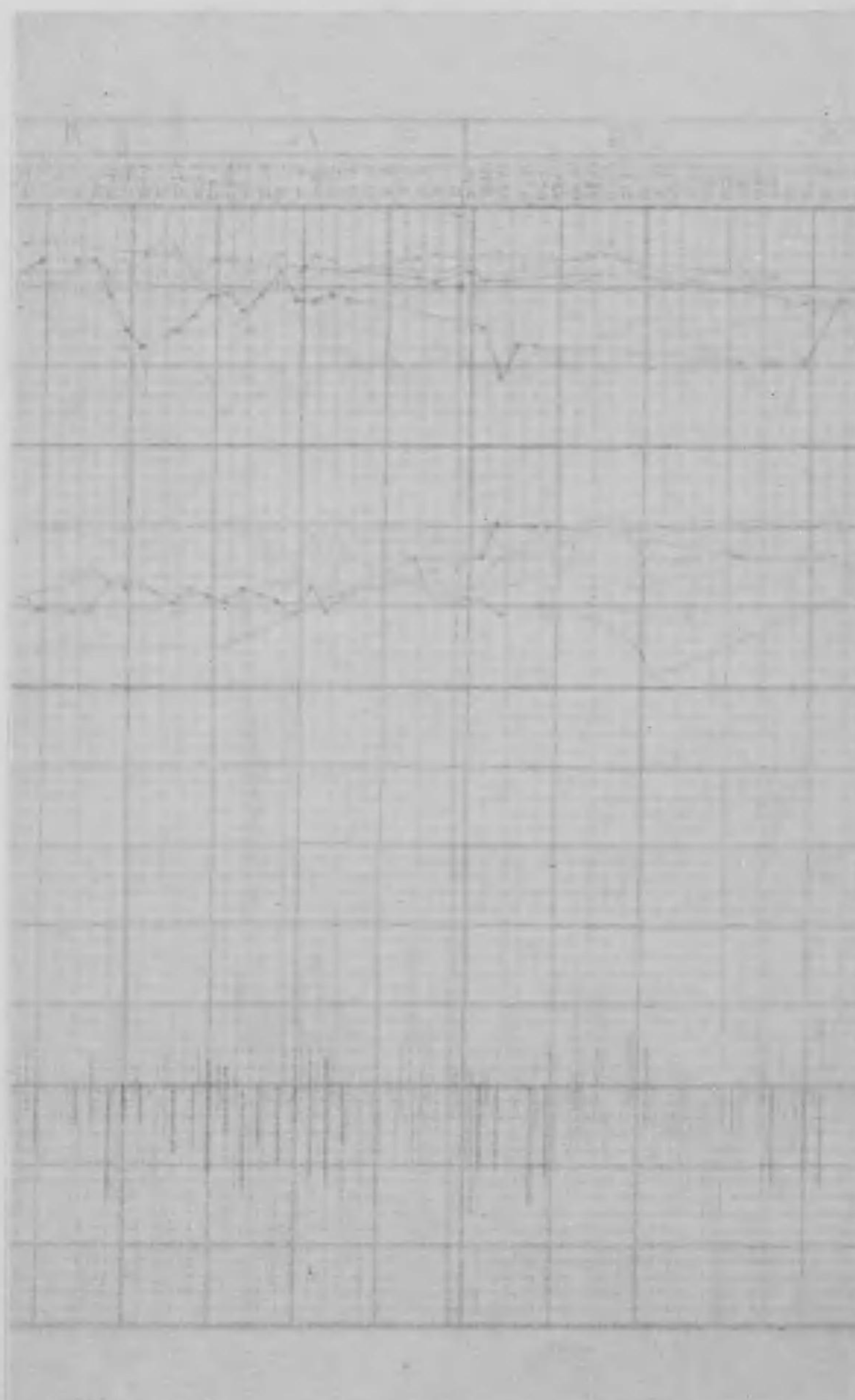
漁業日數百六十六日  
出漁日數八十九日〔漁獲日數 三十七日  
不漁日數 五十二日〕

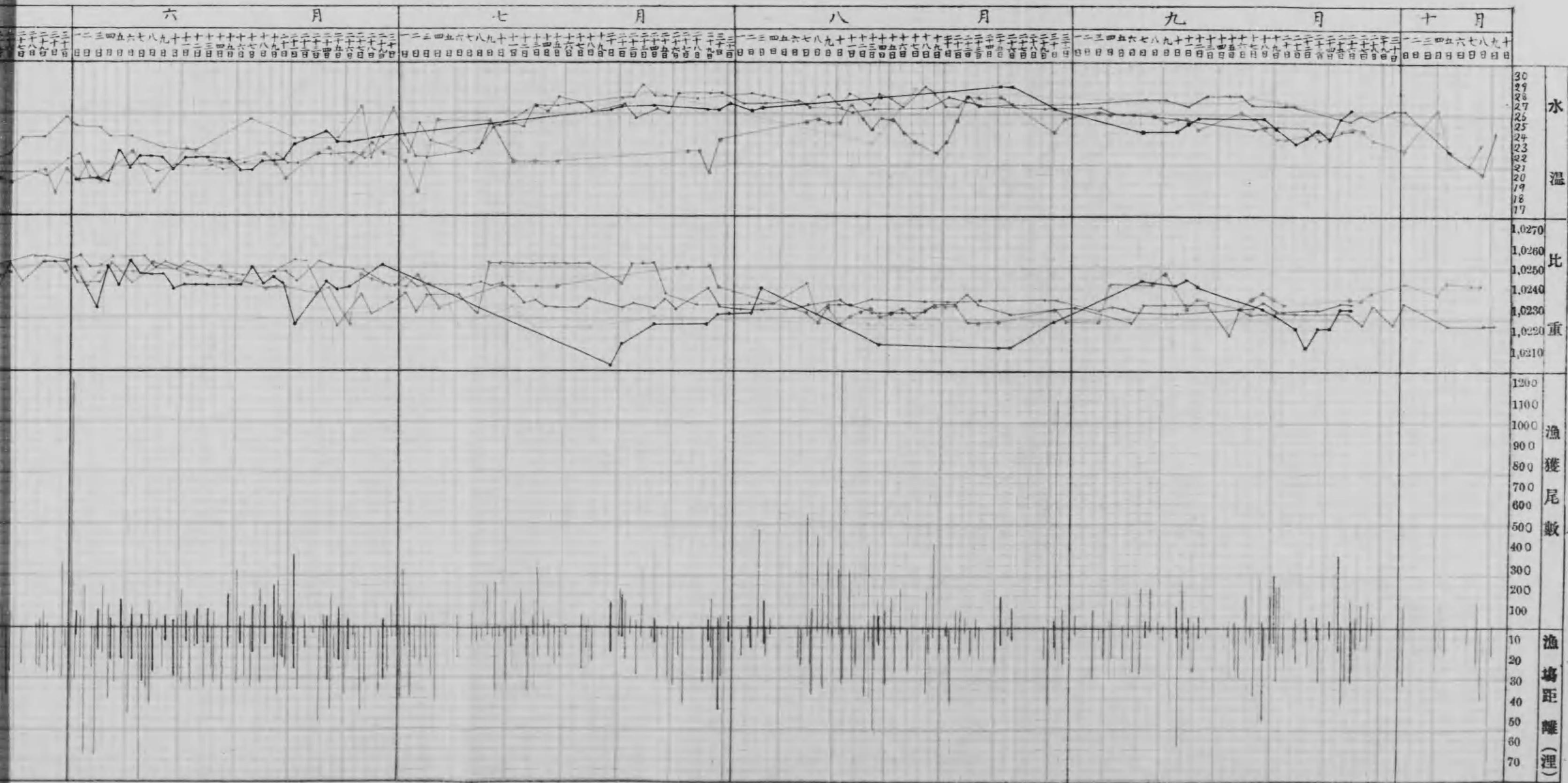
其他ノ七十七日ハ天候ノ都合機關ノ修理餌料ノ缺乏等ニヨリ休漁セルモノナリ  
漁況及漁場移動ノ一般

縣下本年度鯉漁業ノ開始ハ四月中旬ニシテ當時和歌山縣梶取崎沖合沿岸ヲ去ルコト數湮附近ニ於テ鮪交リ大群ノ來游スルモノ多ク從ツテ熊野方面ノ漁船ハ出漁シテ相當ノ漁獲ヲナセルモ縣下漁船ノ一部分ニ過ギザリシガ同月上旬ヨリ五月上旬ニ亘リ九木崎東南二十湮乃至三十湮ノ海面ニ於テ稀薄ナル魚群現ハレ概ネ魚群ハ鮪交リナリシガ餌付良好ナルヲ以テ茲ニ縣下漁船全部出漁ヲ開始シ六七百外ノモノ二百尾乃至三百尾ヲ漁獲スルニ至レリ而シテ五月中旬ヨリ六月下旬頃迄ハ逆潮ノ日多ク漁場モ度會志摩沿岸ヨリ沖合三十五湮乃至四十五湮ノ沖合ニ遠ザカリ加ノ海面ニハ秋刀魚及鯧群ノ洄游多クシテ鯨及鮫ヲ發見セシ漁船ハ稍々漁獲ヲナセルモ全ク見ザル漁船ニ至リテハ漁獲皆無ノ狀態ヲ呈セシモ七月上旬トナリテハ渥美半島沿岸ヨリ二十湮乃至三十湮ノ漁場ニ於テ八百尾以上一貫匁位ノモノ一日一隻二百尾乃至三百尾ヲ釣獲スルモノアリシモ四五日位繼續セルノミニシテ其後魚群ヲ認メズ七月中旬ヨリ八月中旬ニ亘リテハ縣下沿岸一帶ニ潮流方向一定セズ潮色不同ニシテ水温著シク上昇シタル結果魚群モ表面ヲ洄游スルコト少ナク從ツテ漁獲不漁ナルヲ以テ休漁セル漁船モ尠ナカラザル有様ナリシガ九月下旬ニ至リ志摩郡神ノ島北牟婁郡大島及サバル島附近ニ島付小鯉ノ來游アリシモ三四日間ニ留マレリ十月上旬ニ於テハ鯉ノ漁獲殆ンドナク中旬ニ入りテヨリ熊野沿岸十五湮乃至二十湮ノ沖合ニ於テ多少鯉群ヲ認メタルモ餌付不良ニシテ一般ニ秋漁ヲ悲觀シ鯉漁ヲ切揚グルモノ多キ狀態ナリシガ同月末ヨリ十一月中旬ニ亘リ六百匁目乃至一貫匁目ノモノ日々八十尾乃至八百尾ヲ漁獲セルモノアリ既ニ鯉漁業ヲ切揚ケ

鯉漁業試験已往五年間水温比重及漁獲一覽表

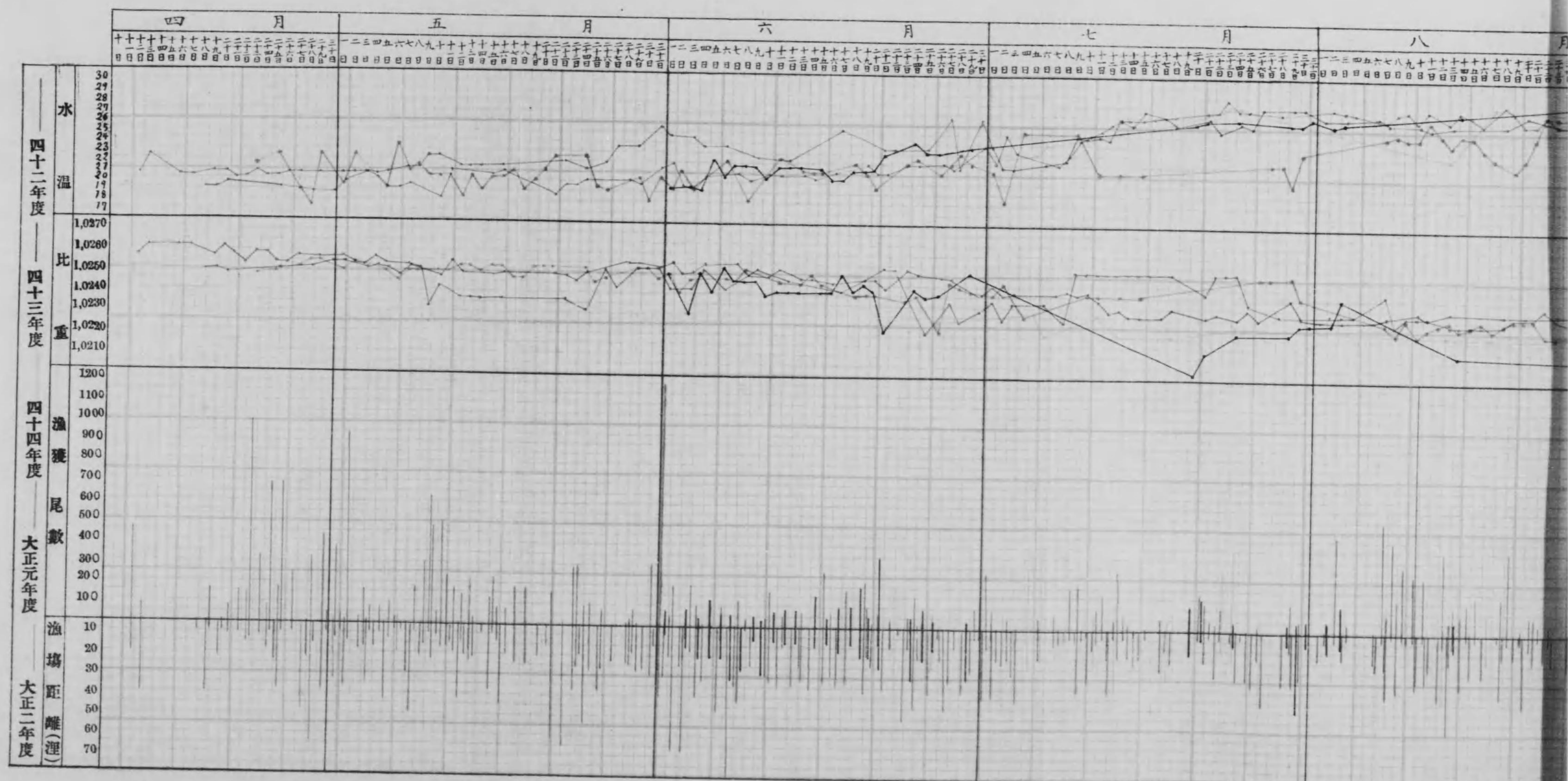
(比重ハ換算セス)





鯉漁業試験已往五年間水溫比重及漁獲一覽表 (比重ハ換算セス)

水溫著シク上昇シタル結果魚群モ表面ヲ洄游スルコト少ナク從ツテ漁獲不漁ナルヲ以テ休漁セル漁船モ尠ナカ  
 ラザル有様ナリシガ九月下旬ニ至リ志摩郡神ノ島北牟婁郡大島及サバル島附近ニ島付小鯉ノ來游アリシモ三四  
 日間ニ留マレリ十月月上旬ニ於テハ鯉ノ漁獲殆ンドナク中旬ニ入りテヨリ熊野沿岸十五哩乃至二十哩ノ沖合ニ於  
 テ多少鯉群ヲ認メタルモ餌付不良ニシテ一般ニ秋漁ヲ悲觀シ鯉漁ヲ切揚グルモノ多キ状態ナリシガ同月末ヨリ  
 十一月中旬ニ亘リ六百尾目乃至一貫尾目ノモノ日々八十尾乃至八百尾ヲ漁獲セルモノアリ既ニ鯉漁業ヲ切揚ケ



四十二年度  
 四十三年度  
 四十四年度  
 大正元年度  
 大正二年度

# 漁場圖

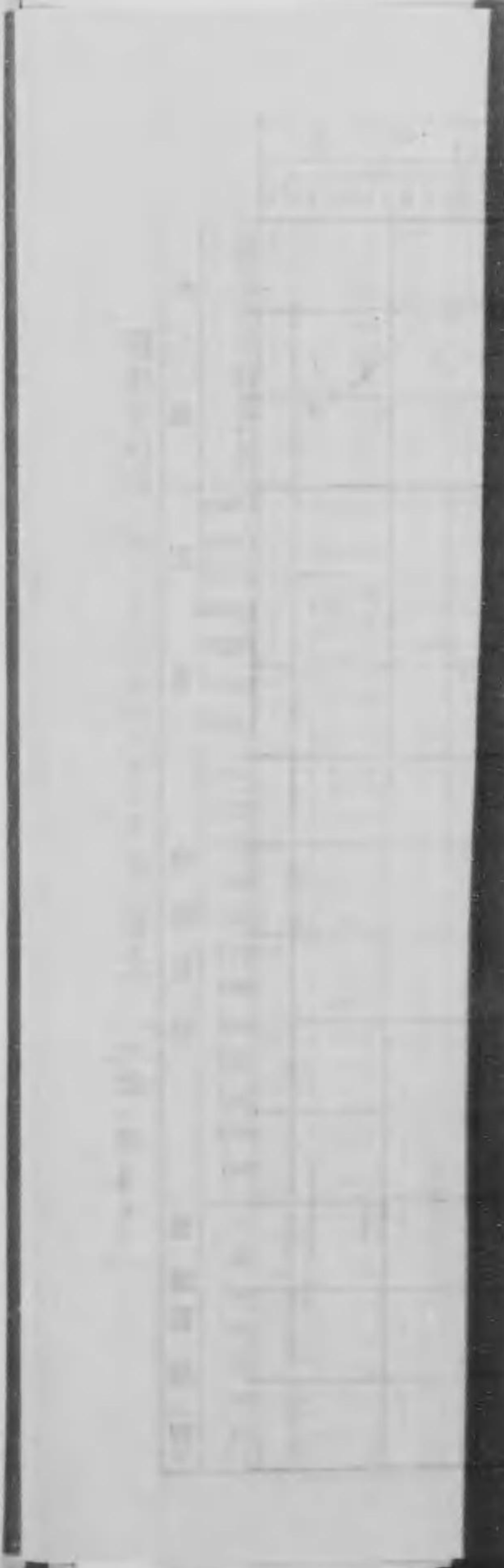
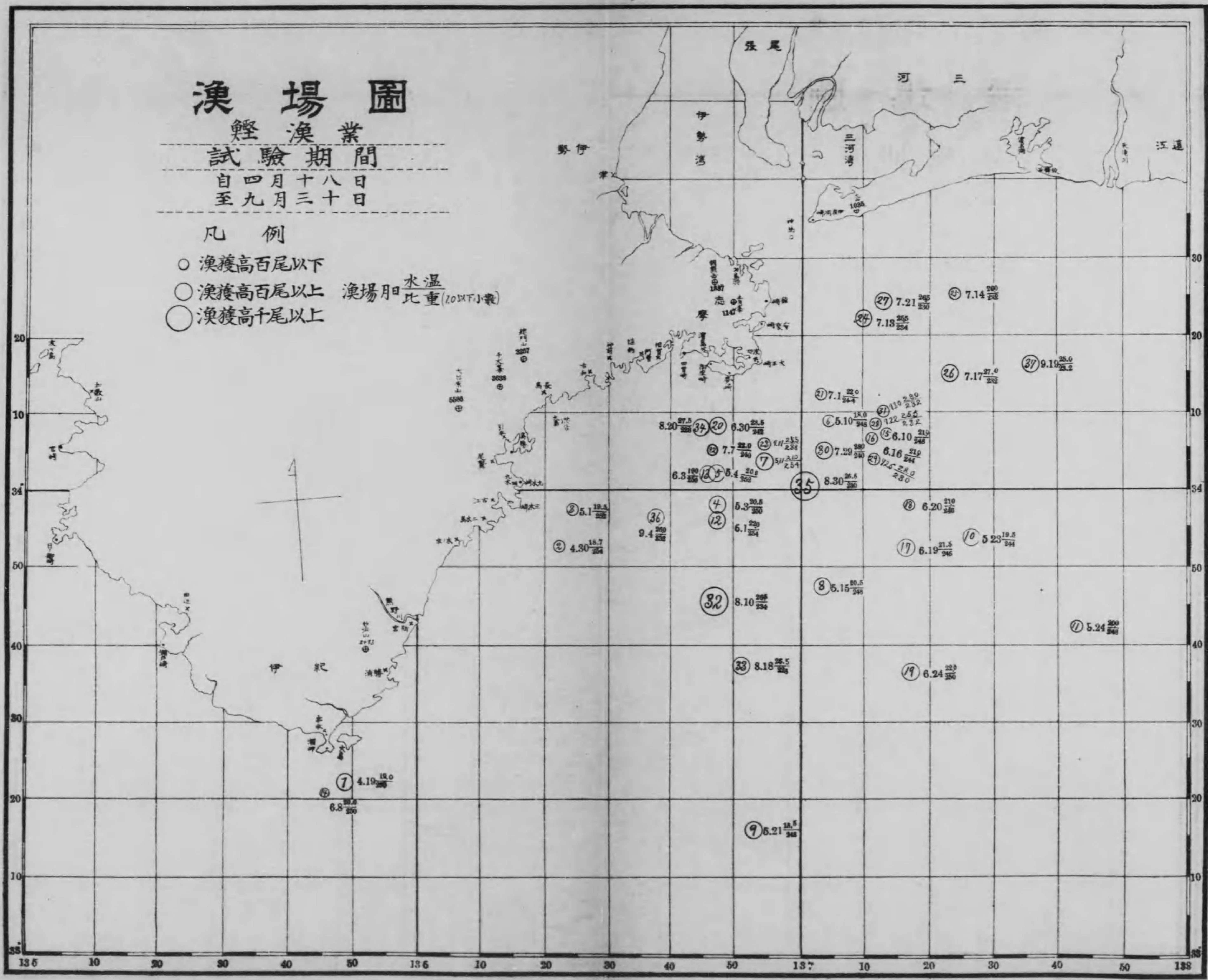
輕漁業

試驗期間

自四月十八日  
至九月三十日

凡例

- 漁獲高百尾以下
- 漁獲高百尾以上 漁場月 水温 比重 (20以下小數)
- 漁獲高千尾以上



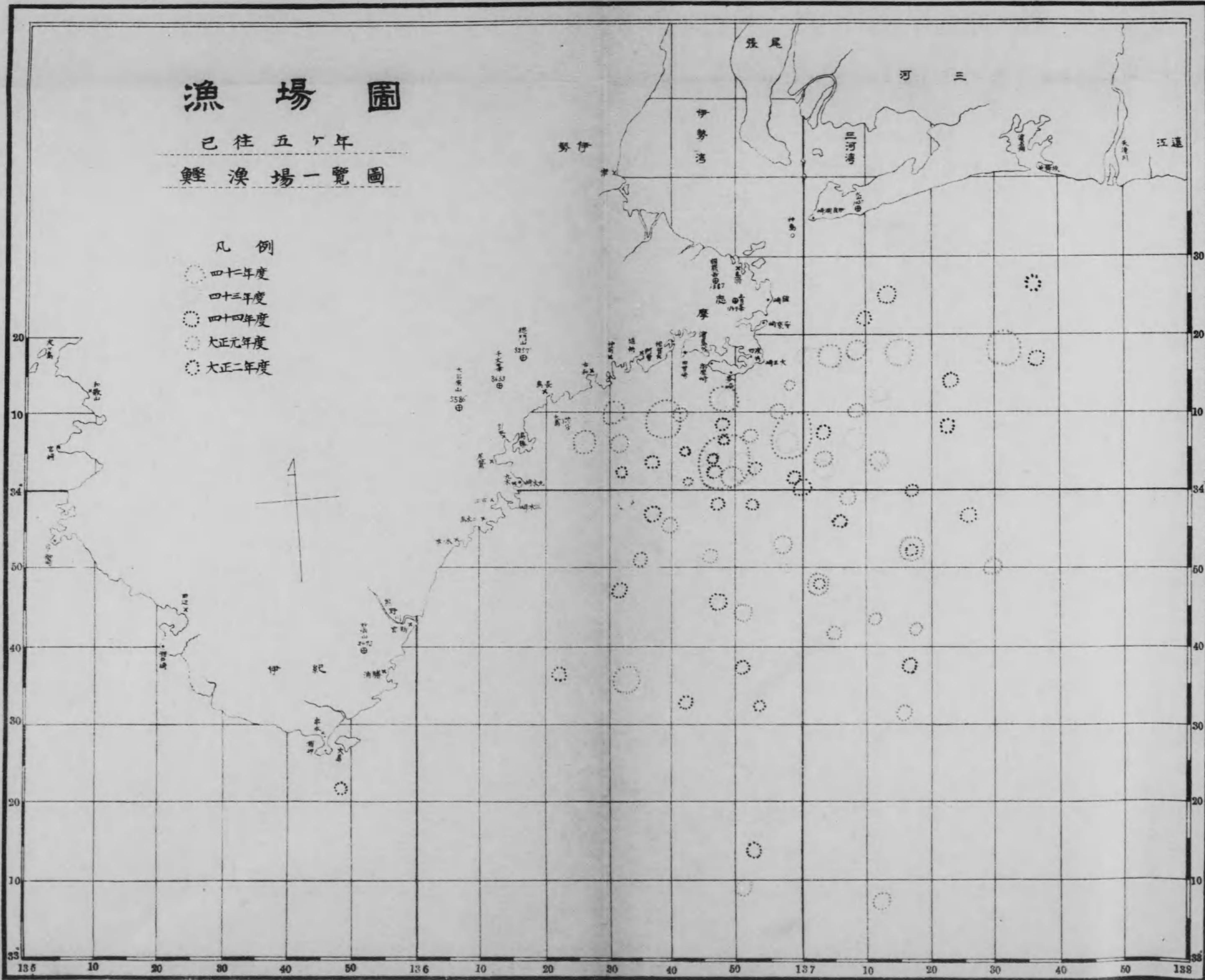


# 漁場圖

已往五十年  
鯉漁場一覽圖

凡例

- 四十年度
- 四十三年度
- 四十四年度
- 大正元年度
- 大正二年度



鮪及秋刀魚漁業ニ從事セルモノモ其漁業ヲ一時中止シ出漁スルノ盛況ヲ呈シ十二月上旬迄ハ多少宛ノ漁事アリ  
 斯ノ如キハ本縣沿岸トシテハ寧ロ異例ノ事ニ屬ス餌料ハ五月上旬同月下旬六月下旬及七月下旬ヨリ八月中旬ニ  
 亘リ一時缺乏ヲ來タシタルモ五月上旬ヲ除キテハ概ネ鯉漁況不振ナリシヲ以テ一般出漁船其供給ノ不足ヲ感セ  
 ズ十月下旬ヨリ十一月ニ亘リテハ稍鯉ノ缺乏ヲ來タシタルモ方言「ドホ」即チ鯉ヲ使用セルヲ以テ敢テ餌料ノ缺  
 乏ヲ感ズル程度ニハ至ラザリシヲ以テ其ノ期間ニ於テ思ハザル大漁ヲナセル漁船アリ  
 本年度三水丸ニ於テ出漁セル漁場ノ區域  
 自東徑百三十五度四十六分  
 至東徑百三十七度四十四分  
 自北緯三十三度二十四分  
 至北緯三十四度二十六分

四、鯉漁場ニ於ケル水溫及比重

本年鯉漁場ニ於ケル水溫ハ四月中旬ヨリ五月末ニ至ル間ハ既往四ヶ年(別圖參照)ノ平均海水溫度ニ比シ約二度低ク從ツテ魚  
 群モ一定セズ其間縮交リ或ハ鮫及鯨付魚群ニシテ共ニ群稀薄ナリ七月上旬ヨリ九月末ニ亘リテハ其間一日ニ二三度宛ノ昇降ハ  
 時々アレドモ例年ニ比シ大差ナシ此ノ間漁獲ハ平年ニ比シ稍々減少スレドモ十月下旬ヨリ十一月ニ至リ漁況好漁ナリ當年四月  
 ヨリ六月末ニ至ル海水比重ハ例年ト畧平均ヲ保テリ七月ハ入梅終了期ニテ海況ノ平調ヲ保チ難キ時機ニシテ比重ハ既往四ヶ年  
 ハ著シキ變動アリ其間最高一、〇二五二最低一、〇二〇二ニシテ差額甚シケレドモ本年ハ一、〇二三五ノ平均ヲ保持セリ然レド  
 モ八月ニ於テハ平年ヨリ約、〇〇八高ク四十三平ニ比シ、〇〇二五高シ九月ニ至リテハ殆ト例年ト大差ナク漁獲モ稍々同シ

五、鯉漁場ニ於ケル潮流

本年鯉漁場ニ於ケル潮流ハ四月中旬ヨリ五月下旬ニ至ル間和歌山縣沖合ヨリ熊野志摩度會沿岸二十五哩乃至四十哩位ノ海面ニ  
 於テ概ネ東流多ク從ツテ鯉漁初期ニ於テハ和歌山縣沖合ニテ多少ノ漁獲アリ五月ニ入りテ漸次東方ニ移動シ志摩郡沖合ニ相當

ノ漁事アリ其間五月六日ヨリ五月十二日ノ間北。西北、西ノ強風アリ。爲メカ表面流方向一定セズ六月上半期ニ於テハ西或ハ西南ニ向ツテ流ル、潮流多シ六月下半期ノ二十三日頃迄ハ熊野沿岸一帶潮流方向一定セルモノノ如シ六月二十四日ヨリ七月上旬迄ハ志摩郡沿岸五六哩以上二十五六哩以内ニ於テ潮色ハ黒潮ニ類似スル濃藍色ヲ呈シ方向東流ニシテ潮勢急激ナリ而シテ同潮流内ニハ近年認メタルコトナキ大鱈群ノ游泳セルモノアリ七月中旬ヨリ八月上旬迄ハ西或ハ西南ニ流ル潮流多シ八月中旬以降九月下旬ニ亘リテハ熊野度會志摩沿岸一帶潮色一定セズ方向不同ニシテ漁事殆ントナカリシ

秋刀魚鮪漁業試験

本試験ハ十月二十三日ヨリ翌年三月二十八日ニ至ル百五十七日間紀志勢外洋ニ於テ之ヲ施行セリ

根據地乗組員漁場其他

根據地ハ漁場ノ關係及餌料購入其他必要品供給漁獲物ノ賣却等比較的便利ナルヲ以テ北牟婁郡尾鷲港ヲ根據地トシテ出漁セリト雖トモ天候ノ都合ニヨリテハ他ノ港灣ニ出入セルコト屢々アリ本年ハ十月二十二日總テノ出漁準備ヲ完了シ秋刀魚流網二十一張鮪延繩十四鉢ヲ搭載シ監督技手機關手並ニ同助手各一名其他常備漁夫十名乗組ミ翌二十三日午前九時三十分本場ヲ發シ九木崎ヨリ東南三十七哩附近ノ漁場ニ於テ流網ヲ使用シ翌々二十四日尾鷲ニ入港セリ而シテ漁期間ヲ通シテ熊野海岸即チ東徑百三十五度五十八分ヨリ同百三十七度五十分迄北緯三十三度二分ヨリ三十三度五十七分ニ至ル間ノ海面ヲ漁場トシテ本試験ヲ施行セリ試験期間百五十七日中出漁日數六十一日其他ハ船體修繕伊勢内灣海洋調査及ビ天候ノ都合ニヨリ休漁セリ全期間ノ漁獲高鮪二百四十尾鮫四尾鯉三十一尾及秋刀魚四千六百六十尾合計全額七百六拾四圓貳拾錢五厘ヲ獲タリ

餌料購入

大鮪延繩漁業ニ於テ使用セラル、餌料ハ鮪、飛魚、潤目鰓、秋刀魚及柔魚等ナレドモ就中柔魚ヲ主要トス一般業者ハ九木口尾鷲口及和歌山縣勝浦口ニ於テ柔魚釣漁船ヨリ購入ノ上出漁スルヲ常トス小鮪延繩漁業ニテハ小鮪、潤目鰓、鯉等ヲ使用セル

モ活鯉ヲ主要ナルモノトス

鮪漁業試験

鮪延繩漁業試験ヲ分チテ大鮪延繩漁業ト小鮪延繩漁業ノ二種トス大鮪延繩漁業ハ十一月上旬ヨリ翌年二月上旬ニ至ル間十六回施行セリ其内十回ハ多少ノ漁獲アリシモ六回ハ餌料ノ不良及天候ノ爲メ中止セル等ニ依リ漁獲皆無ナリシ小鮪延繩漁業ハ方言かんだ繩ト稱シびんがしびヲ漁獲スルヲ目的トシ二月中旬ヨリ三月下旬ニ至ル間十五回試験ヲ施行セリ其内十三回ハ稍漁獲アリシモ二回ハ餌料惡シキ爲メ漁獲皆無ナリシ左ニ出漁狀況ノ大要ヲ掲グ

出漁ノ狀況

十一月五日午前一時三十分尾鷲發出漁九木崎ヨリ東南二十八哩附近ニ於テ鮪延繩漁業試験ヲ行ヒめばち鮪一尾ヲ漁獲セリ夜ニ入り西北西ニ進ムコト一時間ニシテ秋刀魚流網ヲ施行シ午後十二時ヨリ同沖合ニ漂泊セリ  
十一月六日午前五時四十分ヨリ午後四時三十分迄ニ鮪延繩漁業試験ヲ終へめばち鮪一尾眞鮪三尾ヲ釣獲シ午後十時三十分尾鷲ニ入港セリ

十一月七日天候ノ都合ニヨリ休漁

十一月八日午前中漁具ヲ乾燥シ午後二時ヨリ秋刀魚流網試験ノ爲メ尾鷲ヲ出帆セシモ潮流急激ノ爲メ流網ヲ中止シ針路ヲ濱島ニ取レリ十一月九日午前九時三十分歸場セリ

十一月十日ヨリ  
三水丸修繕ノ爲メ休漁

十二月二日迄

十二月三日午後一時十五分本場發出帆鮪漁業用餌料購入ノ爲メ午後六時十分根據地タル尾鷲ニ入港セリ

十二月四日天候ノ都合ニヨリ休漁

十二月五日餌料缺乏ノ爲メ尾鷲ニ休泊

十二月六日午前一時尾鷲發出漁九木崎ヨリ東南三十六湮附近ニ於テ秋刀魚群ノ鮪ニ追ハルヲ認メシヲ以テ機關ヲ停止シ投縄ヲ終ヘシガ日中波浪高ク作業容易ナラザリシモ夜ニ入り海上平穩トナリシヲ以テ同沖合ニ漂泊セリ當日鮪鮫各五尾ヲ漁獲セリ

十二月七日午前二時ヨリ同六時迄九木崎ヨリ東南三十二湮附近ニ於テ秋刀魚流網ヲ投シ僅四十尾ヲ捕獲セシヲ以テ鮪延繩ノ餌料トナシ東北ニ進ムコト一時間半ニシテ九木崎ヨリ東南東三十八湮ノ沖合ニ達シ鮪延繩ヲ使用シ鮪三尾ヲ釣獲シ午後八時ヨリ針路ヲ尾鷲ニ向ケタリ

十二月八日午前一時二十分尾鷲ニ入港セリ本日漁具乾燥及ヒ漁獲物賣却ノ爲メ尾鷲ニ碇泊セリ

十二月九日午前一時尾鷲發出漁九木崎ヨリ東南東南二十五湮附近ニテ投縄ヲナセシモ漁獲皆無ナリ其附近ニテ鮪漁船數隻ヲ認メタリ揚縄ノ後二時間九木崎ニ針路ヲ向ケ十二三湮附近ニテ秋刀魚流網漁業試験ヲ行ヒ百四十三尾ヲ捕獲セシモ鮪延繩餌料ノ爲メ捕獲セリ

十二月十日午前四時五十分尾鷲ニ入港シ漁具ヲ乾燥セリ

十二月十一日午前二時三十分尾鷲發出九木崎ヨリ東南東南二十九湮附近ニ於テ秋刀魚群ノ鮪ニ追ハルヲ認メシヲ以テ延繩ヲ延ヘシガ漁獲皆無ナリ夜ハ風波共ニ平穩トナリ秋刀魚流網ヲ使用シ九十四尾ヲ捕獲シ擴藏シテ鮪延繩餌料ニ使用セリ

十二月十二日午前六時三十分歸場シ漁具ヲ乾燥セリ

十二月十三日ヨリ

打瀬網調査ノ爲メ休漁セリ

十二月十七日迄

十二月十八日午後八時餌料購入ノ爲メ本場發尾鷲ニ向ヘリ

十二月十九日午前一時三十分尾鷲ニ入港シ餌料秋刀魚三百尾ヲ購入セリ

十二月二十日午前一時三十分尾鷲發出午前七時桶ヶ崎東南十六湮附近ノ漁場ニ達シ直チニ投縄ヲ終ヘ鮪六尾ヲ漁獲セシガ西軟風ノ爲メ海上平穩ナリシヲ以テ機關ヲ停止シ帆走ニテ針路ヲ東南東ニ取レリ

十二月二十一日午前六時大王崎ヨリ南南東九十一湮附近ニ達シ投縄ヲ行ヒシガ漸次西北ノ風力増大トナリ天候險惡ノ虞レアリシヲ以テ平日ヨリ揚縄ヲ早メ歸港ノ途ニ付ク

十二月二十二日午後四時尾鷲ニ歸港セリ

十二月二十三日餌料缺乏ニ付休漁シ漁具ヲ乾燥セリ

十二月二十四日午前一時四十五分尾鷲港發九木崎ヨリ東南三十三湮附近ノ漁場ニテ投縄セシガ風力強カラザレドモ波浪高ク作業容易ナラズ此日鮪一尾ヲ漁獲セリ

十二月二十五日午前一時五十分尾鷲ニ歸港シテ漁具ヲ乾燥セリ

十二月二十六日午前九時三十分場務ノ爲メ尾鷲發午後二時十分歸場セリ

十二月二十七日場務ノ都合ニヨリ休漁

十二月二十八日午後一時本場發餌料購入ノ爲メ午後六時尾鷲ニ入港セリ

十二月二十九日午前二時尾鷲發餌料購入ノ爲メ午後三時三十分勝浦ニ入港セリ

十二月三十日午前二時三十分勝浦發棍取崎ヨリ南方二十一湮附近ノ漁場ニテ投縄セシガ天候險惡ノ兆アリシ爲メ午後三時揚縄ヲ終ヘ勝浦ニ針路ヲ取リタリ當日鮪十尾ヲ漁獲シ午後七時入港セリ

十二月三十一日天候ノ都合ニヨリ勝浦ニ碇泊セリ

一月一日餌料缺乏ノ爲メ休泊セリ

一月二日午前二時五十分勝浦發棍取崎ヨリ東北東十八湮附近ニ投縄セシモ漸次西風増大シ波浪高マリシヲ以テ午後〇時三十分揚縄ヲ終ヘ午後三時三十分尾鷲ニ入港セリ

一月三日天候險惡ニ付キ尾鷲港ニ休泊セリ  
 一月四日同上  
 一月五日午前一時三十分尾鷲發御座崎ヨリ南方五十二哩附近ニ於テ投繩ヲ行ヒ鮪二尾ヲ漁獲シ機關ヲ停止シ帆走ニテ針路ヲ濱島ニ取レリ  
 一月六日黑森南方十二哩附近ヨリ機關ヲ始動シ午後七時歸場セリ  
 一月七日天候ノ都合ニヨリ休漁  
 一月八日同前  
 一月九日ヨリ一月十三日迄伊勢内海海洋調査ノ爲メ休漁セリ  
 一月十四日天候ノ都合ニヨリ休漁セリ  
 一月十五日午前十時本場發餌料購入ノ爲メ午後三時二十分尾鷲ニ廻港セリ  
 一月十六日塙務ノ都合ニヨリ午前四時尾鷲發午前九時二十分歸場セリ  
 一月十七日午後九時二十分餌料購入ノ爲メ本場發尾鷲ニ向ヘリ  
 一月十八日午前三時尾鷲ニ入港セリ  
 一月十九日餌料購入ノ爲メ午後十時尾鷲ヲ發シ勝浦ニ向ヘリ  
 一月二十日午前六時三十分勝浦ニ入港シ餌料生鱈三百五十尾ヲ購入セリ  
 一月二十一日午前一時三十分勝浦發梶取崎ヨリ東微南三十五哩附近ニ投繩ヲ終ヘシモ天候險惡ノ兆アリシ爲メ平日ヨリ揚繩ヲ早メ針路ヲ勝浦ニ取レリ當日漁獲一尾モナシ  
 一月二十二日午前八時二十五分勝浦ニ入港シ漁具ヲ乾燥セリ  
 一月二十三日午前一時勝浦發三木崎ヨリ南微東二十五哩ノ漁場ニ達セシモ西風強大トナリ波浪高ク船體動搖甚ダシカリシヲ以

テ漁業ヲ中止シ午後二時四十分尾鷲ニ入港セリ  
 一月二十四日天候ノ都合ニヨリ休漁セリ  
 一月二十五日塙務ノ都合ニヨリ午前八時五十分尾鷲ヲ出帆シ午後二時三十分歸場セリ  
 一月二十六日塙務ノ都合ニヨリ休漁セリ  
 一月二十七日同上  
 一月二十八日同上  
 一月二十九日午後一時本場發餌料購入ノ爲メ午後六時二十分尾鷲ニ入港セリ  
 一月三十日午前一時尾鷲發桃頭島ヨリ東南三十八哩附近ノ漁場ニ於テ延繩全部ノ投繩ヲ終ヘ鮪四尾ヲ漁獲セシモ海上平穩ニシテ餌料殘餘アリシ爲メ同沖合ヘ漂泊セリ  
 一月三十一日桃頭島ヨリ南南東四十三哩附近ニ投繩セシモ漁獲ナシ昨日ハ潮流東南流ナリシモ當日ハ西南流ニシテ潮勢緩ナリ  
 二月一日午前一時四十分尾鷲ニ入港シ漁獲物ヲ賣却セリ  
 二月二日午前十一時餌料購入ノ爲メ尾鷲ヲ拔錨シ午後六時勝浦ニ入港セリ  
 二月三日午前一時勝浦發九木崎ヨリ南方十九哩附近ノ漁場ニ投繩セシモ漁獲ナク午後七時針路ヲ勝浦ニ取レリ  
 二月四日午前一時勝浦ニ投錨シ漁具ヲ乾燥セリ  
 二月五日午前〇時十分勝浦發梶取崎ヨリ東南六哩ノ沖合ニ出漁セシモ天候險惡ノ爲メ漁業ヲ中止シ午前二時勝浦ニ引返セリ  
 二月六日午後一時二十分勝浦發餌料購入ノ爲メ午後七時二十分尾鷲ニ投錨セリ  
 二月七日餌料缺乏ニ付キ尾鷲ニ碇泊休漁セリ  
 二月八日天候ノ都合ニヨリ休漁セリ

二月九日餌料缺乏ノ爲メ休漁セリ

二月十日小鮪延繩準備ノ爲メ午前十時十分尾鷲發午午後三時四十分歸場セリ

二月十一日小鮪延繩準備ノ爲メ休漁セリ

二月十二日餌料購入ノ爲メ午後八時三十分本場發尾鷲ニ向ヘリ

二月十三日午前二時二十分尾鷲ニ廻航セリ

二月十四日午前一時二十分尾鷲發午前十一時三十分桃頭島ヨリ東南五十八哩附近ニ達シ小鮪延繩ヲ投シとんぼ鮪九尾ヲ釣獲シ

而シテ此日海上平穩ニシテ餌料ノ殘餘アリシヲ以テ同沖合ニ漂泊セリ

二月十五日殘餘ノ餌料ヲ以テ昨日ノ漁場ヨリ稍南方ニ於テ小鮪延繩全部ヲ延下シ午後七時四十分揚繩ヲ終ヘとんぼ鮪十五尾ヲ

漁獲シ針路ヲ尾鷲ニ向ケタリ

三月十六日午前六時三十五分尾鷲ニ歸港シ漁獲物ヲ陸揚賣却ス

二月十七日餌料缺乏ノ爲メ休漁セシモ午後十時頃生鰹一籠ヲ購入シ明日ノ出漁準備ニ着手セリ

二月十八日午前二時根據地タル尾鷲拔錨午前八時九鬼崎ヨリ南南東四十哩ノ漁場ニ達シ直チニ投繩セシモ風力強ク波浪高クシ

テポート作業困難ナリシヲ以テ本船作業ノミニテとんぼ鮪六尾水鮫一尾ヲ漁獲セリ午後四時頃漁場附近ニテ鮪ニ追ハル、

秋刀魚群ヲ認ム

二月十九日午前一時尾鷲ニ投錨シ昨日ノ漁獲物ヲ賣却ス本日餌料缺乏ノ爲メ休漁セシモ午後三時頃活鰹二籠ヲ購入シ翌日ノ出

漁準備ニ着手セリ

二月二十日天候ノ都合ニヨリ休泊セリ

二月二十一日同上

二月二十二日同上

二月二十三日同上

二月二十四日同上

二月二十四日雨天ニ拘ラズ午前五時尾鷲發午前十時三木崎ヨリ南南東二十哩附近ニ達シ鮪ニ追ハル、秋刀魚群ヲ認メシヲ以テ

直チニ同所ニ投繩シとんぼ鮪二十尾水鮫一尾ヲ漁獲セリ而シテ本日海上平穩ナリシヲ以テ同沖合ニ漂泊セリ

二月二十五日殘餘ノ活鰹ヲ餌料トシテ昨日ノ漁場ヨリ稍西方ニ於テ小鮪延繩ヲ全部延下シ午後五時三十分揚繩ヲ終ヘとんぼ鮪

七尾ヲ釣獲シ午後十時二十分尾鷲ニ歸港セリ本日モ午後三時頃同漁場附近ニテ鮪ニ追ハル、秋刀魚群ヲ認ム

二月二十六日漁具乾燥修理ノ爲メ休漁セリ

二月二十七日餌料缺乏ノ爲メ休漁セルモ午後二時頃活鰹及生鰹一籠宛ヲ購入シ翌日ノ出漁準備ニ着手セリ

二月二十八日午前二時五十分根據地タル尾鷲發出漁午前八時二十分九鬼崎ヨリ東南微南二十七哩附近ノ漁場ニ達シ潮色非常ニ

良シク加フルニ鳥群游飛セルヲ以テ小鮪延繩全部ヲ延下シとんぼ鮪四十二尾水鮫一尾ヲ漁獲シ其中とんぼ鮪十一尾ハ竿釣

ス本日海上平穩ニシテ殘餘ノ鰹アリシヲ以テ同沖合ニ漂泊セリ

三月一日昨夜十時頃ヨリ潮流急激トナリシタメ午前六時頃ハ遠ク御座崎ノ南方十二哩ノ沖合ニ流下セラレ午後六時四十分揚繩

ヲ終ヘ鮪三十九尾鯉一尾ヲ漁獲ス此中鮪二十二尾出會ヒ鮪群ニシテ竿釣シ濱島ニ向ケ針路ヲ取ル

三月二日午前四時四十分歸場シ一昨日及ヒ昨日ノ漁獲物ヲ陸揚賣却シ漁具乾燥セリ

三月三日天候ノ都合ニヨリ休漁ス

三月四日午前二時本場發九鬼崎ヨリ東南三十四哩附近ノ漁場ニ達シ鯉群ノ游泳セルモノヲ認メ直チニ餌ヒ付ケ四尾ヲ竿釣シ午

后一時ヨリ同漁場附近ニ小鮪延繩ヲ延下シ午後八時揚繩後同沖合ニ漂泊セリ此日鮪七尾鯉六尾ヲ漁獲セリ

三月五日昨夜揚繩後間モナク潮流東方ニ變シ潮勢急激トナリシタメ午前六時半頃ハ遠ク大王崎ヨリ東南六十四哩ノ沖合ニ流下

セラレ正午頃出會ヒ鯉ニ遭遇シ直チニ餌付ケ九尾ヲ竿釣シ午後六時四十分揚繩終了後鮪二十尾鯉二十二尾及鮫一尾ヲ漁獲

ノ上針路ヲ濱島ニ取レリ  
 三月六日午前八時二十分歸場シ一昨日及昨日ノ漁獲物陸揚後漁具ヲ乾燥修理シ午後二時頃活鰻二籠ヲ購入シ翌日ノ出漁手配ニ着手セリ  
 三月七日天候ノ都合ニヨリ濱島ニ休泊セリ  
 三月八日同上  
 三月九日同上  
 三月十日午前七時三十分本場發九鬼崎ヨリ東南二十哩附近ニ鮪延繩全部ヲ延下セシモ北風増大シ波浪高クボート作業困難ナリ午後二時三十分揚繩ヲ終了シ鮪三尾ヲ漁獲シ午後七時二十分尾鰻ニ歸港セリ  
 三月十一日天候ノ都合ニヨリ尾鰻ニ休泊セリ  
 三月十二日同上  
 三月十三日同上  
 三月十四日午後十一時二十分尾鰻拔錨漁場ニ向ヘリ  
 三月十五日午前七時九鬼崎ヨリ東南四十二哩附近ノ漁場ニ達シ直チニ投繩セリ午前中ノ風力強大ニシテ波浪高クボート作業困難ナリシモ正午頃ヨリ風力減退シ海上平穩トナリシヲ以テボート作業ヲナス此日ごんば鮪二十一尾ヲ漁獲シ同沖合ニ漂泊セリ  
 三月十六日殘餘ノ鰻ヲ餌料トシ昨日ノ漁場ヨリ稍々南方ニ於テ小鮪延繩全部ヲ延下シ午後六時五十分揚繩ヲ終ヘシモ其間東北流ノ潮勢急ナリシタメ漁業中止延繩ヲ二回切斷セラル、モ搜索ノ結果午後二時頃發見シタリ此日鮪十一尾經三尾ヲ漁獲シ尾鰻ニ向ケ針路ヲ取レリ  
 三月十七日午前三時五十分尾鰻ニ歸港シ昨日ノ漁獲物ヲ陸揚賣却ス本日尾鰻灣内ニ赤潮發生セシヲ以テ採集ノ爲メ休漁セリ

三月十八日午前九時二十分場務ノ爲メ尾鰻發午後三時二十分歸場セリ  
 三月十九日場務ノ都合ニヨリ休漁セリ  
 三月二十日同上  
 三月二十一日同上  
 三月二十二日同上  
 三月二十三日雨天ニ拘ラズ午前一時本場發午前九時頃黒森ヨリ南方四十五哩附近ノ漁場ニ達シ投繩ヲ終了セルヤ東南風増大シ波浪高ク加フニ豪雨甚ダシキヲ以テ平日ヨリ揚繩ヲ早メごんば鮪二尾ヲ漁獲シ歸場ノ途ニツキシガ午後九時半機關ニ故障アリシモ約三十分ニシテ修理セリ  
 三月二十四日午前五時三十分歸場シ漁獲物ヲ陸揚賣却シ其後ハ漁具ヲ乾燥セリ  
 三月二十五日天候ノ都合ニヨリ休泊セリ  
 三月二十六日午前四時本場發御座崎ヨリ南微西二十哩附近ニ出漁セルモ天候險惡ニツキ漁業ヲ中止シ午後四時四十分歸場セリ  
 三月二十七日午前一時本場發御座崎ヨリ南微西十二哩附近ノ漁場ニ達シ小鮪延繩全部ヲ延下シタルモ漁獲ナク本日海上平穩ナリシヲ以テ午後七時半ヨリ「ステイスル」一枚ニテ針路ヲ南々東ニ取レリ  
 三月二十八日殘餘ノ餌料ヲ使用シテ昨日ヨリ南々西二十四哩附近ノ漁場ニ於テ延繩ヲ延下セシモ潮流急激ナリシヲ以テ延繩ヲ緊張シ其上餌料惡シキ爲メ漁獲ナク午後五時ヨリ濱島ニ向ケテ針路ヲ取レリ  
 三月二十九日午前五時三十分歸場シ漁具ヲ乾燥修理ス  
 今茲ニ本年度三水丸ノ出漁セル前漁場ノ位置並ニ潮流水温比重等ニ付其概況ヲ表示セバ次ノ如シ

漁 業 表

三 水 丸

十二月十四日	十二月三日	十一月卅一日	十一月三十日	十一月廿一日	十一月五日	十一月二日	十二月三十日	十二月廿四日	十二月
0. B	2. B	1. B	1. B	0. B	10. C	4. B	10. R	4. B	
1. W	2. N	2. NNW	2. SW	4. NW	3. NW	4. W	3. W	2. NW	
レ	タ	ヨ	カ	ワ	ヲ	ル	ヌ	リ	
自午前八時三分 至午后八時三分	自午前八時 至午后七時	自午前八時三分 至午后七時十分	自午前八時 至午后七時	自午前八時 至午后二時三分	自午前九時 至午后七時	自午前七時 至午后〇時三分	自午前六時三分 至午后七時三分	自午前六時三分 至午后七時三分	自午前六時三分 至午后七時三分
志摩郡桃頭島 東南 五十八湊	北牟婁郡九木崎 南方 十九湊	南牟婁郡四十二湊 上	北牟婁郡桃頭島 東南 三十八湊	東牟婁郡梶取崎 東方 三十五湊	志摩郡御座崎 南方 五十二湊	同 東北東 十八湊	東牟婁郡梶取崎 南方 二十一湊	北牟婁郡九木崎 東南 三十三湊	北牟婁郡九木崎 東南 三十三湊
14.5	15.5	16.0	15.5	14.5	17.5	18.5	18.5	17.0	
1.0264	1.0260	1.0256	1.0258	1.0252	1.0258	1.0248	1.0254	1.0258	
SE 緩活生 鰯	NW 緩生 鰯	SW 緩同	SE 緩柔 魚	SW 急生柔 鰯	NW 緩同 鰯	同 柔魚	E 急柔 鰯	同 鰯	
ト ン ボ			ト ン ボ		鰯		メ バ チ	メ バ チ	
九 六、 〇〇〇			四 四、 〇〇〇		二 二、 〇〇〇		一 五、 〇〇〇	一 六、 五〇〇	
六、 三九〇			一 六、 〇〇〇		二 七、 〇〇〇		五 九、 二〇〇	五、 七〇〇	
二時之レヲ發見	延シテ一部切斷	獲ナシ	餌料悪シキ爲メ カ附近ニテ鰯群 ノ游泳セルモ漁	揚繩終了後歸港 ノ途ニツク	揚繩終了後海ト 沖合ニ漂泊セリ	天候急變シタル ヲ以テ早メ歸途 ニツク	風波共ニ高ク船 體動搖シテ作業 容易ナラス	餌料悪シキ爲メ カ漁群ノ割合ニ 漁獲少ナシ	午前十一時四十分 附近ニ於テ秋 刀魚群ノ游泳セ ルヲ認ム

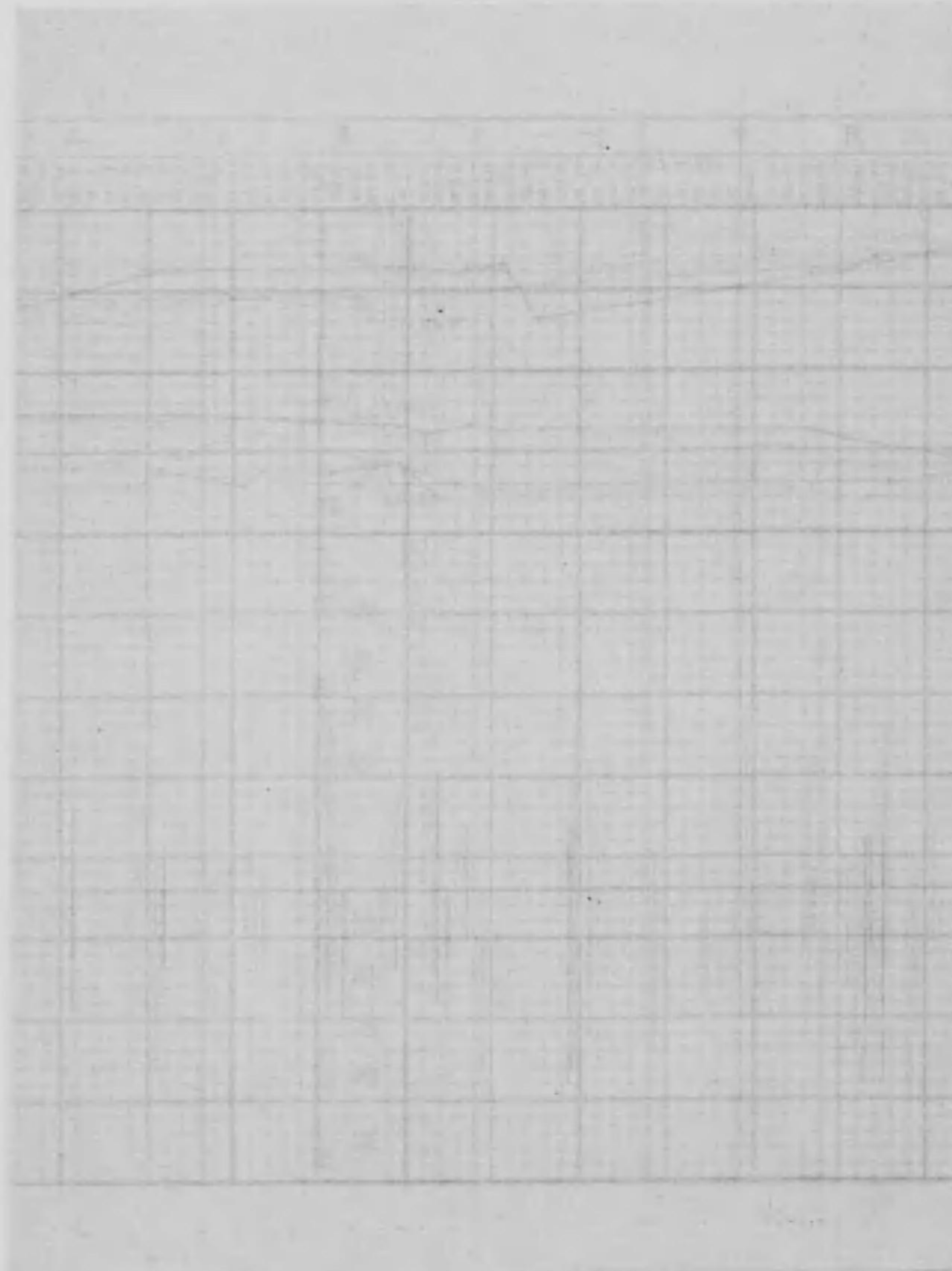
十二月廿一日	十二月二十日	十二月十一日	十二月九日	十二月七日	十二月六日	十一月六日	十一月五日	十一月	月日
10. C	0. B	1. B	0. B	2. B	2. B	10. C	0. B		天候風向漁場
1. NW	1. W	1. S	1. E	1. NNE	2. W	2. NEN	3. N		雨量風力符號
チ	ト	ハ	ホ	ニ	ハ	ロ	イ		漁具使用時
自午前六時三分 至午后二時三分	自午前七時 至午后六時四分	自午前七時 至午后七時	自午前七時四分 至午后七時四分	自午前七時三分 至午后七時四分	自午前八時 至同 八時	自午前七時 至午后三十分	自午前七時三分 至午后七時	自午前七時三分 至午后七時	漁場
志摩郡大王崎 南牟婁郡九十一湊	志摩郡大王崎 東南 十六湊	同 二十九湊	同 東南 二十五湊	同 南牟婁郡三十七湊	同 三十六湊	同 三十湊	北牟婁郡九木崎 東南 二十八湊	北牟婁郡九木崎 東南 二十八湊	水温
8.5	18.0	19.5	19.0	17.5	18.5	21.2	21.2		比重
1.0252	1.0254	1.0252	1.0254	1.0250	1.0250	1.0244	1.0250		潮向
E 急同	W 緩同	NW 緩同	W 緩秋刀魚	NE 急同	SE 緩生 鰯	SW 緩同	E 緩秋刀魚		餌料
ト ン ボ	ト ン ボ			ト ン ボ	サ ト メ メ ボ チ	鰯	鰯		捕魚
一 一 六、 二〇〇	一 五 九、 五〇〇			三 五、 五〇〇	五 三、 〇〇〇	五 四、 五〇〇	一 四、 五〇〇		捕魚 均重量
一〇、 八〇〇	五 九、 七〇〇			四 七、 九〇〇	一 七、 五〇〇		三 五、 〇〇〇		價格
メ 日 ヨ リ 揚 繩 ヲ 途 ニ 付	ナ リ シ 揚 繩 ヲ 途 ニ 付	波 浪 高 ク 船 雲 動 ナ ラ ズ	直 チ ニ 修 理 セ リ	午 前 十 時 頃 機 關 ニ 故 障 アリ シ モ	揚 繩 後 針 路 ヲ 尾 鰲 ニ 取 レ リ	海 上 平 穩 ニ シ テ 作 業 容 易 ナル ヲ 以 テ 沖 合 ニ 漂 泊 セ リ	午 后 三 時 頃 秋 刀 魚 群 ノ 游 泳 セル ヲ 認 ム		摘 要

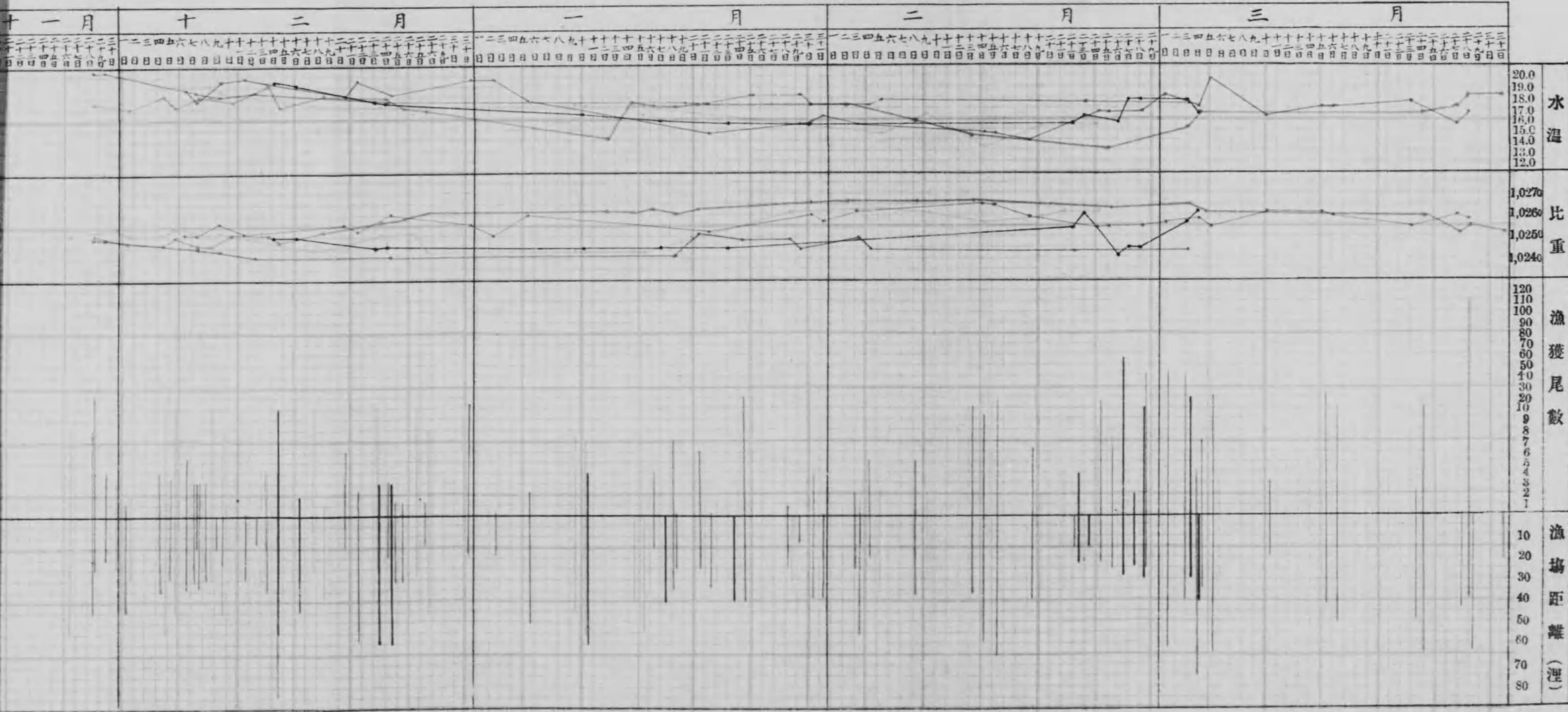


二月十五日	二月十八日	二月廿四日	二月廿五日	二月廿八日	三月一日	三月三日	三月四日	三月五日	三月十日
0. B	10. C	9. C	10. C	8. C	0. B	0. B	0. B	0. B	10. C
1. NNW	3. N	1. NW	1. N	1. N	1. NEE	1. N	1. N	1. S	3. N
ソ	ツ	子	ナ	ラ	ム	ウ	ノ	ク	ク
自午前六時四十分志摩郡九木崎 至午后七時四十分 六十一哩	自午前八時十分同 至午后四時十分同 四十一哩	自午前十一時同 至午后八時十分南南東二十一哩	自午前六時十分南牟婁郡木ノ本 至午后五時十分東南二十六哩	自午前八時十分北牟婁郡九木崎 至午后八時十分同 二十七哩	自午前六時十分志摩郡御座崎 至午后六時十分南方六十二哩	自午后一時 至同八時 北牟婁郡九木崎 東南三十四哩	自午前六時廿分北牟婁郡大王崎 至午后六時四十分 六十四哩	自午前十時十分北牟婁郡九木崎 至午后二時十分同 二十哩	自午前六時四十分志摩郡九木崎 至午后七時四十分 六十一哩
14.5	13.8	16.5	16.5	17.0	18.0	17.0	19.5	16.0	14.5
1.0264	1.0258	1.0254	1.0254	1.0254	1.0256	1.0258	1.0254	1.0262	1.0264
同	W 緩活	NW 緩生	同	E 急活	E 急同	W 緩同	E 急同	NE 緩同	同
同	鯷	鯷	同	鯷	同	同	同	同	同
同	サトメ	サトメ	同	サトメ	カトメ	カトメ	カトメ	サトメ	同
一五六、〇〇〇	一六五、〇〇〇	二〇四、〇〇〇	一七四、〇〇〇	四三、二〇〇	三九、三〇〇	六七、一〇〇	二〇三、〇〇〇	三、五〇〇	一五六、〇〇〇
一五、九〇〇	一五、九〇〇	七〇、二〇〇	七〇、二〇〇	一五、七〇〇	一五、七〇〇	七九、九〇〇	七九、九〇〇	六、四〇〇	一五、九〇〇
午前十五尾ヲ 釣獲セルモ午後 漁獲ナシ	風波強クボート 作業容易ナラズ	雨天ニ拘ラズ出漁セ ルモ午後海七平穩ト ナリシヲ以テ沖合ニ 漂泊セリ	沖合作業中秋刀 魚群ノ跡ニ追尾 セラル、モノヲ 見ム	當日漁獲中鮪十 一尾ハ竿釣セリ	當日漁獲中鮪二 十二尾ヲ竿釣セ リ	午前中搜索セル モ魚群ヲ認めズ 午後八時頃ヨリ 沖合ニ漂泊セリ	當日漁獲中鮪十 四尾ヲ竿釣セリ	風波共ニ強ク船 體動搖甚シキ爲 メ作業容易ナラ ズ	午前中十五尾ヲ 釣獲セルモ午後 漁獲ナシ

鮪漁業試験已往五ヶ年間水温比重及漁獲一覽表

(比重ハ換算セ入)

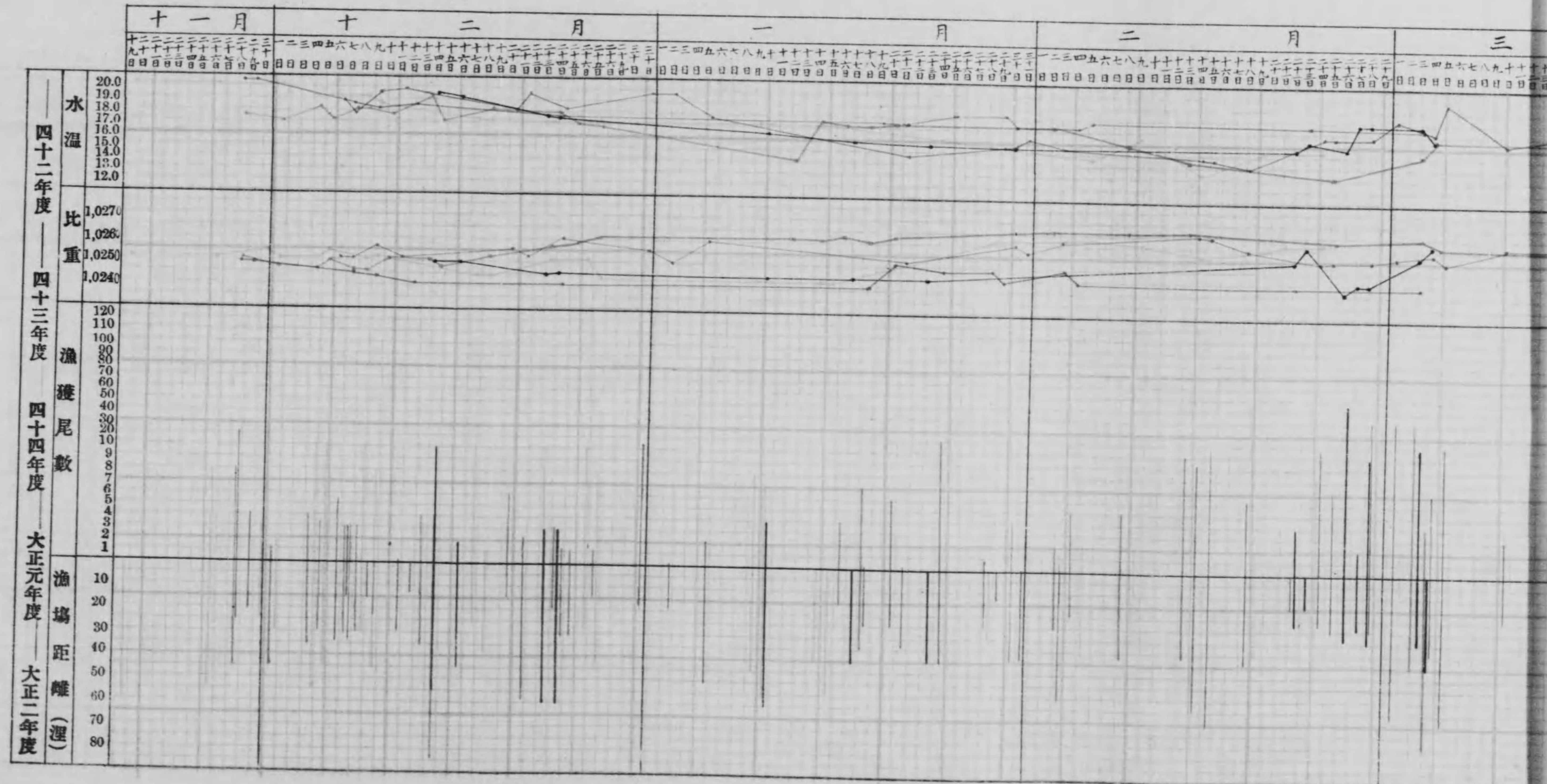




鮎漁業試験已往五年間水温比重及漁獲一覽表

(比重ハ換算セズ)

十一月	十二月	一月	二月	三月
10-C	0-B	0-B	0-B	0-B
3-N	1-S	1-N	1-N	1-N
ク	ノ	ウ		
自午前十時三十分 至午後二時三十分	自午前六時三十分 至午後六時三十分	自午前八時 至午後一時	自午前六時三十分 至午後六時三十分	自午前六時三十分 至午後六時三十分
北牟婁郡九木崎 六十四哩	北牟婁郡大王崎 六十四哩	北牟婁郡九木崎 三十四哩	北牟婁郡九木崎 六十二哩	北牟婁郡九木崎 六十二哩
16.0	19.5	17.0		
1.0262	1.0254	1.0258		
NE 緩同	E 急同	W 緩同		
トンボ	サカ ツメ	カ ンボ	カ ンボ	カ ンボ
三三、五〇〇	二二、〇〇〇 一一、〇〇〇	六六、三〇〇 一一、〇〇〇	七九、九三三	
六、五〇〇	七九、九三三			
風波共ニ強ク 船ヲ揺ルナキ メ作業容易ナラ	當日漁獲中 四尾ヲ釣セリ	午前八時頃 沖合ニ漂泊セリ	午前中搜索セル 魚群ヲ見メズ	

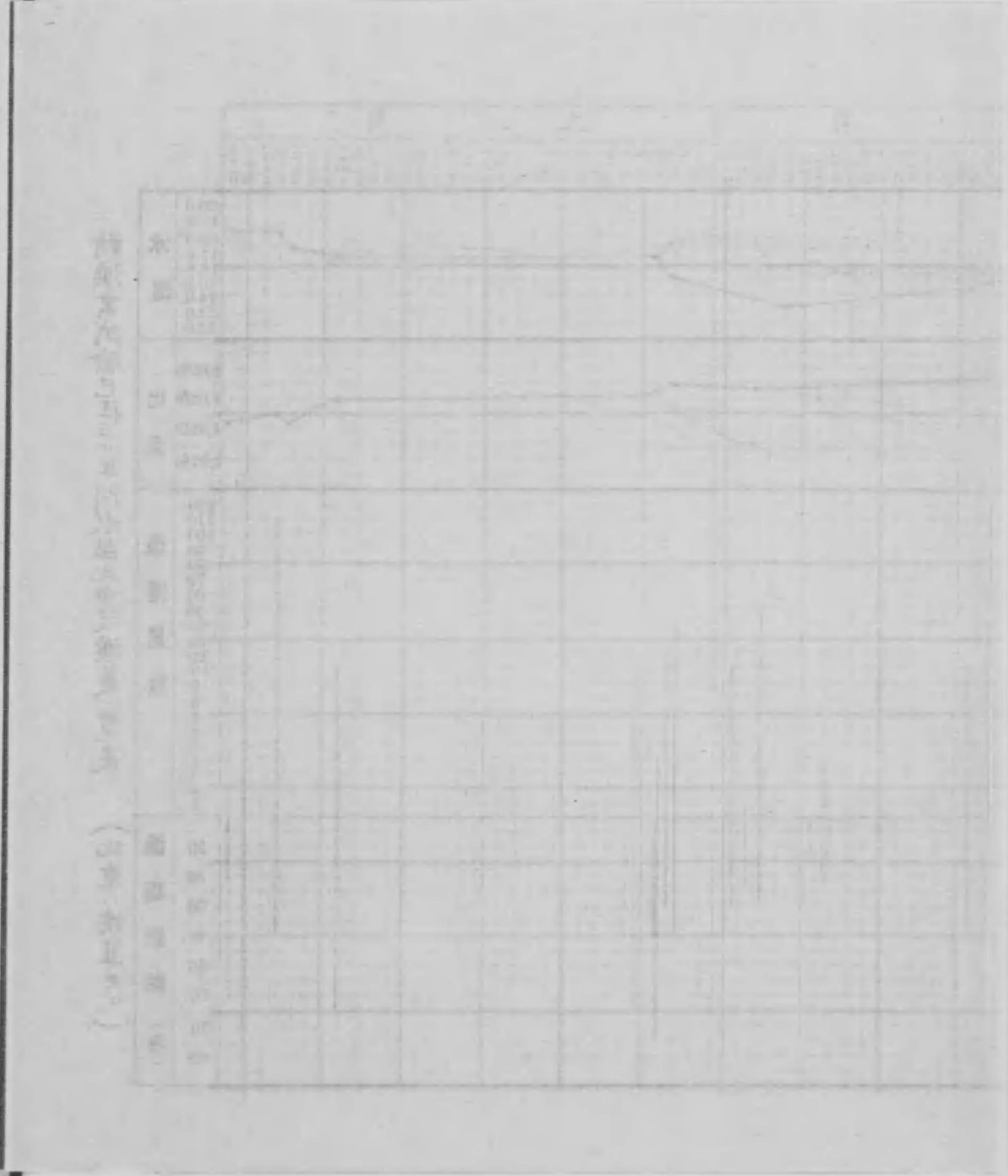


四十二年度  
 四十三年度  
 四十四年度  
 大正元年度  
 大正二年度

秋刀魚流網漁業試験

三月十五日	三月十六日	三月廿三日	三月廿七日	三月廿八日
2. B	3. B	10. R	0. B	0. B
3. W	3. SW	2. E	1. N	1. W
ヤ	マ	ケ	フ	コ
自午前七時	自午前十一時	自午前九時十分	自午前八時	自午前七時
至午後七時三十分	至午後六時三十分	至午後六時三十分	至午後七時三十分	至午後四時五十分
同	同	同	同	同
四十二湊	四十八湊	四十八湊	南微西四十二湊	南微東六十四湊
上	上	上	上	上
17.0	17.0	17.5	15.5	16.5
1-0262	1-0258	1-0254	1-0260	1-0258
W緩同	NE急同	W緩同	SE緩同	E急同
トンボ	カトンボ	トンボ		
ニ	ニ	ニ		
二、八〇〇	三、一〇〇〇	三、〇〇〇		
	南、五〇〇	三、三〇〇		
作業中延繩ニケ 所切斷セルモ直 チニ發見セリ	風波共ニ強ク船 體動搖甚シ	雨天ニ拘ラズ出 漁シ作業中機關 ニ故障アリ	沖合潮色悪シキ爲メ カ一尾ノ漁獲モナク 午後八時揚網後深泊 セリ	同上

本試験ハ鮪延繩漁業ノ傍ラ施行セルモノニシテ本年ハ昨年ニ比シ概ネ日没後ノ風力強カラズ從ツテ流網ヲ使用セル機會モ稍多ク十月中旬ヨリ熊野海岸ニ於テ秋刀魚ノ游飛セルモノヲ時々認メタルヲ以テ十月下旬ヨリ該試験ニ着手シ十一月三日北牟婁郡九木崎ヨリ東南二十一湊沖合ニ於テ三千八十尾ヲ漁獲セリ之レヲ本年當地方ニ於ケル秋刀魚ノ初漁トス之レニ依ツテ地方當業者モ直チニ出漁準備ニ取掛レリ而シテ十一月下旬頃ヨリ魚體小トナリ且ツ試験ニ使用セル網目ハ全部一寸一分目ナルヲ以テ之レガ捕獲ニ適セズ爾後十二月十一日ニ至ル間六回使用シ少量ノ漁獲アリシモ殆ト鮪延繩ノ餌料ニ使用セルニ過キズシテ充分ナル試験ヲナスコト能ハザリシハ遺憾ナリ此間秋刀魚四千六百六十尾金額四拾六圓九拾四錢ヲ獲タリ左ニ出漁狀況ノ大要ヲ揚グ



出 漁 ノ 状 況

十月二十三日 午前九時五十分本場發御座崎ヨリ針路ヲ南微東ニ取り午後五時三十分九鬼崎ヨリ東南三十七哩附近ノ漁場ニ於テ秋刀魚流網十二張ヲ使用セシモ潮流急ニシテ波浪大ナリシ爲メ流網四張ヲ流失ス翌朝搜索準備ノ爲メ同沖合ニ歸野セリ

十月二十四日 日出後同沖合ニ於テ流失セシ網ヲ搜索セルモ北ノ風力増大シ波浪高ク搜索困難ナリシヲ以テ針路ヲ尾鷲ニ取り午後六時半歸港セリ

十月二十五日 流失網搜索ノ爲メ午前八時尾鷲ヲ出帆シ流失セシ海面附近ヨリ潮下二十哩位ヲ搜索セシモ發見セズ午後五時頃九鬼崎東南四十八哩附近ニ於テ秋刀魚群ヲ認メシヲ以テ秋刀魚流網九張ヲ使用シタルモ漁獲ナク午後九時歸場ノ途ニツキタリ

十月二十六日 午前六時歸場シテ流網ヲ乾燥修理セリ

十月二十七日 天候ノ都合ニヨリ休泊セリ

十月二十八日 同上

十月二十九日 午前十一時本場發午後五時十分御座崎ヨリ南方二十七哩附近ノ海面ニ流網十三張ヲ投下セシモ一尾ノ漁獲モナク機關ヲ停止シテ帆走ニテ針路ヲ北ニ取レリ

十月三十日 午前九時三十分赤潮調査ノ爲メ度會郡南海村字相賀ニ寄港シ午後二十分歸場セリ

十月三十一日 天長節及天候ノ都合ニヨリ休漁セリ

十一月一日 塲務ノ都合ニヨリ休漁セリ

十一月二日 同上

十一月三日 同上

十一月四日 午前九時五十分本場發帆走ニテ御座崎ヨリ針路ヲ南々西ニ取り秋刀魚群ヲ搜索セルモ發見セズ午後五時半九鬼崎

ヨリ東南微東二十一哩附近ノ地点ニ十三張投網シ翌四日午前六時三十分揚網終了秋刀魚三千〇八十尾ヲ漁獲シ午前十一時尾鷲ニ歸港シ漁獲物ヲ陸揚賣却ス當日漁獲ハ本年初漁ニシテ本縣沿岸秋刀魚漁船準備ニ着手セリ

十一月五日 午前一時三十五分尾鷲發晝間ハ鮪延繩ヲ延下シ午後五時半頃ヨリ九鬼崎ノ東南微南二十五哩ノ漁場ニ於テ流網十張リ使用シ秋刀魚一千百三十尾ヲ漁獲シ(内二百尾ハ鮪延繩ノ餌料ニ使用ス)同沖合ニ漂泊セリ

十一月六日 晝間ハ鮪延繩ヲ延下シ午後五時四十分昨日ノ漁場ヨリ稍東方ニ於テ鮪延繩ヲ延下シ海上平穩ナリシヲ以テ午後五時四十分頃同漁場ニ秋刀魚流網十張投網シタルモ東南風増大トナリシヲ以テ直チニ揚網ニ着手シ午後十時十分尾鷲ニ歸港セリ

十一月七日 天候ノ都合ニヨリ休漁セリ

十一月八日 午後二時尾鷲發晝間ハ鮪延繩ヲ延下シ午後五時桃頭島ヨリ東南十二哩附近ニ於テ秋刀魚群ヲ認メタルヲ以テ同附近ニ二十四張投網セシカ潮流急ナリシヲ以テ浮標樽海中ニ没シ燈火消失シタル爲メ午後七時揚網終了後同沖合ニ漂泊セリ

十一月九日 夜半ヨリ風力増大シタルヲ以テ朝間詰ノ流網使用困難ニ付キ漁業ヲ中止シ針路ヲ濱島ニ向ケ午前九時半歸場シ漁具ヲ陸揚乾燥及ヒ修繕ニ從事セリ

十一月十日ヨリ十二月五日迄三水丸修繕ノ爲メ休漁セリ

十二月三日 秋刀魚流網及ヒ鮪延繩全部ヲ搭載シ冬季漁業根據地タル尾鷲へ廻航ノ爲メ午後一時五十分本場拔錨午後六時十分尾鷲ニ投錨セリ

十二月四日 天候ノ都合ニヨリ尾鷲ニ休漁セリ

十二月五日 同上

十二月六日 午前一時尾鷲發晝間ハ鮪延繩ヲ使用シタルモ秋刀魚群ヲ認メザリシヲ以テ翌朝間詰ノ投網準備ノ爲メ同沖合ニ漂泊セリ

十月廿九日	十一月三日	十一月六日	十一月九日	十一月十二日	十一月十五日	十一月十八日	十一月廿一日	十一月廿四日	十一月廿七日	十一月三十日	十二月三日	十二月六日	十二月九日	十二月十二日	十二月十五日	十二月十八日	十二月廿一日	十二月廿四日	十二月廿七日	十二月三十日
4. B	0. B	2. B	2. B	3. N	3. N	3. ES	3. ES	1. NNW	1. B	3. B	1. B	1. B	1. B	1. E	1. E	1. E	1. E	1. E	1. E	8. C
3	4	5	6	7	8	9	10	11	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	2
自午前五時十分 至同 七時五十分	自午後五時半 至四日前一時五分	自午後五時十分 至同 十二時	自午後五時十分 至同 六時	自午後五時十分 至同 六時	自午後五時十分 至同 六時	自午後五時十分 至同 六時	自午後五時十分 至同 六時	自午後五時十分 至同 六時	自午後五時十分 至同 六時	自午後五時十分 至同 六時	自午後五時十分 至同 六時	自午後五時十分 至同 六時	自午後五時十分 至同 六時	自午後五時十分 至同 六時	自午後五時十分 至同 六時	自午後五時十分 至同 六時	自午後五時十分 至同 六時	自午後五時十分 至同 六時	自午後五時十分 至同 六時	自午後五時十分 至同 六時
志摩郡 御座崎	北牟婁郡 九木崎	南方 二十七湊	北牟婁郡 九木崎	東南 二十一湊	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二、五、一〇、四 NW	二〇、八一、〇四 同	二、〇、一、〇、四 同	二、七、一、〇、五 E	二、七、一、〇、五 E	二、〇、一、〇、四 同	二、〇、一、〇、四 同	二、〇、一、〇、四 同	二、〇、一、〇、四 同	二、〇、一、〇、四 同	二、〇、一、〇、四 同	二、〇、一、〇、四 同	二、〇、一、〇、四 同	二、〇、一、〇、四 同	二、〇、一、〇、四 同	二、〇、一、〇、四 同	二、〇、一、〇、四 同	二、〇、一、〇、四 同	二、〇、一、〇、四 同	二、〇、一、〇、四 同	二、〇、一、〇、四 同
緩	秋刀魚	同	緩	緩	緩	緩	緩	緩	緩	緩	緩	緩	緩	緩	緩	緩	緩	緩	緩	緩
同	三、〇、〇、三、七、四	九、〇、〇、四、七、六	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同 上	午後十二時迄ニ約二千尾ヲ漁獲セリ	揚網後針路ヲ尾鷲ニトシテ	日中ハ鮪延繩ヲ試験シ夜間ニ入り流網試験ヲナセリ	日中ハ鮪延繩ヲ試験シ夜間ニ入り流網試験ヲナセリ	日中ハ鮪延繩ヲ試験シ夜間ニ入り流網試験ヲナセリ	日中ハ鮪延繩ヲ試験シ夜間ニ入り流網試験ヲナセリ	日中ハ鮪延繩ヲ試験シ夜間ニ入り流網試験ヲナセリ	日中ハ鮪延繩ヲ試験シ夜間ニ入り流網試験ヲナセリ	日中ハ鮪延繩ヲ試験シ夜間ニ入り流網試験ヲナセリ	日中ハ鮪延繩ヲ試験シ夜間ニ入り流網試験ヲナセリ	日中ハ鮪延繩ヲ試験シ夜間ニ入り流網試験ヲナセリ	日中ハ鮪延繩ヲ試験シ夜間ニ入り流網試験ヲナセリ	日中ハ鮪延繩ヲ試験シ夜間ニ入り流網試験ヲナセリ	日中ハ鮪延繩ヲ試験シ夜間ニ入り流網試験ヲナセリ	日中ハ鮪延繩ヲ試験シ夜間ニ入り流網試験ヲナセリ	日中ハ鮪延繩ヲ試験シ夜間ニ入り流網試験ヲナセリ	日中ハ鮪延繩ヲ試験シ夜間ニ入り流網試験ヲナセリ	日中ハ鮪延繩ヲ試験シ夜間ニ入り流網試験ヲナセリ	日中ハ鮪延繩ヲ試験シ夜間ニ入り流網試験ヲナセリ	日中ハ鮪延繩ヲ試験シ夜間ニ入り流網試験ヲナセリ

漁 業 表

三 水 丸

月日	天候風向漁場雨量風力符號	漁具使用時	漁場	水温	比重	潮向及勢	捕魚	數量	價格	摘 要
十月廿三日	3. B	自午後五時半 至同 七時半	北牟婁郡 九木崎	二〇、〇、一、〇、三、六 E	急	急	同	同	同	波浪高キ爲メ網四張ヲ流夫セリ 終日流失セル網ヲ捜索セルモ發見セズ
十月廿五日	2. B	自午後五時半 至同 九時	同	二〇、〇、一、〇、四、〇 W	緩	緩	同	同	同	投網セルモ漁獲一尾モナシ

十二月七日 午前二時九鬼崎ヨリ東南三十二湊附近ノ海面ニ流網十四張ヲ投網シ秋刀魚約四十尾ヲ漁獲シタルモ晝間鮪延繩延下ノ爲メ餌料ニ使用セリ

十二月四日 午前二時三十分尾鷲ニ歸港シ漁具ヲ陸揚乾燥及修繕ニ着手セリ

十二月九日 午前一時尾鷲發晝間九鬼崎ヨリ東南微南二十五湊附近ニテ鮪延繩ヲ延下シ午後九時半頃九鬼崎ヨリ東南微南十三湊附近ノ海面ヘ流網七張ヲ投網シ翌朝一時迄ニ秋刀魚百四十三尾ヲ漁獲セルモ鮪延繩餌料ニセンタメ捕獲セリ

十二月十日 午前四時四十五分尾鷲ニ歸港セリ

十二月十三日 午前二時三十分尾鷲發晝間ハ九鬼崎ヨリ東南微東二十湊附近ノ漁場ニテ鮪延繩ヲ延下シ午後五時ヨリ同沖合ニ於テ秋刀魚流網十二張ヲ使用シテ秋刀魚九十四尾ヲ漁獲シタルモ鮪延繩餌料トシテ全部捕獲セリ

十二月十二日 午前六時半歸港シテ漁具ヲ陸揚乾燥及修繕ニ從事セリ

今年度三水丸ノ出漁セル秋刀魚流網漁場ノ位置並ニ潮流水温比重等ニ付其概況ヲ表示セバ次ノ如シ

第二回漁船船員簡易講習會

本年一月二十八日ヨリ二月二十日ニ至ル二十四日間度會志摩兩郡ヨリノ依頼ニ應ジ講師トシテ場員ヲ左記場所ニ出張セシメ第  
二回漁船船員簡易講習會ヲ開催セリ其概要左ノ如シ

講習期間及場所

- 一月二十八日ヨリ一月三十日ニ至ル三日間
- 一月三十一日ヨリ二月二日ニ至ル三日間
- 二月三日ヨリ二月五日ニ至ル三日間
- 二月六日ヨリ二月八日ニ至ル三日間
- 二月九日ヨリ二月十三日ニ至ル五日間
- 二月十四日ヨリ二月十六日ニ至ル三日間
- 二月十七日ヨリ二月二十日ニ至ル四日間

講習生人名總員二百十一名

南海村ニ於ケン講習生六十四名

度會郡南海村

同 同 同 同 同 同

- 度會郡南海村
- 度會郡宿田會村
- 度會郡中島村
- 度會郡吉津村
- 度會郡島津村
- 志摩郡和具村
- 志摩郡畔名村

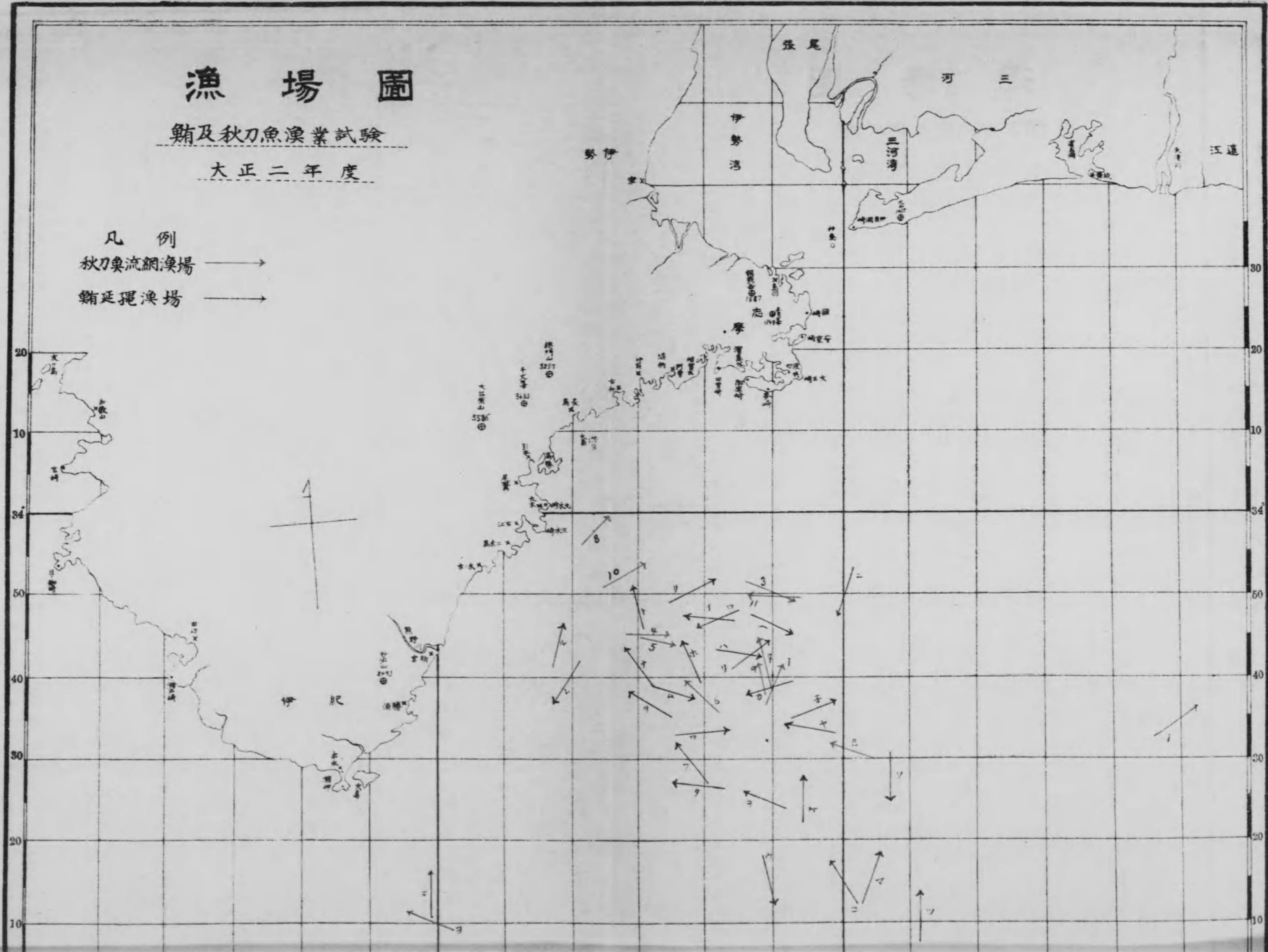
- 上野鶴吉
- 中野常吉
- 上野楠吉
- 中野平吉
- 西市太郎
- 羽根銀太郎

# 漁場圖

鮪及秋刀魚漁業試驗

大正二年度

- 凡例
- 秋刀魚流網漁場 →
  - 鮪延繩漁場 →



同 同 同 同 同

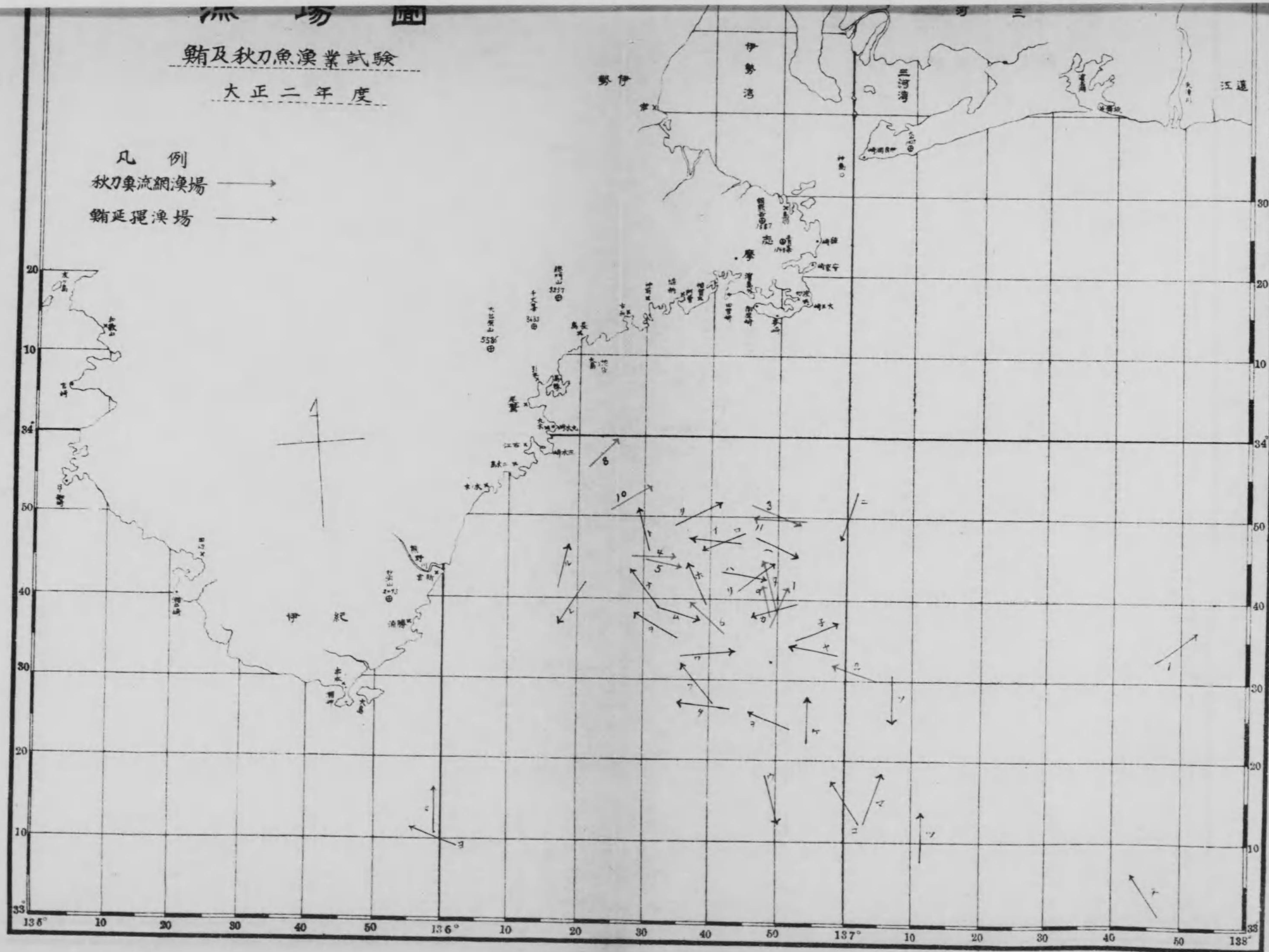
羽 西 中 上 中  
 根 村 野 村  
 銀 市 平 楠 常  
 太 太 吉 吉 吉  
 郎 郎 吉 吉 吉



漁場圖

鮪及秋刀魚漁業試驗  
大正二年度

凡例  
秋刀魚流網漁場 →  
鮪延繩漁場 →



同 同 同 同 同 度會郡南海村  
南海村ニ於テノ調査年六十四名

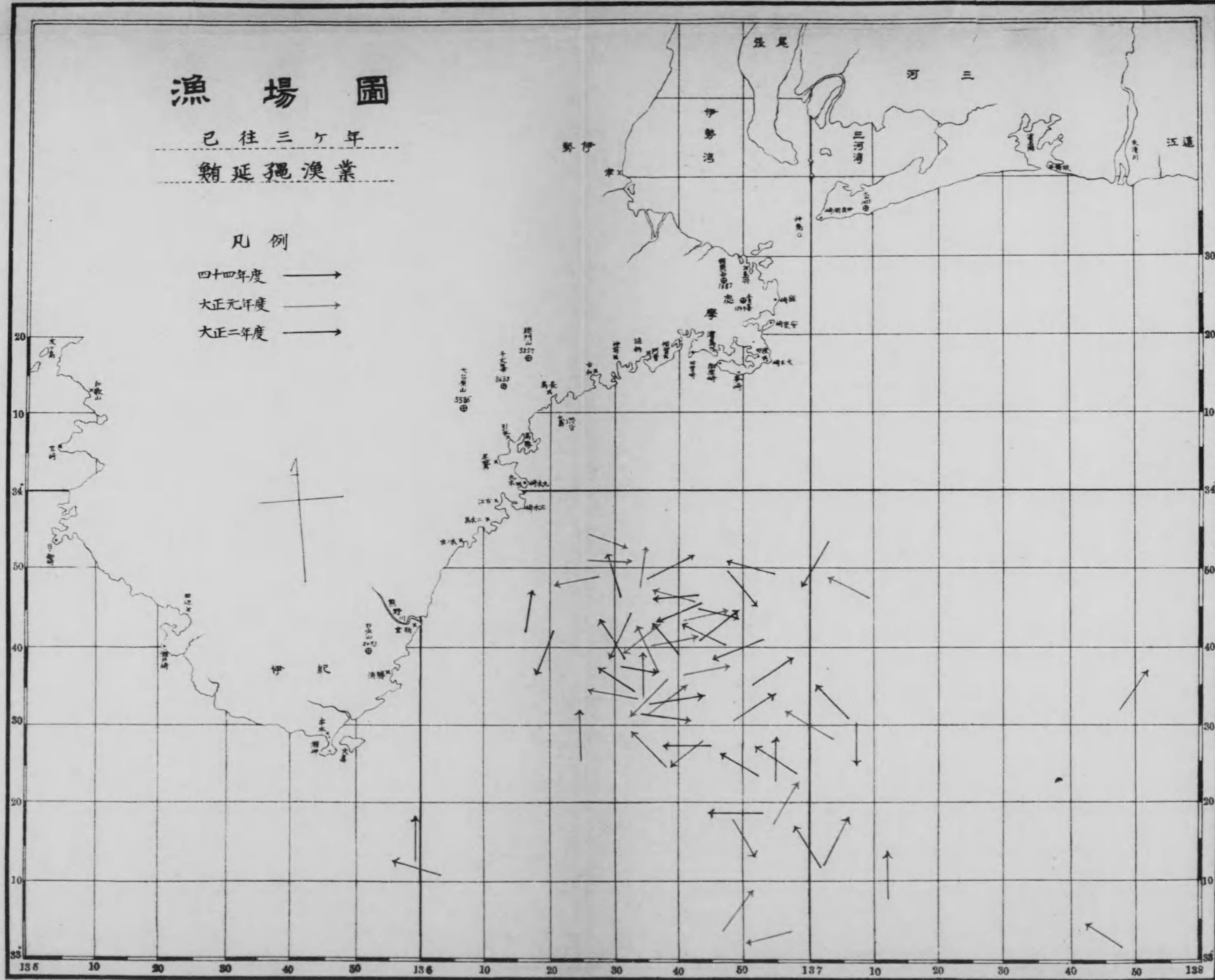
上野村 常吉  
中野村 楠吉  
中市 平吉  
西根 市太郎  
羽根 銀太郎

# 漁場圖

已往三ヶ年  
鮪延縄漁業

## 凡例

- 四十四年度 →
- 大正元年度 →
- 大正二年度 →



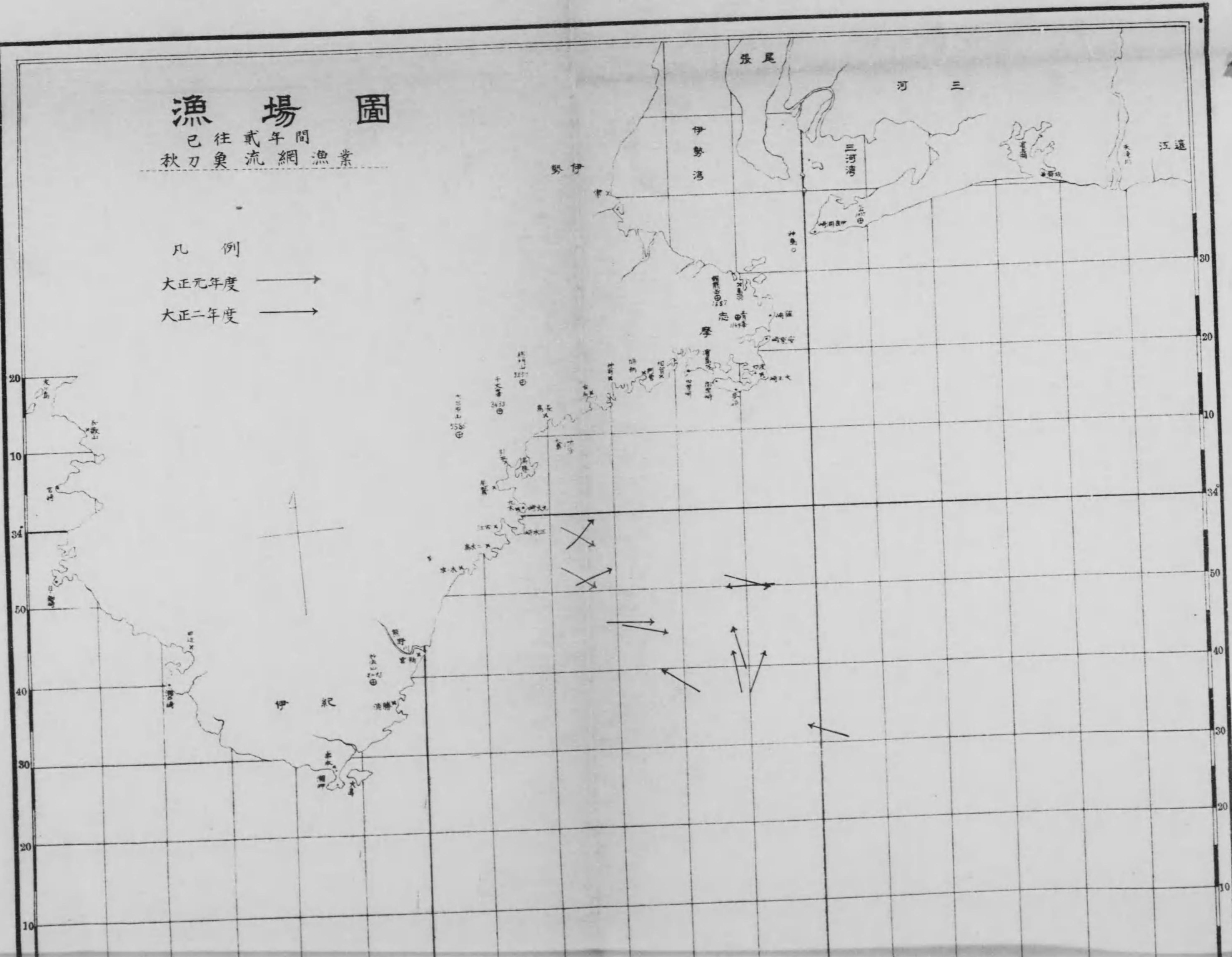
# 漁場圖

已往貳年間  
秋刀魚流網漁業

凡例

大正元年度 →

大正二年度 →



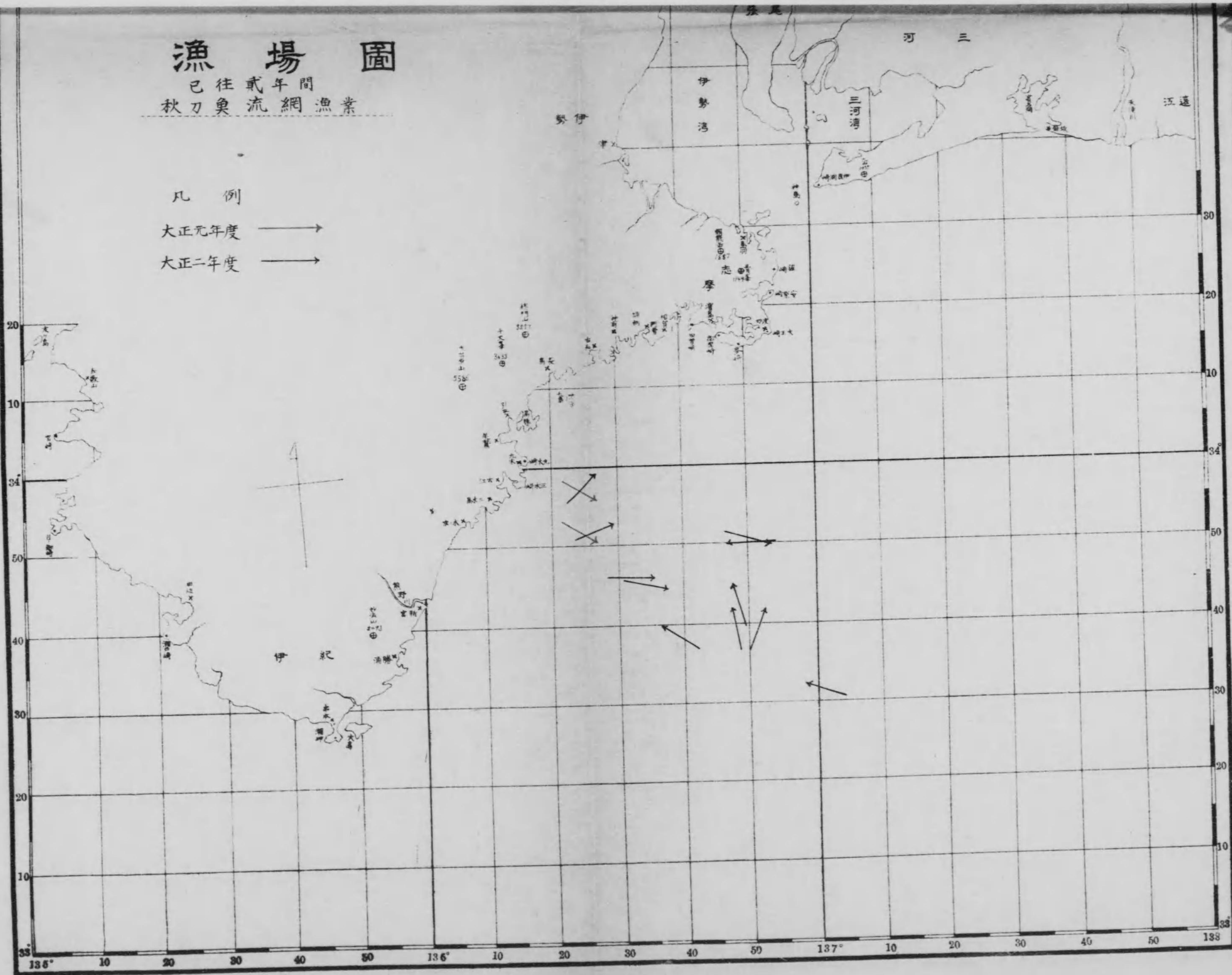
# 漁場圖

已往貳年間  
秋刀魚流網漁業

凡例

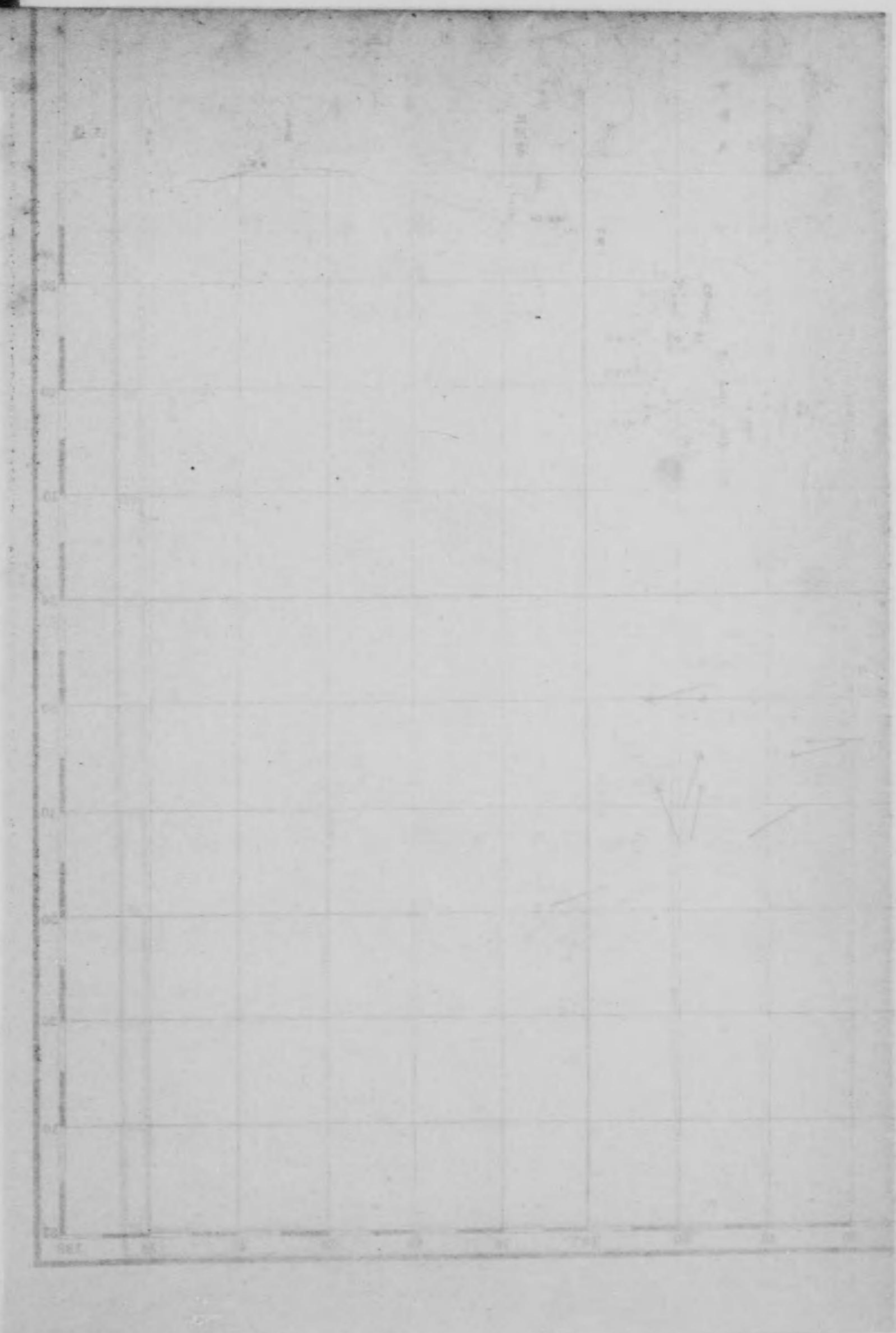
大正元年度 →

大正二年度 →



同 同

新	山	田	畑	畑	竹	山	中	加	竹	畑	山	畑	畑	畑	畑	畑	羽	中
谷	本	中			内	本	村	戸	内		本						根	村
萬	朝	三	佐	順	甚	四	萬	直	淺	爲	庄	悅	新	三	伊	音	榮	德
助	生	平	助	次	郎	助	吉	郎	郎	吉	助	助	郎	八	助	郎	藏	郎



同 同

河	田	中	畑	河	田	畑	中	竹	田	畑	山	山	中	田	中	中	山	畑
口	中	村	口	中	中	村	村	内	中	本	本	村	中	中	村	本	本	多
音	佐	島	八	三	楠	要	米	初	彦	民	友	英	二	文	兵	民	四	
次	市	吉	十	次	之	藏	吉	二	次	助	助	藏	兵	治	衛	藏	郎	
郎			亮	郎	亟			郎	郎									

同 同

畑	畑	田	畑	青	畑	中	河	新	田	山	山	竹	竹	竹	山	中	中	畑
春	楠	中	木	木	村	村	口	谷	中	本	木	内	内	内	本	村	村	吉
吉	松	金	久	五	庄	高	坂	平	八	榮	条	金	安	安	丈	佐	才	次
		助	郎	郎	次	助	二	松	八	二	吉	右	次	次	吉	八	助	郎
												衛	郎	郎				
												門	藏					

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

中島村ニ於ケル講習生十八名  
度會郡中島村字阿曾浦

加藤源平  
宮本金五郎  
山本林太郎  
福井六助  
寺田大三  
寺田大助  
寺田七之丈  
山本市松  
森龜吉  
岸善太郎  
西浦安吉  
山本五郎松  
島田淺次郎  
山本治助  
山川七之助  
島田米藏  
濱口越藏  
西村孫兵衛

同 同

宿田會村ニ於ケル講習生二十四名  
度會郡宿田會村

山本留吉  
加藤榮五郎  
奧田彦三郎  
山本楠夫  
久保楠平  
山本芳松  
山本綱藏  
奧村伊左衛門  
加藤谷藏  
久保省三  
加藤長平  
山本吉之丈  
田岡惣五郎  
山本寅藏  
加藤次郎吉  
高松莊二郎  
高松嘉四郎  
加藤彦左衛門





同 同 同 同 度 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

度會郡島津村字方座

小粉三三喜上堀下出磯上喜野磯淺上磯淺出  
 西川清浦田村市常倉口崎村田久辰和村勘八和治口  
 音九助源糸太兵衛藤助熊次郎勘吉市郎藏術衛常吉  
 吉平七吉郎衛郎助吉郎吉市郎藏術衛常吉

同 同

島津村ニ於ケル講習生四十名  
度會郡島津村字古和

磯堀磯出磯高磯磯磯西磯磯南磯磯磯堀高  
 崎內崎口崎橋崎崎崎澤崎崎嘉崎崎崎內橋  
 與菊藤新三藤多勸梅常金嘉留與常春次  
 吉郎吉吉吉郎七郎郎吉郎藏市吉松吉吉郎

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 志摩郡 畔名村

畔名村ニ於ケル講習生十八名

奥野與三右衛門  
金 森 貞 次  
山 松 梅 司  
北井 金 右衛門  
小川 彌 太郎  
鉢山 養 彌  
濱口 四郎 吉  
田 端 幸 助  
内 田 多 平 次  
大 畑 孫 太郎  
大 畑 小 吉  
池 田 常 藏  
福 井 半 次 郎  
南 才 之 助  
南 萬 助  
池 田 友 吉  
大 畑 岩 吉  
奥 岡 才 太郎

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 志摩郡 和具村

和具村ニ於ケル講習生二十一名

中 村 駒 太郎  
粉 川 庄 太郎  
三 浦 音 松  
岩 城 楠 平  
岩 城 種 太郎  
岩 城 源 一郎  
中 森 龜 次 郎  
山 口 嘉 左 衛 門  
山 本 善 隆  
大 畑 茂 平  
鉢 山 竹 之 亟  
松 井 八 重 藏  
井 上 敬 之 助  
谷 口 政 之 助  
池 田 武 八  
浦 口 健 二  
磯 和 市 右 衛 門  
伊 藤 仙 吉

同  
同  
志摩郡志島村  
同  
同  
志摩郡吉田村

山下長藏  
城下楠松  
廣岡兵太郎  
岡山善助  
上村七藏  
竹村博生

●養殖部

主任技手 川上宗治

大正二年度養殖部ニ於テ施行セル業務左ノ如シ

一、鱒養殖試験

本試験ハ前年度來ノ繼續事業ニシテ本年度ニ於テハ前年度ト同様孵化試験ヲ行ヒタル外前年度孵化稚魚飼育經濟試験ヲ施行セリ

二、海苔養殖試験

本試験ハ前年度來ノ繼續事業ニシテ本年度ニ於テハ専ラ種藻移殖ノ經濟試験ヲ施行シ茲ニ本試験ノ全部ヲ完結セリ

三、車蝦養殖試験

前年度來ノ繼續事業ニシテ度會郡北濱村ニ於テ之ヲ行フ

四、真珠介養殖試験

明治三十三年度以降ノ繼續事業ニシテ志摩郡濱島地先ニ於テ之ヲ行フ

五、蛤養殖試験

蛤ノ蕃殖保護ヲ目的トセルモノニシテ三重郡川越村及飯南郡港村地先ニ於テ試験ヲ施行ス、前年度來ノ繼續事業ニ屬ス

六、海鼠蕃殖試験

海鼠蕃殖保護ヲ目的トセルモノニシテ志摩郡濱島村地先及五ヶ所灣内ニ於テ試験ヲ施行ス、之レ亦前年度來ノ繼續事業ニシテ内、五ヶ所灣内ニ於ケル試験ハ本年度ヲ以テ中止セリ

七、櫛田川鱒放流事業

本事業ハ樋口春吉氏ノ寄附委託ニ係カル五ヶ年間ノ繼續事業ニシテ櫛田川ニ鱒魚ヲ蕃殖セシムル目的ヲ以テ多氣郡丹生村ニ人工孵化場ヲ設置シ鱒卵ノ孵化ヲ行ヒ魚兒ヲ櫛田川ニ放流セリ

八、各種養殖事業實地指導

- (一) 石花菜磯掃除指導
- (二) 真珠貝養殖指導
- (三) 海苔養殖指導
- (四) 各種池中養殖指導

一、鱒池中養殖試験

本試験ハ前年度ニ於テ始メテ試験池ヲ築造シ試験ニ着手セルモノニシテ本年度ニ於テハ前年度ニ於テ孵化シタル稚魚ノ養成及新タニ鱒卵ノ孵化飼育試験ヲ施行セルノミナラズ更ニ一面ノ池(第四號池長十間)ヲ新設シ又不完全ナリシ第一號、第二號、第三號池ノ全部ヲ修繕セリ

稚魚ノ養成

一、池中放養

大正三年一月末日ニ於テ全部ノ孵化ヲ終リ三月中旬ヨリ投餌ヲ始メタル稚魚ハ其後飼養池ノ設備完成セザリシ爲メ放養時期

後レ五月二十八日其竣成ヲ俟チテ始メテ之ヲ第一號池(二十四坪)ニ放養セリ、從ツテ稚魚ハ其成育ニ伴ハザル狹隘ナル飼育槽中ニアリテ運動不足ト消化不良トノ結果ニヨリ比較的多數ノ斃死數ヲ出シ其健康魚トシテ第一號池ニ收養セシ數量左ノ如シ

第一號池放養稚魚總數 二萬六千三百〇二尾

二、飼育經過

五月二十八日稚魚ノ第一號池ニ放養セラレタル後ハ其斃死數頓ニ減少シ活潑ニ池中ヲ游泳シ居タリシガ池堤石垣ノ目塗不完全ナリシ爲メ六月十六日大暴風雨ノヤリシ後ハ此等堤部ヲ透シテ池水ノ漏洩次第ニ顯著トナリ所々ニ缺潰ヲ生ジ應急ノ修理モ其效無ク徑五寸ノ木樋ニ充滿シツ、アル程度ニ注入セラレタル第一號池ノ水ハ其排水口ヨリ第二號池ニ入ル量ハ極メテ僅少ニシテ其大部分ハ堤ノ石垣部ヨリ第二號池ニ又第二號池ノ水ハ同様ニシテ第三號池次デ池外ニ浸出スルノ有様トナリ第一號池中ニ放養セラレタル鱒稚魚ハ斯クシテ此等缺潰部ヲ洩ル、水ト共ニ第二號池又ハ第三號池ニ擴布シ次デ池外ニ逃逸セルモノ僅少ニ非ザリキ

大正二年十二月十六日第一號池ヨリ第三號池ニ至ル全部ノ池ヲ干涸セシメ放養魚ノ全部ヲ取揚ゲ其數量并ニ成長度等ヲ測定シ後再ビ之ヲ新造池(第四號池)ニ放養セリ取揚總數及其成長度等左表ノ如シ

取揚時	期 日	尾 數	體 長			體 重		
			最大	最小	最多平均	最大	最小	最多平均
放養時	五月廿八日	二六、三〇二						
取揚時	十二月十六日	二、四七	五・〇	一・一	三・〇	四・〇	〇・一	一・五

三、餌料及投餌量

五月中旬ヨリ七月下旬迄ハ稚魚養成餌料トシテ魚肉粉麵粉及小麦粉ヲ混合餌料ヲ投與シタレドモ八月以降ハ鯨赤肉粉

五、小麦粉一、ノ割合ニヨリテ製セル混合餌料ヲ用ヒタリ

五月中旬ヨリ十二月取揚時迄ノ投餌總量ハ三頁二百五五ニシテ不慮ノ災ニヨル放養魚減少ノ結果其投餌量ニ對スル増肉量其他ノ關係ヲ知ルコト能ハザリシヲ遺憾トス今參考ノ爲メ餌料トシテ使用セル鯨赤肉粉ノ成分及營養率ヲ示セバ左ノ如シ(水産講習所分析)

鯨 赤 肉	水 分	粗 蛋 白	粗 脂 肪	粗 灰 分	無 窒 素 浸 出 物
100.0	55.6	13.4	9.6	10.8	

營養率 N: P = 1 : 0.71

即チ鯨赤肉粉ハ稚魚養成用餌料トシテ適當ナル營養率ヲ有スルコトヲ知ル

孵 化 試 驗

一、孵化場ノ設備(附圖參照)

孵化器。孵化器ハ前年度ノ「カリホルニヤ」式ヲ改メテ「アットキンス」氏式トナシ而モ普通「アットキンス」氏式孵化器ヨリモ稍大形ナル孵化盆及水槽ヲ用ヒタリ。本年度使用セル孵化盆ハ三十枚水槽三個ニシテ中二個ノ水槽水ニ卵ヲ收容シ他ノ一個ハ豫備トシ又檢卵槽ニ代用セリ。此等ノ孵化盆及水槽ノ大サヲ示セバ左ノ如シ

孵化盆	水 槽
枠—五分幅ニシテ一尺五寸五分平方 金網—縦五分五厘、横二分目	長 六 尺 巾 二尺三寸 高 一尺五寸

用水。孵化用水ハ山間ノ溪流ナルヲ以テ一見清澄ノ如クナレドモ水中微細ナル浮泥比較的多ク殊ニ降雨時等ニ際シテハ到底砂礫、棕櫚皮其他ニヨル濾水装置ニテハ充分ニ其效果ヲ認メザリシヲ以テ濾水槽ニハ特ニ「フランネル」ヲ張りタル枠ヲ用ヒタリ。即チ孵化ニ當リテハ飼養池用水路ノ一部ヲ堰止シ竹樋ニヨリテ沈澱槽ニ導キ次ニ三枚ノ「フランネル」枠ヲ装置セル濾水槽二個ヲ通過セシメタル後始メテ孵化室内親種ニ導キ特ニ深サヲ大ニシタル親種ハ浮泥ノ沈澱ヲ促シ茲ニ始メテ孵化水槽ニ注加

セリ。斯ノ如ク浮泥ノ除去ニ就キテハ周到ノ注意ヲ以テ種々ノ裝置ヲ施シタレドモ猶ホ微細ナル浮泥ハ完全ニ排除スルコト能ハザリキ。而シテ一孵化槽ニ注加スル水量ハ一分間一斗五升ノ割合ナリキ

二、鱒卵ノ原産地及數量

鱒卵原産地 秋田縣十和田湖

孵化ニ供セシ卵ノ數量 十萬粒

三、鱒卵ノ輸送經過及孵化場收容ノ時日

原産地秋田縣十和田湖ヨリ鱒卵ヲ發送シタルハ大正二年十二月二十三日ニシテ途中人背、車馬鉄道等ニ依リ同月二十八日午前十時孵化場着直チニ水槽内ニ收容セリ

途中運搬ノ經路概略ヲ示セバ左ノ如シ

十二月二十三日十和田湖發(二里)：白澤村(人背)：(三・五里)：大湯村(馬槌)：一泊。：(三里餘)：小坂(駄馬)：(一

五哩)：大館小坂停車場(輕鉄)：奥羽線大館驛(積替)同月二十四日午後四時卅五分發：(四一三哩三)：赤羽驛(積替)：(一

三哩)：品川驛(積替)：(二三〇哩三)：名古屋驛(積替)：(三七哩三)：龜山驛(積替)：(二一哩五)：關西線上野驛着(十二

十七日午)：(四里廿一丁)：名賀郡阿保村(人車)一泊。：(二里半餘)：矢持孵化場着(駄馬)十二月二十八日

前十時) 四、荷造法及開函當時運搬枠内ニ於ケル卵ノ模様

鱒卵五萬粒ヲ運搬枠(長一尺五寸)六枚ニ收容シ之レヲ八分板ニテ作レル堅牢ナル箱(長一尺八寸、中一尺二寸三分)ニ入レ箱内枠ノ周圍及枠相

互ノ間ニハ夫々水ヲ含マセタル水苔ヲ堅ク充填シ外部ヲ菰ニテ包ミタリ

然レドモ七百五十哩餘ノ道程ヲ經五晝夜ノ時日ヲ費シ幾度トナク積替ヲナシタルコトトテ其間種々ノ衝動ニ逢ヒタルコト勿論

ニシテ之レガ爲メ枠内ノ卵ハ皆多少ノ動搖ヲ來タシ一部ニ集積シ居タルノミナラズ卵中水分ヲ失ヒ多角形ニ萎縮セルモノ少ナ

カラザリキ

開函當時函内ノ溫度 (第一號函 攝氏五度) (氣温 同 六度) (第二號函 同 四度) (孵化場水温 五度半)

運搬中ニ生ゼル總死卵數 八百十二粒

五、鱒卵發育經過

採卵月日 大正二年十一月九日

發眼月日 十二月九日

(孵化用水温 平均八度)

孵化月日 自大正三年一月十一日(五十四日間) 至同 年三月五日

六、孵化成績及孵化後ノ狀況

一月十一日孵化ヲ始メテヨリ二月上旬其盛期ニ達シ三月五日ニ至リ漸ク卵全部ノ孵化ヲ終了シ此間五十四日間ノ長時日ヲ要シタルハ其卵ノ不健康ナリシ証ニシテ從ツテ孵化ノ成績良好ナラズ左ノ如キ孵化率ヲ示セリ

試驗用卵總數

一〇〇、〇〇〇粒

死卵總數

五六、八一一粒

孵化稚魚總數

四三、一八九尾

孵化率

四割三分強

孵化稚魚ハ三月二十日頃ヨリ臍囊ヲ吸收シテ浮上ヲ始メシト雖モ本年度終期迄ニハ未ダ全部ノ浮上ヲ見ルニ至ラズ。孵化後三月三十一日迄ニ斃死セル稚魚總數千三百八十二尾ニ達セリ

八、養鱒場氣象水温觀測表

本場稚魚飼養池平均ノ水温及孵化期中孵化用水ノ温度并ニ氣象ノ概要ヲ示セバ左表ノ如シ



矢持養鱒場(大正二年度)  
孵化設備 平面圖

四月 上旬	四月 中旬	四月 下旬	五月 上旬	五月 中旬	五月 下旬	六月 上旬	六月 中旬	六月 下旬	七月 上旬	七月 中旬	七月 下旬	八月 上旬	八月 中旬	八月 下旬	九月 上旬	九月 中旬	九月 下旬	十月 上旬	十月 中旬	十月 下旬
氣 温																				
二二.五	二二.五	二一.六	二一.六	二一.五	二一.四	二一.三	二一.二	二一.一	二一.〇	二〇.九	二〇.八	二〇.七	二〇.六	二〇.五	二〇.四	二〇.三	二〇.二	二〇.一	二〇.〇	一九.九
全 最 高																				
二八.〇	二八.〇	二八.〇	二八.〇	二八.〇	二八.〇	二八.〇	二八.〇	二八.〇	二八.〇	二八.〇	二八.〇	二八.〇	二八.〇	二八.〇	二八.〇	二八.〇	二八.〇	二八.〇	二八.〇	二八.〇
全 最 低																				
零下	零下	零下	零下	零下	零下	零下	零下	零下	零下	零下	零下	零下	零下	零下	零下	零下	零下	零下	零下	零下
水 温																				
一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四
全 最 高																				
一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四
全 最 低																				
一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四	一〇.四

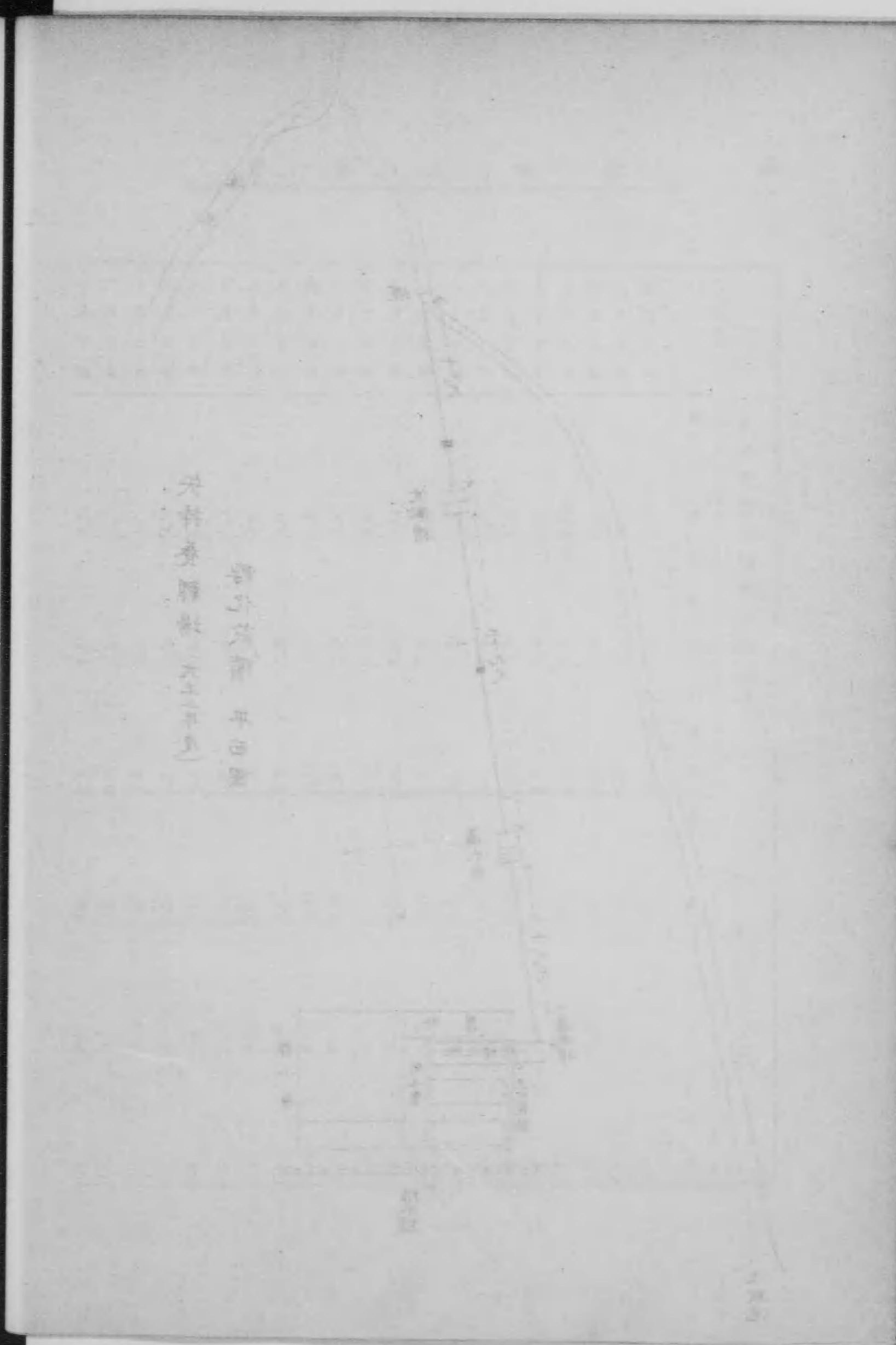
矢持養鱒場飼養池觀測表

(自大正二年四月旬日平均)  
至大正三年三月旬日平均)

月	日	天候	風向、力	氣溫	室內氣溫		水溫		備	考	
					示度	最高最低	示度	最高最低			
十二月二十九日		晴	北、強	四、〇	六、〇	九、〇	零下三、五	五、九	六、〇	二、〇	檢卵死卵除去
三十日		曇後雨	西、和	四、三	五、七	七、〇	零下三、〇	六、〇	六、〇	四、〇	檢卵死卵除去
三十一日		晴後曇	北、和	零下〇、三	二、〇	八、〇	零下二、〇	四、八	六、五	三、〇	檢卵死卵除去
大正三年二月一日		晴	西、微	二、八	三、三	七、三	零下二、〇	四、六	五、〇	三、〇	檢卵死卵除去
十一月十一日	十一月月上旬			一〇、一	一五、〇	零下	零下		一〇、九	一、五	
十一月十二日	十一月月中旬			九、二	一五、〇	零下	零下		一〇、九	一、五	
十一月十三日	十一月月下旬			八、九	一四、〇	零下	零下		一〇、九	一、五	
十一月十四日	十二月上旬			六、〇	九、八	零下	零下		一〇、九	一、五	
十一月十五日	十二月中旬			四、六	八、八	零下	零下		一〇、九	一、五	
十一月十六日	十二月下旬			三、七	八、〇	零下	零下		一〇、九	一、五	
十一月十七日	大正三年一月上旬			三、三	三、四	零下	零下		一〇、九	一、五	
十一月十八日	一月月中旬			四、五	九、〇	零下	零下		一〇、九	一、五	
十一月十九日	一月月下旬			二、九	六、〇	零下	零下		一〇、九	一、五	
十一月二十日	二月月上旬			二、七	五、〇	零下	零下		一〇、九	一、五	
十一月二十一日	二月月中旬			五、〇	七、一	零下	零下		一〇、九	一、五	
十一月二十二日	二月月下旬			八、五	八、五	零下	零下		一〇、九	一、五	
十一月二十三日	三月上旬			一三、五	一三、五	零下	零下		一〇、九	一、五	
十一月二十四日	三月中旬			一七、五	一七、五	零下	零下		一〇、九	一、五	
十一月二十五日	三月下旬			一〇、三	一七、五	零下	零下		一〇、九	一、五	

姬鱈卵孵化期中氣象、水溫觀測表

(自大正二年十二月 每日一回 至大正三年三月 午前十時觀測)







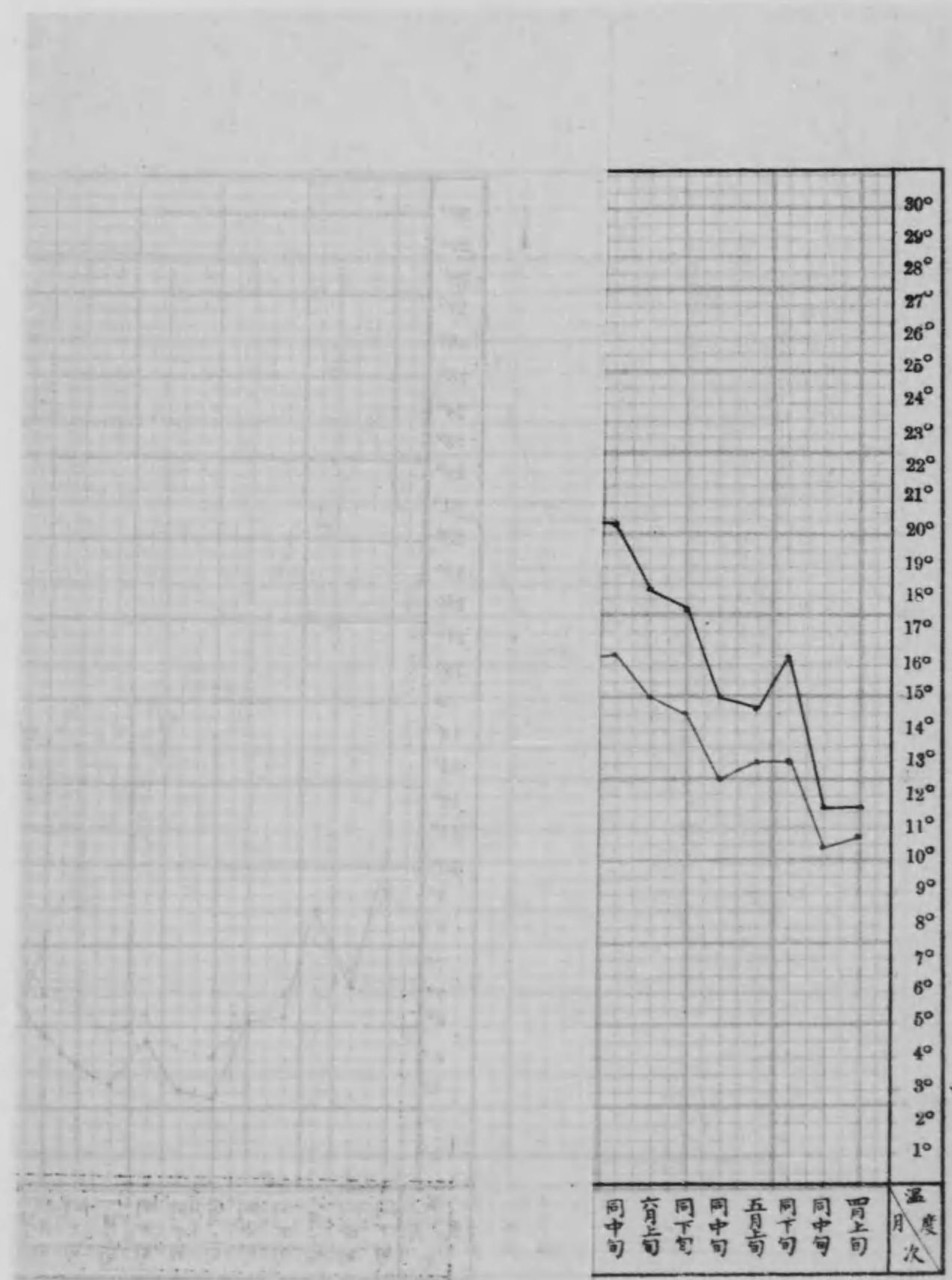
三 月	
十九日	大雨
二十日	晴
二十一日	晴
二十二日	曇
二十三日	曇
二十四日	晴
二十五日	曇
二十六日	曇
二十七日	晴
二十八日	晴
二十九日	晴
三十日	晴
三十一日	晴
一日	晴
二日	晴
三日	曇
四日	晴
五日	晴
六日	曇
七日	快晴
八日	晴
九日	曇
十日	北和
十一日	南和
十二日	南和
十三日	南和
十四日	西和

矢持養鱒場飼養池觀測圖

自大正二年四月  
至大正三年三月

旬日平均

—— 水温  
—— 水温



温 度  
月 次  
四月上旬  
同中旬  
同下旬  
五月上旬  
同中旬  
同下旬  
六月上旬  
同中旬  
同下旬

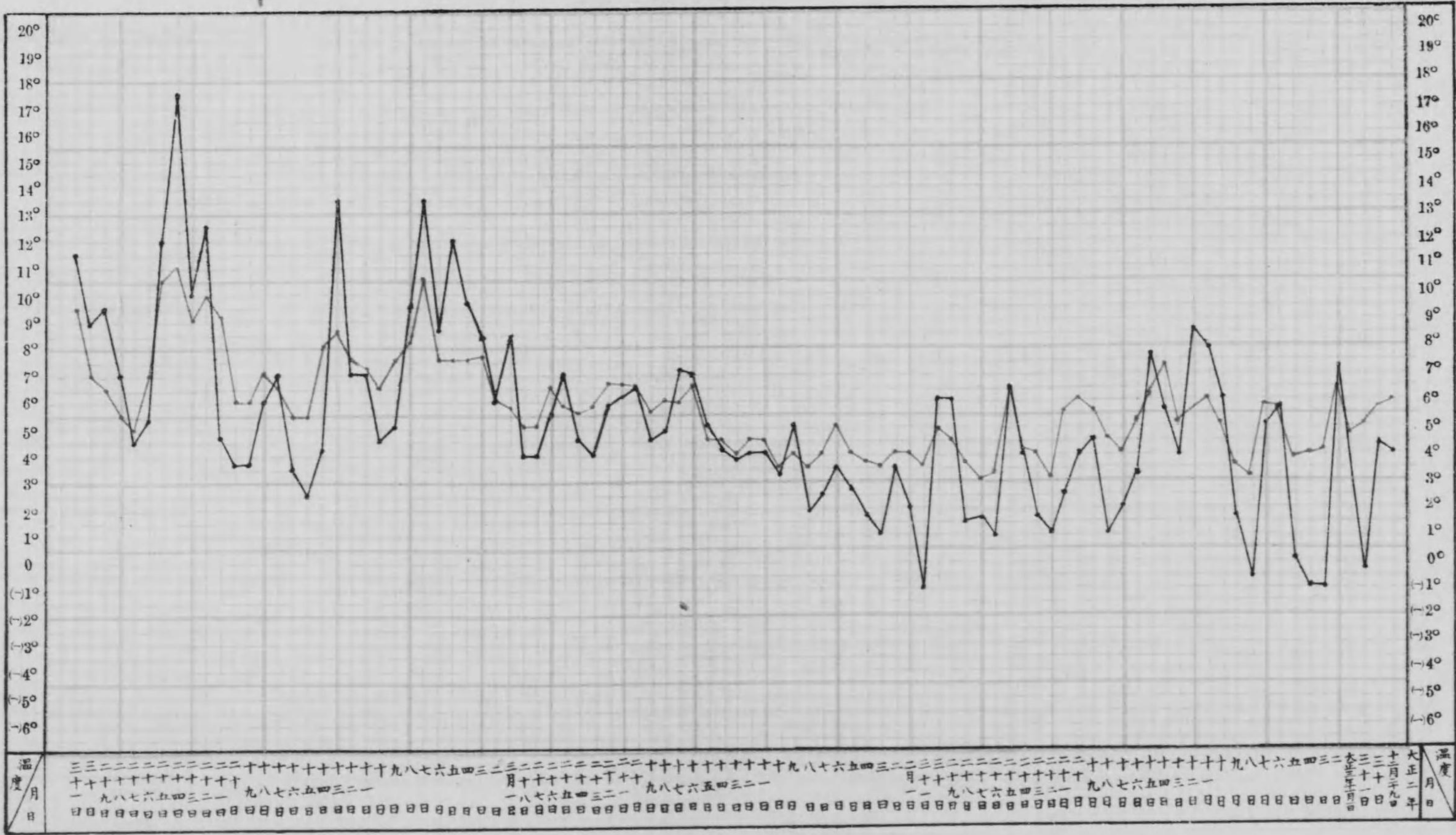
卵孵化終了  
死卵總數五六八二粒

死卵死兒除去

死卵除去

死卵除去





矢持養鰐場鰒卵孵化期中水温气温观测图

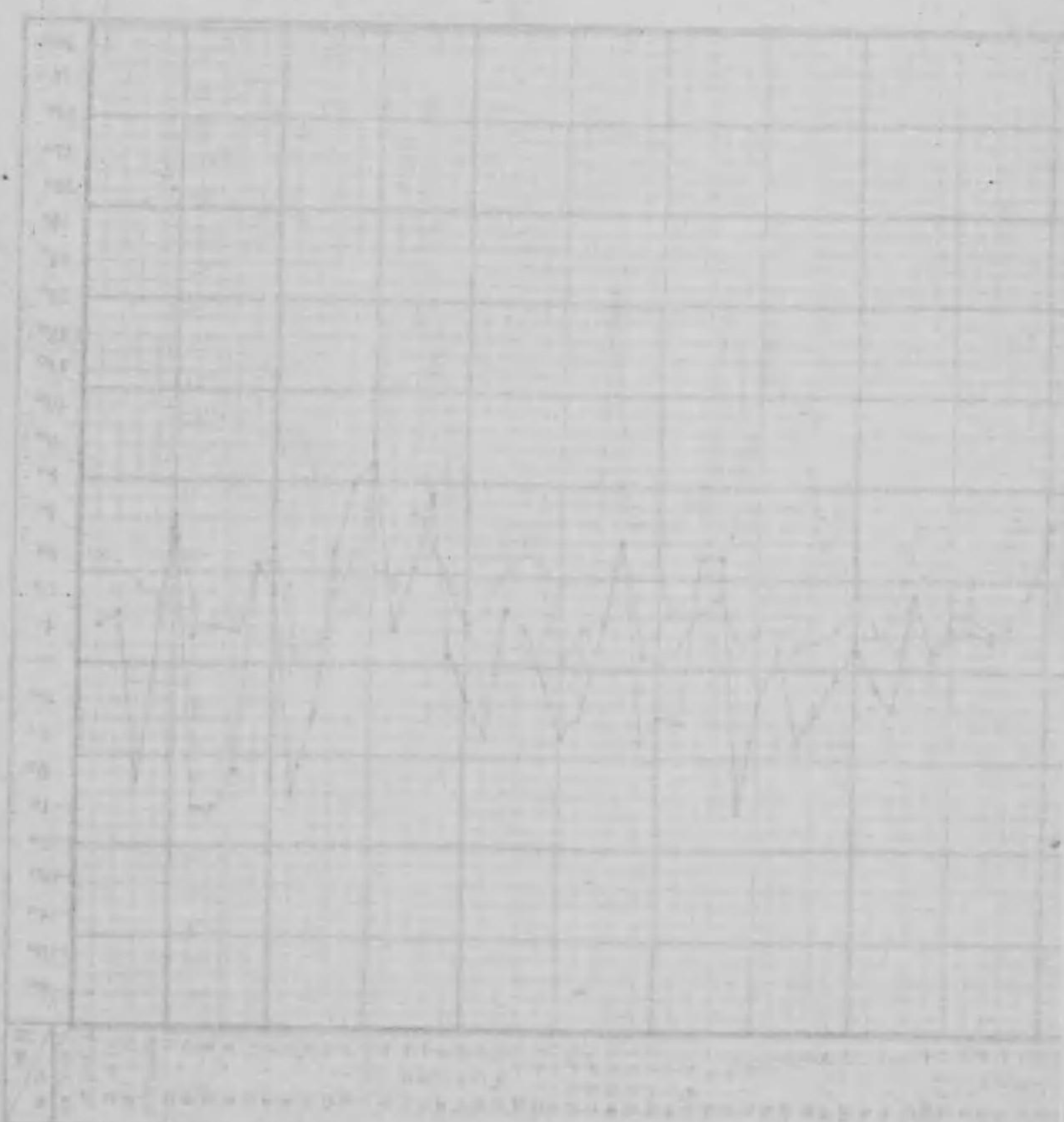
自大正二年十月一日至大正三年二月十时观测  
 —— 水温  
 - - - 气温

一、試驗ノ目的

本試驗ハ明治四十三年以降ノ繼續事業ニシテ既ニ本縣各沿岸ニ於ケル海苔養殖場適地ノ撰定ヲ終リ本會揖斐兩川口ニ當ル桑名郡沿岸ノ如キハ適當ナル海苔養殖場トシテ宏大ナル面積ヲ有スルコトヲ知リシト雖モ尙ホ此附近ハ海苔ノ附着充分ナラス勢

一、海苔養殖試驗

十五日	快晴	北、強	三、五	三、〇	六、〇	〇、〇	五、四	八、〇	三、〇
十六日	快晴	北、強	三、五	三、〇	六、〇	〇、〇	五、四	八、〇	三、〇
十七日	快晴	北、強	三、五	三、〇	六、〇	〇、〇	五、四	八、〇	三、〇
十八日	快晴	北、強	三、五	三、〇	六、〇	〇、〇	五、四	八、〇	三、〇
十九日	快晴	北、強	三、五	三、〇	六、〇	〇、〇	五、四	八、〇	三、〇
二十日	快晴	北、強	三、五	三、〇	六、〇	〇、〇	五、四	八、〇	三、〇
二十一日	快晴	北、強	三、五	三、〇	六、〇	〇、〇	五、四	八、〇	三、〇
二十二日	快晴	北、強	三、五	三、〇	六、〇	〇、〇	五、四	八、〇	三、〇
二十三日	快晴	北、強	三、五	三、〇	六、〇	〇、〇	五、四	八、〇	三、〇
二十四日	快晴	北、強	三、五	三、〇	六、〇	〇、〇	五、四	八、〇	三、〇
二十五日	快晴	北、強	三、五	三、〇	六、〇	〇、〇	五、四	八、〇	三、〇
二十六日	快晴	北、強	三、五	三、〇	六、〇	〇、〇	五、四	八、〇	三、〇
二十七日	快晴	北、強	三、五	三、〇	六、〇	〇、〇	五、四	八、〇	三、〇
二十八日	快晴	北、強	三、五	三、〇	六、〇	〇、〇	五、四	八、〇	三、〇
二十九日	快晴	北、強	三、五	三、〇	六、〇	〇、〇	五、四	八、〇	三、〇
三十日	快晴	北、強	三、五	三、〇	六、〇	〇、〇	五、四	八、〇	三、〇
三十一日	快晴	北、強	三、五	三、〇	六、〇	〇、〇	五、四	八、〇	三、〇



稚魚水標ノ中層ニ浮游ヲ始ス、

尾解後本日迄死稚魚總數一、三八二

他地方ヨリ種付糞ノ供給ヲ仰ガザルベカラザル状態ニアリシヲ以テ本場ハ前年度來本縣下ニ於ケル之レガ供給地ノ撰定ニ意ヲ用ヒ再三試験ノ結果度會郡穂原村内瀬及一志郡松ヶ崎浦ノ兩地ノ適當ナル種子糞場ナルヲ認メ去ル四十三年度ヨリ之レガ移殖ヲ試ミ又同時ニ比較試験ノ爲メ愛知縣下ヨリモ種付糞ヲ移殖シタリシト雖モ運搬中ノ故障、糞材料ノ移殖場ニ不適當ナリシコト、移殖後天候ニヨル災害、移殖立位置ノ一定セザリシコト等ニヨリ移殖ノ効果、其經濟關係等ヲ具體的ニ調査シ試験ヲ爲スコト能ハザリシヲ以テ本年度ニ於テハ前年度ノ缺ヲ補ヒ移殖試験ヲ行ヒ同時ニ其間ニ於ケル經濟關係ヲ調査スルヲ以テ目的トナセリ

尙ホ本年度ニ於テハ右移殖試験ノ他ニ度會郡豊濱村土路西條地先ニ築立ヲナシ其養殖試験ヲ行ヒタリ

二、試験ノ方法

適當ナル海苔糞場トシテ撰定セラレタル度會郡内瀬及一志郡松ヶ崎浦ノ兩地ヲ種付糞供給地ト定メ茲ニ各二千本(千株)宛ノ糞ヲ植立シ海苔ノ着生ヲ待チテ各五百株(千本)宛ヲ桑名郡下城南村及木曾岬村ノ二ヶ所ニ分立シ原産地ニ於ケルモノト移殖地ニ於ケルモノトノ兩者ニ就キ其後ノ狀況例ヘバ色澤ノ良否、成長ノ優劣等ヲ試験シ同時ニ兩者ノ經濟關係ヲ調査シ尙ホ移殖地ニ於ケル地質トノ優劣ニツキテモ之レヲ比較シタリ左ニ右試験并ニ調査ノ結果ヲ各種付糞原産地別トシテ列記セントス

三、内瀬種糞移殖試験  
糞材料

試驗地々方ハ背後一帯ニ樹木繁茂セル山脈ナルヲ以テ糞材料ハ任意ニ撰定スルノ便アリ。本年度ハ種々ノ比較試験ヲ行フ便宜上糞材料ハ「ホンガシ」「ビシヤタ」ノ二種ニ限り使用シ之レヲ長サ八尺ノ深ニ調製セリ

種子糞場

前年度來ノ試験ニ依リ最モ適當ト認メラレタル内瀬川口二條ノ邊ヲ狹ミテ種子糞場ヲ撰定シタリ。底質砂泥ニシテ水深大潮満潮時ニ於テ七八尺同干潮時ニ於テ二三尺トナル。十月十五日干潮時水温三尺ノ際觀測セシニ水温廿二度半比重一・〇一五

(水温)ナリキ  
同(上)ナリキ  
築立

十月十五日(舊曆九月十六日)ノ干潮時ニ於テ築立ヲ行フ植立築總數千株ニシテ一株二本立トシ七ヶ所ニ區別ス。一區ヨリ六區迄ハ三十株一柵、五柵一區トシ第七區ノミ百株ヲ以テ一區トセリ

前年度ニ於ケルト同様築立後四十日前後即チ十一月二十九日調査ノ際各區ノ築場ニ於テ肉眼ニ見得ル程度ニ成長セル海苔ノ幼芽ヲ認メタリ。然レドモ同時ニあをさノ發生著シク其後十二月九日各築場ニ就キテ調査シタルニ海苔ハ既ニ二三分乃至五六分ニ伸長シ築ノ下部約三尺ヲ除キ以上枝端ニ至ル迄一面ニ發生シあをさ亦之レト競ヒ兩者ノ間ニ着生上位置及濃淡ノ區別ヲ認メズ

築立後發芽移殖ニ至ル迄種子糞場ニ於テ觀測セル水温及比重ヲ示セバ左表ノ如シ

内瀬種糞場觀測表

月 日	時刻(干満)	天候	風向力	氣 温	水 温	比 重(水温)	備 考
十月二十九日	正午(干)	曇	西弱	10.7	17.5	1.011	
十一月四日	正午(滿)	晴	東弱	18.0	17.5	1.010	
十一月十二日	正午(干)	晴	西弱	19.0	17.5	1.011	
十一月十九日	正午(滿)	晴	西強	19.0	17.5	1.011	
十二月二日	正午(干)	晴	同	19.5	17.5	1.011	
十二月四日	正午(滿)	晴	同	10.0	11.5	1.011	
十二月十三日	正午(干)	晴	同	17.0	17.0	1.011	

各築場あをさノ發生ヲ見ルニ十一月ノ出水ニテ多少被害アリ、あをさノ着生前ヨリ多シ

移 植

肉眼ニテ始メテ海苔ノ附着ヲ認メタル十一月二十九日頃ヲ以テ移植ヲ爲スガ適當ナリシト雖モ業務ノ都合上時機ヲ失シ十二月十三日ニ至リ始メテ採取ヲ移植ニ着手シタリ。然レドモ比較試驗ノ必要上種子ノ全部ヲ移植セス之レヲ二分シ五百株(千本)ハ其儘内潮試驗地ニ殘シ他ノ五百株(千本)ヲ桑名郡木曾岬村及城南村ノ二ヶ所ニ各同數宛ヲ二分シテ移植スルノ目的ヲ以テ輸送ノ荷造ヲナセリ

荷造ノ法ハ種子篋二十五本宛ヲ一東トシ海苔着生ノ部分ハ之レヲ特製ノ被蓋ヲ以テ包ミ雨露ニ侵サル、憂ナカラシム。斯ノ如ク荷造セル篋ハ本場試驗船三水丸ガ伊勢内灣調査ニ從事スルヲ幸ヒ便船ヲ乞フコト、シ全部ニ積載シテ十二月十三日内潮出發翌十四日午前十時頃桑名郡沖海苔築場附近ニ到着シタリ。斯クシテ城南村ニ於テハ翌十五日ヲ以テ全部ノ篋立ヲ終リ木曾岬村ニテハ一時木曾川石堤附近ノ海水中ニ浸漬シ置キ越エテ十九日夜ノ干潮時ニ於テ濱立ヲ終了セリ

又一方比較試驗ノ爲メ内潮ニ殘留セシ篋ハ同浦内ニ於テ移植ノ效果如何ヲ試驗センカ爲メニ其一部ヲ鹹度低キ川口附近ニ移植シタリ

移植後ノ經過及海苔採製狀況

桑名郡下ニ移植セル種子篋ハ専ラ城南村後藤元次郎及木曾岬村黒宮兵太郎ノ兩氏ニ委託シ海苔移植後成長ノ模様色澤ノ變化等ニ關スル報告并ニ海苔採製狀況、製品々質ノ良否等ニツキ詳細ナル報告ヲ得タルヲ以テ此等ヲ本場調査ノ結果ト綜合シ其概畧ヲ記述セバ左ノ如シ

木曾岬村移植場

十二月十四日ニ移植シタル篋ハ同十九日全部ノ築立ヲ終リ同二十八日第一回調査ヲナシタルニ色澤稍變ジテ黒褐色トナリ成長亦良好ニシテ一寸内外ニ伸長シ又海苔ト同時ニ着生夥多ナリシハをさノ大半ハ枯死セルヲ認メタリ

斯クテ大正三年一月十五日ニ至リ四寸内外ニ伸長セルヲ見テ茲ニ第一回ノ採採ヲ行ヒ製品五百枚ヲ得爾後三月二十八日ニ至ル

迄潮時毎ニ摘採シ其回数六回ニ及ビ就中二月中ヲ採製ノ盛期トナシタリト雖モ赤潮等ノ來襲ニ逢ヒテ各濱場トモ其被害尠少ニ非ラザリキ、即チ二月八日ニ於ケル霰雪ノ後木曾岬村地帯ノ大部分ハ枯死脱落シ只本場移植場及三河移植場ノミ其被害ヲ認メザリシガ二月二十五日頃ヨリ赤潮ノ發生ニヨル被害ト覺シク海苔ハ築ノ下部ヨリ腐敗シ始メ上部亦光澤ヲ損ジ赤青色ヲ呈シ成長從ツテ不良ナリキ。赤潮ハ其後數日ニ亘リ尙ホ減退セザリシガ三月六日朝來ノ風雨ニヨリ木曾川ノ増水三尺ニ達シ赤潮亦消失シ海水常態ニ復シ同月中旬ノ潮時ニ於テハ相當摘採ヲ爲シ得タリシト雖モ氣候温暖ニ趣クニ從ヒ漸ク腐敗ヲ來タシ三月二十八日摘採以後ハ全部脱落流失スルニ至レリ

十二月移植後流失迄ニ摘採抄製セル海苔ノ數量ヲ示セバ左表ノ如シ

採製月日	數量(枚)	摘	要
一月十五日	500	四寸内外ニ伸長セリ	
自一月三十日	370		
至二月十二日	560		
自二月十六日	420		
至三月十七日	130	二十五日頃ヨリ赤潮來襲下部ノ海苔腐敗シ上部モ色澤衰フ	
三月十五日、六日	130	然レドモ三月六日ノ風雨ニテ赤潮消失セリ採製少キハ赤潮ノ被害ニヨル	
三月二十八日	30		
計	1650	(此見積金高 百十四圓四十四錢三厘)一帖七錢割	

備考 二月中ノ潮時摘採ノ筈ナリシ篋ノ一部ハ乾場不足ノ爲メ次潮ニ繰延ベ置キタルニ其後赤潮ノ被害并ニ風雨ニ逢ヒ四五十本ノ採採ヲ流失セシメタルニ付採製數量ヲ減シタルモノト思惟ス

城南村 移植場

十二月十四日移植シタル藻ハ翌十五日全部鎮立ヲ終リ大正三年一月十八日二十日ノ兩週ニ亘リ第一回ノ摘採ヲナセリ。之レヲ地藻ト比較スルニ成長稍劣リ色澤ハ一見地藻ト大差無キガ如シト雖モ一般ニ赤色ヲ帯ブルノ感アリ、尙ホ移植時既ニ五六分ニ成長シ居タリシヲ以テ其ノ状態ノ異ル場所ニ急激ニ移サレタル影響ナランカ第一回摘採ノモノハ一般ニ海苔ノ力弱ク容易ニ採取セラレタリ。

然レドモ其後ノ成育ハ良好ニシテ地藻トノ間ニ優劣ナク巾廣キハ七八分長サ八九寸ニ伸長シ着生力モ亦時日ノ經過ト共ニ回復シ第二回、第三回摘採ニ際シテハ色尙ホ赤色ヲ帯ビ居タリシガ第四回摘採ノ頃ニ至リテハ地藻ト何等ノ相違ヲ認メザリシヲ以テ第五回以後ノ摘採ハ尤物ヲ得ルノ見込ニテ大ニ嚮望スル所アリシニ俄然三月六七日ノ暴風雨襲來ニヨリ藻ノ大部分ヲ流失セシメ甚シキハ一柵(二十八株立)二三株多クモ七八株ヲ殘存セシニ過ギザル状態ナリシガ尙ホ藻ノ全部ヲ流失セシムルニ至ラザリシヲ以テ地藻トノ比較ヲ繼續スルコトヲ得タリ

即チ三月終潮ヨリ四月初潮ニ及ビテハ色澤共ニ良好ニシテ地藻ニ比シテ寧ロ勝レルノ感アリタリ。一月十八日第一回ノ摘採ヲナシテヨリ四月上旬ニ至ル迄回ヲ重スルコト五回、中途藻ノ大部分ヲ流失セシメタリト雖モ此間抄製總數量一萬千三百六十枚此價格七拾參圓八拾四錢(最高七錢八厘)ニシテ若シ此ノ被害ナカラシカ尙ホ參拾五圓内外ノ增收アリシ見込ナリ。尙本決ニハ同時ニぎんあせさノ着生多ク爲メニ摘採ニ際シ海苔ト混ジ其撰別ニ少ナカラザル困難ヲ感ジタリ

内瀬種場及移植場

桑名郡下ニ移植セル後比較試驗ノ爲メ殘シタル藻五百株ノ一部ハ更ニ内瀬川々口、濱川、本川ノ二ヶ所ニ移植シ其成育并ニ色澤變化ノ如何ヲ試驗シタレドモ種藻場ニ於ケルト異ナル變化ヲ認メ最長一寸五分位ニ伸長セルノミニシテ色澤依然トシテ黃褐色ヲ呈シ途ニ抄製ノ程度ニ成育セス三月末日頃ヨリ全ク脱落消失スルニ至レリ

此レニヨリテ見ルニ内瀬浦ニ於テハ相當ノ川アリテ淡水ノ注入アリト雖モ而モ其川ハ山間ノ清澄ナル溪流ノ集合ニシテ田圃其

他ヨリスル肥料多キ水ヲ注入スルコト無ケレバ海苔ノ發育ニ要スル營養分ノ缺乏セル爲メニ種藻場トシテハ適當ナレドモ養成場トシテノ價值全ク無キモノト云フベシ

但シ本浦中内瀬川ニ對スル濱邊ニ田圃ヨリ落ち來ル小川ノ口ニ狭小ナル養成場アリ、然レドモ此レトモ地盤平坦ナラズシテ良好ナル養成場トハ云フ可カラズ

四、松ヶ崎種藻移植試驗

藻 材 料

藻材料ハ内瀬ヨリ供給ヲ受ケタルヲ以テ内瀬養殖場ニ植立セルモノト同様「ホンガシ」「ビシヤタ」ノ二種ヲ限リ長サ八尺トセ

種 子 藻 場

試驗ノ目的移植ニアリ從ツテ藻ノ長サハ土地ノ狀況ニ適セズ長キニ過ギタルガ爲メト、單ニ附着ノ良好ナルヲ要スルノ結果、前年ノ試驗及澆筋其他ノ關係上附着良好ト知ラレタル、當業者藻場ノ沖ニ當ル干潮時ニモ猶且水深一尺五寸以上アル場所ニヶ所ヲ種子藻場トシテ撰定シタリ

藻 立

十月十四日(九月十五日)ノ干潮時ニ人夫八人ヲ使役シテ藻立作業ニ從事ス、然レドモ天候不穩ニシテ大千潮時ナリシニモ係ハラズ水深二尺五寸餘ニ及ビ、加フルニ干潮ノ時刻短ク遂ニ豫定數量ノ藻立ヲナスコト能ハズ、第一號藻場ノミノ植立ヲ終リテ引上ゲタリ。其後雨天續キニテ藻立ノ機無ク漸ク十五日ニ至リ月夜トナリシヲ以テ第二號區ノ藻立ヲ終了スルコトヲ得タリ

各區ニ於ケル藻ノ數量左ノ如シ

第一號區藻場

總株數 五百六十株(但シ一株二本立)

一柵二十八株立トシ二十柵ニ植立、之レヲ四切トナス(株ノ間隔ハ三尺、柵相互ノ間隔ハ一間、各切間隔ハ三間トス)

第二號區築場

總株 數四百四十株

一柵二十二株立トシ二十柵ニ植立、之レヲ四切トナス(株、柵、切ノ間隔ハ第一號區ニ同ジ)

發芽及其狀況

十二月四日調査ノ際ハ未ダ肉眼ニテ見得ル程度ニ海苔ノ成長ヲ見ザリシト雖モ同所ニ於テ九月中旬頃築立セル當業者ノ築ニハ十二月九日明カニ海苔ノ着生ヲ認メタルヲ以テ此頃既ニ本場築場ニモ着生シ居タルモノト思惟セラレ

移植ノ當時即チ大正三年一月上旬海苔着生狀況ヲ調査シタルニ一般ニ本築場附近ハ海底ヨリ上方一尺位ノ所ヨリ直立三尺位迄ガ海苔ノ着生層ナルガ如ク着生ノ海苔ハ細長ニシテ大抵七八分位ニ伸長シ黃褐色ヲ呈シ所謂猫毛、眞鍮海苔ノ如クナリシカ着生良好ニシテあをさ、ふじつば(方言せんば)等他物ノ附着ヲ見ズ

移 殖

十二月中旬移植スベキ好機ヲ逸シ遂ニ大正三年一月十日ニ至リ漸ク之レニ着手シ今回モ亦試驗船三水丸ノ伊勢灣調査ノ便ニ依頼シ移植築ノ全部ヲ積載シテ桑名郡城南村及木曾岬村ノ兩所ニ輸送セリ、而シテ此處ニモ内瀬ニ於ケルト同様、比較試驗ノ必要上第二號築場ハ其儘殘シテ地築トシテノ經過ヲ試驗スルコト、シ第一號築場ノ内五百株ヲ移植築トシ又之レヲ兩分シ各五百本宛ヲ城南村及木曾岬村ニ植立スルノ目的ヲ以テ内瀬ニ於ケルト同様ニ荷造シ二十五本ヲ一東トシ海苔ノ着生部分ヲ菰ヲ以テ蔽ヒ雨露ノ害ヲ避ケタリ

斯ク荷造セル築ノ全部ハ一月十一日正午頃桑名郡沖ニ到着シ城南村木曾岬村共ニ翌十二日ニ於テ全部ノ築立ヲ終了セリ  
又一方松ヶ崎第一號築場ニ於ケル残り百二十本ノ築ハ其種子築場ニ於ケルモノトノ成育色澤等ノ變化如何ヲ試驗スル爲メニ之

レヲ三度川口近クニシテ鹹度低ク川水ノ影響ヲ直接受クル部分ニ移植シタリ  
移植後ノ經過及海苔採採狀況

桑名郡下ニ移植セル築ノ移植後ニ於ケル狀況ハ内瀬種築ト同様之レヲ委托セル後藤、黒宮兩氏ノ報告ニヨリ綜合シテ概要ヲ記セバ左ノ如シ

城南村移植場

一月十一日移植シタル松ヶ崎種ハ其移植期稍後レ移植當時既ニ海苔ハ七八分ニ成育シ居タリシト雖モ之レヲ地築ニ比スルニ其色澤著シク劣レリ、然レドモ移植後ハ其成長速カニシテ地築内瀬種ノ遠ク及ゾ所ニ非ズ、二月二日即チ移植後二十日間ニシテ長キハ一尺以上ニ伸長セシモノアリ。サレド第一回摘採當時ハ長サニ比シテ巾狭カリシノミナラズ其質脆クシテ百枚抄製ノ中完全ニ簞ヨリ離レタルモノ十八枚ニ過ザリキ。其後第二回摘採ノ際ニハ稍巾モ廣ク色澤モ亦良好ニシテ黒色ヲ帯ビ居タレドモ抄製ノ結果ハ光澤少ク、第三回摘採ニ於テハ色ハ再ビ赤色ヲ帯ブルニ至リ其後引續キ色澤惡シク成長亦次第ニ不良トナリ四月上旬第六回摘採ニ際シテハ更ニ海苔ノ質稍強韌トナリ其後氣候ノ温暖ニツレ全ク脱落流失スルニ至レリ。二月上旬初採ヲナシテヨリ四月上旬ニ至ル迄摘採抄製五回製品總數量一萬〇五百七十枚此價格七拾壹圓八拾七錢(一帖四錢五厘)ニシテ若シ此種築ニシテ内瀬種ト同時ニ十二月中ニ移植シタルニハ更ニ參拾圓内外ノ增收アリシ見込ナリ

木曾岬村移植場

一月十一日移植シタル松ヶ崎種ハ前記城南村ニ於ケルモノト同様移植當時既ニ七八分ニ伸長シ其色澤惡シク黃褐色ヲ呈シ居タリシガ同月十五日頃ヨリ色澤稍變ジテ良好トナレリ見二月十日第一回ノ摘採ヲナセリ。此種ハ成長良好ナレドモ巾比較的狭ク抄製ニ不便ナリキ。前記内瀬種ト同様二月二十五日頃ヨリ赤潮ノ來襲ニヨリ築下部ノ海苔ハ腐敗ヲ始メ上部モ亦色澤失ハレテ赤青色トナリ三月初メノ風雨ニヨリ赤潮消失シ海水常態ニ復シタリト雖モ而モ此等ノ變調ニヨリ海苔ノ收穫ハ頗ニ減ジ四月三日第五回ノ摘採ヲ終リテ後ハ氣候ノ温暖ニツレテ海苔ハ全部脱落消失スルニ至レリ。移植後各潮時毎ニ抄製セシ數量ヲ表



記セバ左ノ如シ

採製月日	數量(枚)	摘	要
自二月十一日 至全月十三日	一、四〇	狹長ニシテ抄製困難ナリ	
二月二十四、五日	二、五〇	二十五日頃ヨリ赤潮來襲、葉ノ下部ヨリ腐敗ヲ始メ上部ハ色澤消シ成長從ツテ惡シ	
自三月七日 至全月七日	三、〇〇	三月六日朝來ノ風雨ニテ赤潮消失ス	
三月十七、八日	一、五〇	赤潮ノ被害ニヨリ抄製數量少シ	
自三月二十八日 至四月三日	一、九〇	成長惡シキト雨天ノ爲メ抄製數量少シ	
計	一〇、〇〇	(此見積金額 七十圓五十六錢) 一帖七錢割	

備考 移殖時期後レタル爲メ收穫從ツテ少ナカリシナルベシ

松ヶ崎種藻場及移殖場

一月十日桑名郡下ニ移殖シタル第一號藻場ノ殘部即チ種藻場ヨリ更ニ三度川口適地ニ移殖シタル藻及種藻場ニ其儘放置セラレタル第二號藻場ノ藻ハ共ニ其後降雨ナカリシ爲メ幾分ノ成長ヲナシタルノミニテ二月中ハ色澤共ニ惡シク到底製品トシテ販賣スルノ價值カリシヲ以テ抄製ヲ爲サザリシガ三月上旬ニ至リ降雨多ク從ツテ色澤伸長共ニ良好トナリ本場藻場ノミナラズ附近藻場一帯ニ前年ニ比シ色澤成育共ニ勝レルヲ認メタリキ。然レドモ三月二十七日ヨリ暴風雨ニ逢ヒ海苔ハ大半脱落シ四月ニ入りテハ全部消失シ其片影ダモ認メザルニ至レリ松ヶ崎ニ殘留セル藻全部ニテ三月中旬ヨリ下旬ニ及ビ摘採抄製セル數量四千篋八十枚此價格九圓六拾八錢(一帖) 貳錢參厘七毛(ナリトス)

五、移殖經濟關係

内瀨及松ヶ崎ニ産スル海苔ハ共ニ之レヲ桑名郡下海苔養殖場ニ移殖セバ其成長色澤共ニ變ジテ良好トナリ其效果甚大ナルコトハ既ニ數回ノ試験ニヨリテ明カトナレリ。然ラバ此等種藻移殖ヲナストセバ其間ニ於ケル經濟的關係ハ如何左ニ之レヲ本年

度試験ノ結果ニ基キ種藻產地別トシテ明記セントス

内瀨種藻移殖ニ關スル收支計算

(篋千本(五百株)ニ關スル收支計算ニシテ摘採、抄製等ニ關スル經費ノ如ク原產地移殖地ニ共通ニシテ特ニ移殖ニ關シテ必要ナラザル經費ハ之レヲ計上セズ)

1、内瀨原產地ニ於ケル收支計算

支出之部

一金拾六圓貳拾錢

内 澤

金拾圓也

金參圓也

金參圓也

金貳拾錢也

收入之部

ナ

差引 金拾六圓貳拾錢也

2、桑名移殖ニ於ケル收支計算

損 失 高

總 高

篋千本代 (但シ一本ニツキ壹錢)

採製人夫賃 (男 四人)

採製人夫賃 (女 五人)

採立人夫賃 (夜間五人)

借 船 料

(移殖用海苔着生藻ハ本場内瀨種藻ニシテ特ニ種藻トシテ購入シタルモノニ非ザルヲ以テ茲ニハ便宜上普通藻ト同價トシ之レニ算立諸費一切ノ實費ヲ合シテ其價格トシタリ)

支出之部

一金參拾八圓貳拾貳錢也

内譯

金拾六圓貳拾錢也

金拾九圓〇貳錢也

金參圓也

收入之部

一金百八拾八圓貳拾八錢參厘

差引 金百五拾圓六錢參厘

利 益

備考 移殖運搬ニハ試驗船三水丸ノ便ヲ借リタルヲ以テ其コークス油代等實費ヲ計上シタルニ過ギズ從ツテ普通運

搬船ニ依頼スル時ハ運賃ハ更ニ高價ニシテ一本ニ付四厘内外ヲ要ス

又實際ニ種籐ヲ購入スル場合ニハ普通籐ヨリ高價ナルハ勿論ナリ

松ヶ崎種籐移殖ニ關スル收支計算

(同 前)

1、松ヶ崎原產地ニ於ケル收支計算

支出之部

一金拾六圓貳拾錢

内譯

金拾圓也

金參圓也

金貳拾錢也

金拾圓也

金參圓也

金貳拾錢也

金拾圓也

金參圓也

金貳拾錢也

金拾圓也

金參圓也

金貳拾錢也

金拾圓也

金參圓也

金貳拾錢也

金拾圓也

金參圓也

金貳拾錢也

金拾圓也

金參圓也

金貳拾錢也

金拾圓也

金參圓也

金貳拾錢也

金拾圓也

金參圓也

金貳拾錢也

金拾圓也

金參圓也

金貳拾錢也

金拾圓也

金參圓也

金貳拾錢也

總 高

種籐千本代 (原產地支出之部参照)

運 搬 賃 (石油發動機船一隻雇入)

籐立人夫賃 (コークス油代等實費)

總 高

(但シ海苔 二萬七千七百〇九枚代)

利 益

備考 移殖運搬ニハ試驗船三水丸ノ便ヲ借リタルヲ以テ其コークス油代等實費ヲ計上シタルニ過ギズ從ツテ普通運

搬船ニ依頼スル時ハ運賃ハ更ニ高價ニシテ一本ニ付四厘内外ヲ要ス

又實際ニ種籐ヲ購入スル場合ニハ普通籐ヨリ高價ナルハ勿論ナリ

松ヶ崎種籐移殖ニ關スル收支計算

(同 前)

1、松ヶ崎原產地ニ於ケル收支計算

總 高

種籐千本代 (但シ一本ニ付壹錢)

籐調製人夫賃 (男四人)

籐立人夫賃 (夜間五人)

借 船 料

借 船 料

借 船 料

借 船 料

借 船 料

借 船 料

借 船 料

借 船 料

借 船 料

借 船 料

借 船 料

借 船 料

借 船 料

借 船 料

借 船 料

借 船 料

借 船 料

借 船 料

借 船 料

借 船 料

借 船 料

借 船 料

借 船 料

借 船 料

借 船 料

借 船 料

借 船 料

借 船 料

借 船 料

借 船 料

借 船 料

借 船 料

2、桑名移殖地ニ於ケル收支計算  
(移殖用海苔着生籐ハ本場松ヶ崎種籐ニシテ特ニ種籐トシテ購入シタルモノニ非ザルヲ以テ茲ニハ便宜上普通籐トシテ同價トシ之レニ籐立諸費一切ノ實費ヲ合シテ其元格トシタリ)

備考 移殖運搬ニハ試驗船三水丸ノ便ニヨリタルヲ以テ其費用ハコークス、油代等ノ實費ヲ計上シタルニ過ギズ從

六、結 論

ツテ之レヲ普通運搬船ニ託スル場合ニハ、一本ニ付四厘位ノ運賃ヲ要ス

本場ニ於ケル海苔養殖試験ノ結末トシテ同移殖試験ヲ施行シ原産地内瀬及松ヶ崎種藻夫々千本宛ヲ桑名郡下ニ移殖シタル結果成績頗ル良好ニシテ成長色澤ノ良變スルノミナラズ經濟上ノ利益甚大ナルコトヲ體メ得茲ニ種藻原産地タル内瀬松ヶ崎兩地及移殖地タル桑名郡下海苔養殖場ニツキ結論スルコト左ノ如シ

- 一、内瀬海苔養殖場ハ眞ノ種藻供給地ニシテ養成場トシテノ適地殆ンド無シ、從ツシ養成場ヲ有スル各地ト相俟テテ築立ヲナシ種藻ノ供給ニ任ズルヲ可トス
- 二、松ヶ崎海苔養殖場ハ養成場トシテ多少ノ望無キニ非ザレドモ降雨ヲ待チテ始メテ稍色澤及成長ノ良變ヲ見ル如キ状態ナルヲ以テ養成場トシテハ不確實ナルモノナリ。サレバ寧ロ其養成場全部ヲ舉ゲテ移殖種藻場トシ之レヲ桑名郡ニ供給シ種藻移殖後更ニ地築立ヲナスモ可ナラン
- 三、桑名郡海苔養殖場ハ養成場トシテ絶好ノ地ナルヲ以テ内瀬又ハ松ヶ崎ト提携シテ此等兩地ヨリ種藻ノ供給ヲ受ケ益々其養成場ヲシテ擴張セシムルヲ可トス

因ニ桑名郡下各漁業組合ニテハ本場ノ海苔移殖試験結果ヲ見又本場ノ獎勵ニヨリ大正三年二月既ニ内瀬及松ヶ崎種藻購入ニ關シ關係漁業組合ト契約シ來年度ニ於テ第一回移殖ヲ試ムルコトニ決セリ

七、度會郡豐濱村海苔養殖試驗

度會郡豐濱村土路西條區地先相合川附近ニテハ年々石垣其他ノ木石ニ海苔ノ附着多ク爲メニ之レニ適當ナル方法ヲ講ジタラシニハ相當ノ生産ヲ上ゲ得ル見込ニテ當地西條青年會ノ懇望ニヨリ川口數ヶ所ヲ撰ビ之レニ築立シテ海苔ノ附着如何ヲ試驗シタリ

地 勢

相合川ハ宮川ノ北ニ位シ其川口海ト連絡セル部分ハ北西及南東ヨリ突出セル細長ナル砂洲ニヨリテ狹メラレドモ内部ハ稍廣ク附近ニハ「アルタ」狀ノ小島、砂洲多ク散在シ、底部細砂又ハ砂礫ノ平坦ナル場所少ナカラザレドモ皆此等ノ洲ニヨリテ個々ニ分離セラレ宏大ナル面積ヲ成スニ至ラズ、加フルニ相合川ノ水量比較的僅少ニシテ海水干満ノ差一尋以上ニ及ブ此地方ニ於テハ海水ノ影響ハ川口ヨリ里餘ノ上流ニ迄達スル如キ状態ナルヲ以テ海苔養殖場トシテ必要ナル海水鹹度ノ融和思ハシカラズ從ツテ川水ニ依リテ運搬セラルベキ營養分亦缺乏セルヲ以テ適好ナル海苔養殖場トハ云ヒ難シ

築 立 場

試驗ノ目的ハ海苔着生ノ如何ニ在リ加ウルニ川口ハ種々ノ砂洲ニヨリテ川水ノ流ル、方向、潮流ノ通ズル滲ニ變化アリシヲ以テ築立場ハ第一號ヨリ第七號ニ至ル七ヶ所ヲ撰定シタリ。場所ハ附圖ニ示スガ如ク第一、第二、第三號ハ相合川ノ比較的上流ナル西條區地先、第四號、第五號ハ字釜屋ノ堤防下ニ第六號ハ字西浦ノ南岸近ク第七號ハ西浦ノ東方海筋ニ接近シテ之レヲ設ケタリ

以上七ヶ所ハ馴レサル人夫ニハ築立作業困難ナリシ程底質堅キ砂土、水深満潮時六七尺ノ場所ニシテ一ツハ天然ニ海苔ノ發生多キ場所他ハ海苔ノ色澤良好ナル場所ヲ撰定シタルナリ

藻ノ種類及其數量

今回試験ニ使用セシ藻ハ總數五百本ニシテ材料ハ樫「ビシヤタ」ノ二種ニ限リ此レヲ二本一株トシ二百五十株ヲ植立シタリ。前記七ヶ所ノ築立場ニ於ケル藻ノ種類及數量左ノ如シ

築 立 場	株 數	藻 材 料
第一號築立場	四十五株(十五株宛 三列)	ビシヤタ
第二號築立場	二十株(十株宛 二列)	樫
第三號築立場	三十株(十株宛 三列)	樫

第四號 築場	四十五株(十五株宛 三列)	ビシヤタ
第五號 築場	六十株(十五株宛 四列)	樅
第六號 築場	三十株(十株宛 三列)	ビシヤタ、樅
第七號 築場	三十株(十五株宛 二列)	ビシヤタ

築ノ調製及築立

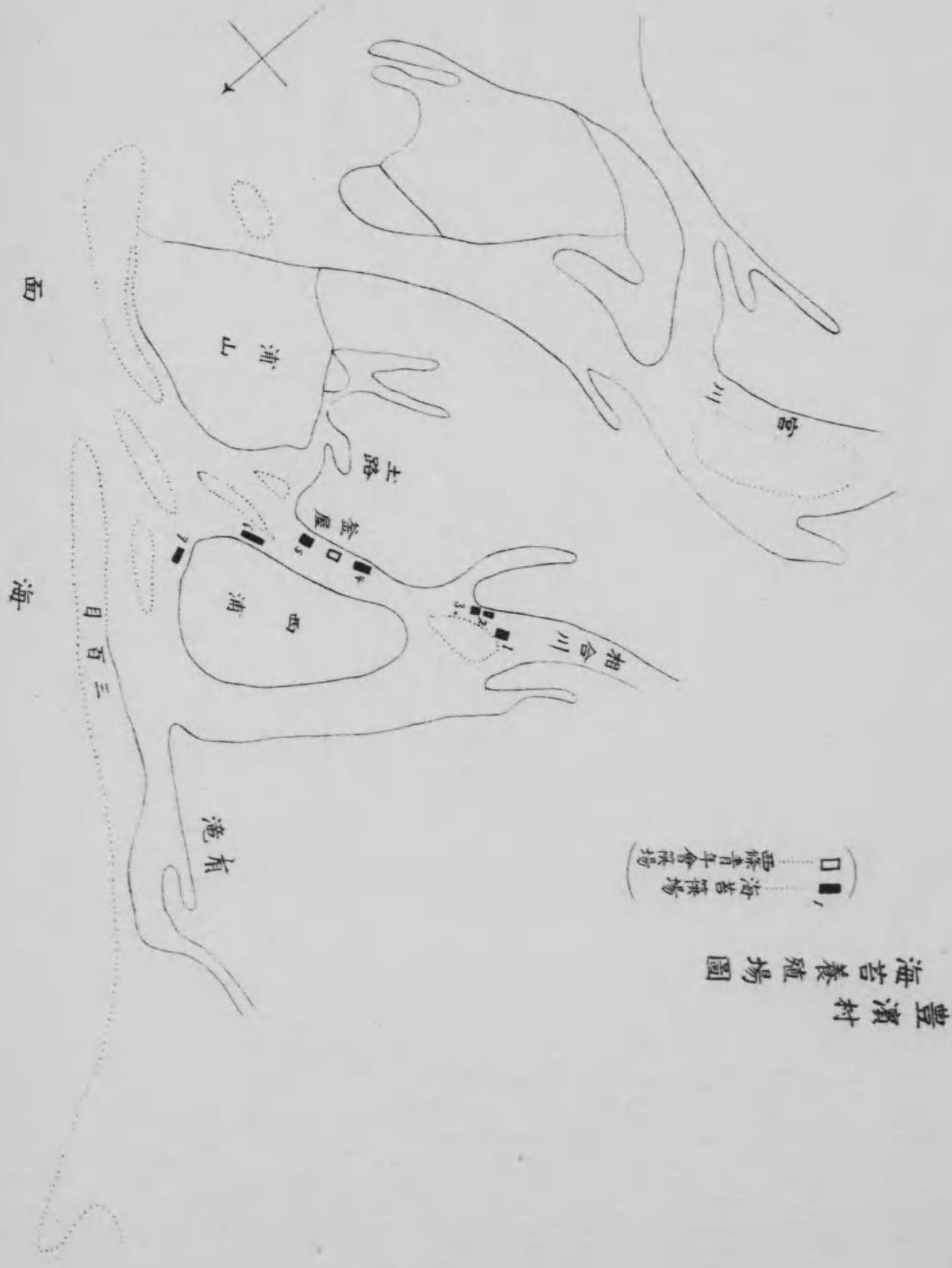
築材料ハ度會郡穂原村内瀬ヨリ供給ヲ受ケタルモノニシテ山出シ九尺ノ粗朶ナリシヲ以テ之レヲ長サ八尺ノ築ニ調製シ十月十二日(舊曆九月十三日)ノ干潮時ニ於テ築立ヲ行ヒタリ、前記ノ如ク試験ノ目的着生ノ如何ニアリタルヲ以テ可及的廣キ面積ニ亘リ築立セントシ築柵各株間前後ノ距離ヲ一間、各柵ノ間隔ハ一間半ト定メタリ

試験ノ結果

築立後時々状況調査ヲナシタレドモ各築場共ニ干潮時ニハ一見伸長セル海苔ノ着生セルガ如ク「エクトカーブス」及藍藻類(方言ドコ)等下等藻類ノ附着繁殖夥多ニシテ到底海苔ノ着生ヲ豫期シ能ハザリシ程ナリシガ大正三年一月中旬ニ至リ精細ニ各築場ニウツ調査シタルニ二三分以上二三寸ニ伸長セル海苔ハ前記下等藻類ノ生セル間隙ヲ求メテ着生セルヲ認メタリ。此レニヨリテ見ルニ相合川附近ニ於ケル海苔ノ着生ハ十二月中旬頃ニシテ其着生層ハ川底ヨリ上方三尺位迄ノ間ニアルガ如シ尙ホ相合川々口附近殊ニ第六號築場附近ニハ築以外川底ノ石又ハ「オコノリ」「ムカデノリ」(方言サクラノリ)其他ノ藻類ニ海苔ノ着生セルモノ多ク此等ハ何レモ成長良好ニシテ二三寸以上五寸位ニ伸長セルヲ認メタリ

今回試験ノ結果ハ大要以上ノ如クニシテ單ニ一回ノ試験ニヨリ其場所ノ適否如何ヲ斷定スルハ穩當ニ非ザルベシト雖モ今回ノ試験ノ結果ノミニヨリ之レヲ見ル時ハ相合川々口附近ハ適好ナル海苔養殖場ニハアラザレドモ築立ノ場所ト其時期トヲ誤ラザレバ相當海苔ノ着生アルヲ以テ下等藻類ノ發生少ナキ年ニ於テハ相當ノ生産ヲ上グルコトヲ得ベシ

参考ノ爲メ築立後各築場ニ於テ觀測シタル水温、比重其他氣象ノ概要ヲ記セバ左ノ如シ



豐濱村地先海苔養殖場觀測表															
(本觀測ハ全地四條青年會幹部ニ委嘱シテ行ヒタルモノナリ)															
觀測月日	時刻潮時	觀測場所	天候	向風力	氣温	水温	比重(水溫)	水深	備考						
十一月十六日	至正前十一時	第一號養場	晴	西、和	一五.五	一八.〇	一.〇一〇	一.八		同	同	同	同	同	
同	潮	第二號	同	同	一五.〇	一八.〇	一.〇一〇	一.八		同	同	同	同	同	
同	潮	第三號	同	同	一四.五	一七.五	一.〇一〇	一.八		同	同	同	同	同	
同	潮	第四號	同	同	一四.〇	一七.〇	一.〇一〇	一.八		同	同	同	同	同	
同	潮	第五號	同	同	一三.五	一六.五	一.〇一〇	一.八		同	同	同	同	同	
同	潮	第六號	同	同	一三.〇	一六.〇	一.〇一〇	一.八		同	同	同	同	同	
同	潮	第七號	同	同	一二.五	一五.五	一.〇一〇	一.八		同	同	同	同	同	
十一月十三日	自前十一時至後一時	第一號養場	晴	西、和	一五.五	一八.〇	一.〇一〇	一.八		同	同	同	同	同	
同	潮	第二號	同	同	一五.〇	一八.〇	一.〇一〇	一.八		同	同	同	同	同	
同	潮	第三號	同	同	一四.五	一七.五	一.〇一〇	一.八		同	同	同	同	同	
同	潮	第四號	同	同	一四.〇	一七.〇	一.〇一〇	一.八		同	同	同	同	同	
同	潮	第五號	同	同	一三.五	一六.五	一.〇一〇	一.八		同	同	同	同	同	
同	潮	第六號	同	同	一三.〇	一六.〇	一.〇一〇	一.八		同	同	同	同	同	
同	潮	第七號	同	同	一二.五	一五.五	一.〇一〇	一.八		同	同	同	同	同	

大正三年一月二日																			
湖	至自 同后 千四 時時				湖	至自 同前 滿十一 時時				湖	至自 同后 滿六 時時				湖				
同	第	第	第	第	同	第	第	第	第	同	第	第	第	第	同	第	第	第	第
六	五	四	三	二	七	六	五	四	三	七	六	五	四	三	七	六	五	四	三
號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號
同	同	同	同	同	晴	同	同	同	同	晴	同	同	同	同	晴	同	同	同	同
同	同	同	同	同	西、強	同	同	同	同	東北、和	同	同	同	同	西北、強	同	同	同	同
八、五	九、〇	九、五	九、五	八、五	八、〇	八、〇	九、〇	九、〇	九、五	九、〇	八、〇	八、〇	八、〇	八、〇	八、〇	八、〇	八、〇	八、〇	八、〇
八、五	八、〇	七、五	九、〇	八、五	八、五	八、五	七、五	七、五	八、五	八、五	八、五	八、五	八、五	八、五	八、五	八、五	八、五	八、五	八、五
三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇

十一月十九日																	
同	至自 同正 午十一 時時				湖	至自 同后 三時半 時時				湖	至自 同前 九時 時時				湖	至自 同后 六時 時時	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
八、五	九、〇	九、〇	九、〇	九、〇	八、五	八、五	八、五	八、五	八、五	八、五	八、五	八、五	八、五	八、五	八、五	八、五	
八、五	八、五	八、五	八、五	八、五	八、五	八、五	八、五	八、五	八、五	八、五	八、五	八、五	八、五	八、五	八、五	八、五	
三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	
一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	

自第一號至五號採場ニハ  
「エクトカーブス」及「藍藻  
類」(リブラリア)ノ方目下  
コノ附着著シタ多シ

第六、七號採場ニハ其着  
生少シ







害ヲ被レリ元來此養殖池附近一帶ノ地質ハ砂質ナルヲ以テ外部ノ水ノ増減ニヨリ注水部水門ノ閉鎖セラレアルニモ係ラズ滲透地下水ノ爲メ試驗地内ノ水量モ從ツテ増減セラル、ガ當ニシテ暴風被害當夜ノ如キハ外部ノ水量噸ニ増加シ水面異常ニ嵩マリタルヲ以テ堤防ノ内部試驗地内モ亦一面ノ水ヲ以テ蔽ハレ三池ノ區劃ハ見ルニ由ナク將ニ水ハ堤防ノ内外相通ジント、加フルニ雨水ハ池水ノ鹹度ヲ減ジ池水ノ全部ハ殆ンド淡水化スルニ至レリ爲メニ各池區別シテ放養シタルモノモ各所ニ散亂彼是相混同シ雨水ニヨリ猶鹹度低減シタルガ爲メ漸次瀕死ノ状態ニ陥リシヲ以テ池水ノ交換ヲ行ハントスルモ爾來數日間附近海水ハ著シク混濁シ比重又低ク容易ニ常態ニ復セザリシヲ以テ次第ニ池中ノ蝦ヲシテ不健康ニ陥ラシメ索餌セザルニ至リ其後相次ギテ斃死シ遂ニ單ニ成長度ノ標準ヲ知り夏期炎暑ノ候ニ於テモ能ク池中ニ於テ生活ニ堪ヘ得ルノ事實ヲ確メタルニ過ギズシテ之レガ主眼トスル各種經濟關係ノ調査ヲ遂グル能ハザリシハ甚ダ遺憾トスル處ナリ、依テ茲ニ第二期試驗冬越タル蓄養試驗ヲ行フ目的ヲ以テ更ニ十月十六日ヨリ同二十一日ニ至ル四日間ニ於テ各池ノ掃除ヲ爲シ池底ニ泥土ヲ堆積スルモノハ之レヲ除キ又一部分ノ敷砂ヲ取換ヘ同郡豐濱村及北濱村ノ打瀬網漁業者ノ漁獲セル蝦三貫九百八十匁、三百八拾九尾ヲ買入レ前ニ於ケルガ如ク供餌飼育セリ然ルニ暴風雨被害後ニ於テハ注排水樋ノ周圍ニ漸次間隙ヲ生ジ滿潮時ニ於テハ海水浸入シテ潮時ニ於テハ池水漏洩シ常ニ池水ノ定量ヲ保ツ能ハザルニ至レリ、十月十八日放養當時ニ於テハ干潮時猶五寸乃至一尺ノ水深ヲ保チ得タルモ日ヲ追フテ益々其ノ漏洩甚ダシクナリ十一月月上旬ニ於テハ干潮時ニ至レバ殆ンド池水ヲ保留セザルニ至リシヲ以テ車蝦ハ寒氣ノ爲メ(特ニ夜潮ニ於テ斃死シタルモノ多シ)凍死スルニ至リ越冬蓄養試驗モ遂ニ其ノ目的ヲ遂グルコト能ハザリキ

車蝦ノ漁期及漁具

車蝦養殖試驗地附近ニ於ケル車蝦ノ漁期ハ毎年四月ヨリ十一月迄ニシテ四月ヨリ六月頃ニ至ル間ハ蝦陸岸近ク水深三尋乃至十尋ノ底質細砂及砂泥地ニ棲息スルモ七、八月頃ヨリ漸次沖合ニ移動スルニ至ル依テ四月ヨリ六月頃ニ至ル間ハ多ク磯曳網ヲ以テ捕獲スレドモ七、八月頃ヨリ以後ニ至レバ打瀬網及浮曳網ヲ以テ之レヲ漁獲ス

種蝦ノ放養

種蝦ハ上述ノ如ク度會郡北濱村豐濱村ノ漁業者ノ磯曳網及打瀬網ヲ以テ捕獲シタルモノヲ買ヒ入レ放養シタルモノニシテ第一回ハ五月十三日ヨリ同十六日ニ至ル三日間北濱村漁業者ノ磯曳網ヲ以テ漁獲シタルモノヲ放養シタルニ夜間網ヲ投ジ、拂曉養殖場ニ到着ス其ノ間船中ノ活溜中ニ蓄養シ置キ養殖場ニ到着後直チニ放養シタルヲ以テ斃死シタルモノ及傷害ヲ受ケタルモノ少ナシ、第二回放養シタルモノハ豐濱村及北濱村ノ打瀬網漁業者ノ捕獲シタルモノナルヲ以テ傷害ヲ受ケタルモノ又ハ斃死シタルモノ比較的多シ何レモ放養ノ際之等ヲ除キ健康ナルモノ、ミヲ放養セリ、放養數量及放養當時ノ大サ次ノ如シ

第一回放養ノ數量及大サ

池別	面積	放養數量		五十尾平均一尾ノ		最大		最小	
		尾數	重量	體長	體重	體長	體重	體長	體重
第一號池	五〇	二、二二三	六、四一	三、八三	三、三九	四、五	四、五	三、二	二、八
第二號池	七〇	一、二六一	一、七七〇	一、八三	一、一〇	三、一	一、六	一、三	〇、八

第二回放養ノ數量及大サ

池別	面積	放養數量		最大	
		尾數	重量	體長	體重
第三號池	四〇	三、八九	三、九〇	四、六	四、七
				七、七	一五、〇

成長度

放養當時ニ於テハ第一號池第二號池等大小ヲ區別シテ放養シタルモ上述ノ如ク暴風雨ノ爲メ彼此相混同シ兩池何レニ放チタルモノナルヤ判然シ難キモ十月十六日暴風雨後各池ニ殘存シタルモノニ付其ノ成長度ヲ示セハ次ノ如シ

池 別	放養及調査月日	五十尾平均一尾ノ大サ		大 最		小 最		景 多
		長	重	長	重	長	重	
第一號池	五月十六日放養	三、八三	三、三九	四、五	四、五	三、二	二、八	三、八
	當時ノ大サ	六、五二	一六、一〇	七、三	一三、二	六、〇	二、〇	一六、〇
第二號池	五月十六日放養	二、六三	一、一〇	三、一	一、八	二、三	〇、八	二、五
	當時ノ大サ	五、二〇	八、一〇	五、七	二、五	四、六	四、七	五、〇
當時ノ大サ	十月十七日調査							八、一

四、眞珠介養殖試験

本試験ハ志摩郡濱島村地先ニ於テ明治三十三年度以來ノ繼續事業ニ屬シ眞珠介天然養殖ノ經濟並ニ生理的未知ノ事項ニ付キ  
 試験ヲ施行シツ、アリ本年度ニ於テハ右養殖場ニ於ケル採捕整理ヲ行ヒタリ然シテ採捕シタルハ九月ニシテ十五萬三千五百十  
 三顆ヲ採取シ其ノ内處理ニ適當ナル四、五年生以上ノモノ三萬九百五十四顆ヲ處理シ二三年生以下ノモノ十二萬二千五百五十  
 九顆ハ再ビ放養セリ、處理介三萬九百五十四顆ノ處理成績ヲ示セバ次ノ如シ

大正二年度眞珠介處理成績

大正二年九月

處理介總數 三萬九百五十四顆  
 重 量 四百六十六貫百八十匁  
 空 殼 量 剝落生掛 二百八十五貫五百匁  
 半乾燥賣渡 二百五十貫八百匁(歩耗一割二分弱)  
 生肉量 一石七斗九升七合  
 眞珠量 八匁一分九厘

收 支 經 濟

收納總額金百五拾九圓九拾貳錢九厘

内 譯

空 殼 四拾六圓拾四錢七厘  
 生 肉 拾圓七拾八錢貳厘  
 眞 珠 百〇參圓

一貫匁ニ付拾八錢四厘  
 一升ニ付六錢  
 一匁ニ付拾貳圓五拾七錢六厘

支出總額金貳拾壹圓九拾錢

内 譯

採 取 費 九 圓  
 處 理 費 拾貳圓拾五錢  
 雜 費 七拾五錢  
 差引純益金百參拾八圓貳錢九厘  
 平均一萬顆處理收納額五拾壹圓拾六錢強  
 平均一萬顆處理支出額七圓拾錢七厘強  
 平均一萬顆ニ對スル純益金四拾四圓五錢九厘強

延婦延十五人一人一日六拾錢  
 女人夫延三十九人一人一日貳拾五錢  
 男人夫延六人一人一日四拾錢  
 借 船 料 其ノ 他

五、蛤 蕃 殖 試 驗

本試験ハ飯南郡港村及三重郡川越村ノ兩地先ニ於テ前年度ヨリ繼續施行スル事業ニシテ兩地先試驗地トモ前年度ニ於ケルカ  
 如ク竹簞ヲ以テ圍ヒ蛤ノ逃逸ヲ防ク設備ヲ施シ種蛤ヲ放養セリ然シテ港村地先試驗地ニアリテハ前年度末三月ニ於テ養殖地ノ

整理ヲ行ヒシ爲メ蛤ヲ採取シタルモ更ニ一ヶ年養成シタル後賣却スルヲ得策トシテ以テ再ビ放シ本年度繼續試験スルコト、セリ川越地先試験地ニアリテハ五月九日ヨリ同十二日ニ至ル四日間ニ於テ諸般ノ設備ヲ施シ同村地先ニテ採取シタル蛤ノ内比較的小形ニテ種蛤ニ適當ナルモノヲ買ヒ入レ放養シ其ノ後其ノ成育及蕃殖状況等ニ就キ調査シツ、アリシモ本年十月暴風浪ニ遭遇シ兩試験地共施行上多大ノ障害ヲ蒙レリ然レドモ本年十二月及大正三年三月兩試験地ノ蛤ヲ採取シタルニ港村試験地ニアリテハ暴風被害比較的輕易ナリシヲ以テ稍ヤ試験ノ成績ヲ認メ得タリト雖モ川越試験地ニアリテハ被害ノ程度甚シカリシヲ以テ遂ニ成績ノ見ルベキモノナカリシハ遺憾トスル所ナリ本年度兩試験ノ經過ヲ述ブレバ次ノ如シ

港村地先蛤蕃殖試驗地

試驗ノ設備前年度ニ於ケル暴風被害ノ慘狀ニ鑑ミ竹簀ノ如キモ丸竹ヲ以テ巾三尺ノ竹簀ヲ編ミ地中ニ平均二尺四五寸ヲ埋メ簀ノ周圍ニハ一尺毎ニ三尺ノ松杭ヲ打チ杭ヲ中心トシテ簀ノ前後ヨリ太サ七八寸ノ丸竹ヲ以テ挟ミ簀ヲ堅固ニ保タシメシモ十月ノ暴風浪ノ爲メ大半破壞セララル、ニ至レリ依テ被害後應急ノ修理ヲ施シ大正三年三月採取ニ至ル迄漸クニシテ保タシメタリ成長度調査ノ目的ヲ以テ金網ヲ以テ特ニ設ケタル設備モ同時ニ流失シ遂ニ成長度ノ繼續調査ヲ遂グル能ハザリキ種蛤ノ放養 種蛤ハ上述ノ如ク前年放養シタルモノヲ採取シ五石四斗ヲ本年度ノ種介トシテ大正三年三月二十六七兩日ニ於テ竹簀ヲ以テ圍ミタル八百坪ノ區域ヘ放養セリ、放養當時ノ大サ次ノ如シ

大	サ	殻長	殻高	殻幅	重量	殻長	殻高	殻幅	重量	殻長	殻高	殻幅	重量
最大		一、八八	一、五〇	一、五〇	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九
最小		一、二四	一、〇五	一、〇五	〇、七六	〇、七六	〇、七六	〇、七六	〇、七六	〇、七六	〇、七六	〇、七六	〇、七六
最多		一、〇九	一、二四	〇、六	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四	一、二四

成長度 成長度ハ蛤蕃殖上其ノ經濟ト密接ノ關係ヲ有スル以テ確實ニ其ノ調査ヲ遂ゲンガ爲持ニ金網ヲ敷設シ標準トナルベキ

小數ノ蛤ヲ放チ時々其ノ調査ヲ行ヒツ、アリシモ暴風被害ノ爲メ流失セラレ繼續調査スル能ハザリシモ蕃殖區域内ニ於ケルモノニ付キ其ノ調査ヲ行ヒタルニ次ノ如シ

調査月日	大	殻長	殻高	殻幅	重量	殻長	殻高	殻幅	重量	殻長	殻高	殻幅	重量
放養時ノ大サ		一、八八	一、五〇	一、五〇	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九
八月二十日		一、七	一、五	一、五	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六
十月十五日		一、七	一、六	一、六	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七
三月二十七日		一、六	一、七	一、七	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六
増量		〇、一〇	〇、一	〇、四	三、五	〇、三	〇、二	〇、五	三、七	〇、三	〇、一	〇、一〇	三、八〇

港村地先ニ産シタル種介ヲ二ヶ年間養成シタル其ノ成長度及増量ヲ調査スル目的ヲ以テ大正元年七月二十九日金網箱ヲ造リ試験地ノ一隅ニ敷設シ二年介ニシテ可成形状大小不同少ナキモノ百個ヲ放養シ其ノ成育状態調査シタルニ大正三年三月二十七日迄ニ得タル結果次ノ如シ

調査月日	大	殻長	殻高	殻幅	重量	殻長	殻高	殻幅	重量	殻長	殻高	殻幅	重量
放養時ノ大サ		一、八八	一、五〇	一、五〇	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九	一、四九
大正元年七月二十九日		一、七	一、五	一、五	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六
大正二年三月二十七日		一、七	一、六	一、六	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七
大正三年三月二十七日		一、六	一、七	一、七	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六
増量		〇、九	〇、一	〇、四	三、五	〇、三	〇、二	〇、五	三、七	〇、三	〇、一	〇、一〇	三、八〇

即チ増量百個ニ對シ一升二合五勺ニシテ増收額放養當時ノ四倍半ニ相當セリ

採取及整理 大正三年三月二十七日及同二十八日ノ兩日同村ノ女人夫ヲ雇入之レカ第一回ノ採取ヲ行ハシメタルニ放養區域八  
百坪ノ内約六百坪ノ場所ニ於テ七石四斗ヲ得タリ然ルニ同村地方ニ於テハかくわト稱スル鉄製ノ長四寸ノ齒七本ヲ有シ短キ柄  
ヲ附シタル熊手形ノ器具ニテ干潮時ニ於テ採取スルモノナルヲ以テ長時間作業スルコト能ハザルノミナラズ採取ノ當日ハ天候  
悪シク干潮ノ時間短カリシ爲メ全區域ヲ採取スル能ハザリシガ全區域八百坪ヲ採取スレバ優ニ八石乃至八石五斗ノ蛤ヲ得ルコ  
ト難ニアラズト思惟ス元來蛤ハ冬期ニ至レバ地中ニ潜ム事一層深クシテ春期ヨリ夏期ニ至ルニ從ヒ漸次表面ニ出ヅルモノナル  
ガ故ニ温暖ニシテ蛤ノ稍ヤ表面ニ浮ビ出ヅルノ時期ニ於テ更ニ第二回第三回ト順次採取スルニアラザレバ全部ノ蛤ヲ採取シ盡  
スコト不可能ニシテ從ツテ放養シタルモノ、増量モ明瞭ナラズト雖モ放養シタル蛤ノ成長度ヨリ之ノ増量ヲ算出スルトキハ二  
年乃至三年生介ニ於テハ二倍乃至三倍半ノ增收ヲ示シ三年生介以上ノモノニアリテハ五割乃至二倍ノ增收ヲ示セリ然ルニ蛤蕃  
殖試驗地ハ介類ノ禁漁區ニ屬シ漁業者ノ介類ヲ捕獲スルコト能ハザル場所ナルヲ以テ特ニ全部ノ採取ヲナサズ其一部ヲ殘存セ  
シメ以テ附近ニ稚介ノ蕃殖ヲ促ガシ禁漁區ノ効果ヲシテ一層大ナラシメントシ第一回以後ノ採取ハ之ヲ中止セリ  
禁漁區内ノ天然放置區域ト禁漁區附近天然放置區域トノ兩所ニ於テ各五十坪宛ヲ採取シ其ノ蕃殖保護ヲ加へタル場所ト一般漁  
業ニ委シタル場所トノ蕃殖状態ヲ比較シタルニ次ノ結果ヲ得タリ

場所	採取面積	採取量	個數	重量
禁漁區内天然放置區域	五〇	九、八〇	八五	四、四六〇
禁漁區外天然放置區域	五〇	〇、七五	三三	〇、三五

害敵 害敵トシテハ赤螺、つめたがい等ニシテ之等ノ被害ヲ受クルコト年々少ナカラザルガ故ニ時々看守人ヲシテ驅除セシメ  
ツ、アリシモ夏季ニ於テ之等ノ害敵試驗地内ニ蕃殖シ被害アリシモ甚シカラズ害敵ハ殆ンド周年試驗内ニ棲息スレドモ夏期ニ  
於テ其ノ被害尤甚シ害ヲ及ボス状態ハ兩者トモ同一ニシテ蛤ノ如ク地中ニ潜ミ居ルヲ以テ容易ニ表面ヨリ認め難キモ蛤ノ肉ヲ

喰ヒ其ノ空殻附近ニ散在スルヲ以テ其ノ空殻多寡ニヨリ其ノ被害ノ程度ヲ知ルモノニシテ之レガ驅除法トシテハ干潮時空殻ノ  
散在スル場所及蛤ノ多ク集合スル場所ヲ掘リテ驅除スルニ過ギズ  
産卵期 産卵期節調査ノ爲メ本年五月ヨリ九月ニ至ル五ヶ月間毎月試驗地蛤ヲ採取シ調査シタルニ五月ニ於テハ雌雄共其ノ生  
殖素未熟ナルモ六月ニ至リテ稍ヤ熟シ九月ニ至レバ悉ク放出後ニシテ僅カニ殘存スルモノアルニ過ザレバ七八月ノ頃尤モ旺盛  
ナルモノ、如シ、調査ノ經過ヲ示セバ次ノ如シ

調査月日	調査個數	雌		雄		摘 要
		♂	♀	♂	♀	
五月二十三日	一〇個	四	六	未熟	未熟	
六月三日	五個	二	三	未熟	未熟ナルモ稍ヤ熟シタルモ一個アリ	
六月二十五日	一〇個	四	六	稍熟ス内二個未熟	稍熟ス内一個未熟	
八月二十日	一〇個	五	五	放出後ニシテ僅カニ殘留ス	放出後ニシテ僅カニ殘留ス	
九月二日	二三個	九	四	放出後ニシテ僅カニ殘留ス	放出後ニシテ僅カニ殘留ス	

川越村地先蛤蕃殖試驗地

種蛤ノ放養 本試験地ニテハ上述ノ如ク五月九日ヨリ同十二日ニ至ル四日間ニ於テ港村試験地ニ於ケルト同様ノ設備ヲ施シ養ヲ以テ圍ヒタル面積二百六十六坪ノ中ニ川越村地先ニ於テ同地漁業者ノ捕獲シタルモノ一石五斗五升ヲ買入レ放養セリ放養當時ノ大サ次ノ如シ

大 サ 項 目	殻長		殻高		殻幅		重量		個 数 升 ノ 數 量	
	最 大	最 小	最 大	最 小	最 大	最 小	最 大	最 小	最 大	最 小
最 多	二、五 <sup>寸</sup>	一、〇〇	一、九 <sup>寸</sup>	〇、八 <sup>寸</sup>	一、九 <sup>寸</sup>	〇、五 <sup>寸</sup>	二、四 <sup>分</sup>	二、〇 <sup>分</sup>	二〇	四九〇
最 小	一、〇〇	一、三 <sup>寸</sup>	〇、八 <sup>寸</sup>	〇、五 <sup>寸</sup>	〇、八 <sup>寸</sup>	二、五 <sup>分</sup>	八、〇	二、五	一〇〇	五〇〇
最 大	一、三 <sup>寸</sup>	〇、八 <sup>寸</sup>	〇、八 <sup>寸</sup>	〇、五 <sup>寸</sup>	八、〇	二、五	七〇	五、〇〇	五六〇	

備考 平均一升ノ個數九十三個重量四百八十匁

成長度 五月十日放養シ十二月二十九日採取シタル迄ノ成長度次ノ如シ

月 日	大		小		多	
	最 長	最 高	最 長	最 高	最 長	最 高
五月十日(放養)	二、五 <sup>寸</sup>	一、九 <sup>寸</sup>	〇、八 <sup>寸</sup>	二、五 <sup>分</sup>	一、三 <sup>寸</sup>	〇、八 <sup>寸</sup>
八月十八日	二、五 <sup>寸</sup>	一、九 <sup>寸</sup>	一、〇〇	二、五 <sup>分</sup>	一、三 <sup>寸</sup>	〇、八 <sup>寸</sup>
十二月二十九日	二、六 <sup>寸</sup>	二、〇 <sup>寸</sup>	一、二 <sup>寸</sup>	二、八 <sup>分</sup>	一、四 <sup>寸</sup>	〇、九 <sup>寸</sup>
増 量	〇、〇 <sup>八</sup>	〇、〇 <sup>一</sup>	〇、〇 <sup>九</sup>	四、五 <sup>〇</sup>	〇、〇 <sup>七</sup>	〇、五 <sup>二</sup>

放養當時ヨリ捕獲當時十二月二十九日迄ニ至ル間ニ於テ一升ニ對スル増量ヲ示セバ次ノ如シ

月 日	大		小		多	
	最 大	最 高	最 大	最 高	最 大	最 高
五月十日放養	二、〇 <sup>寸</sup>	二、〇〇 <sup>個</sup>	一、二 <sup>寸</sup>	七、〇 <sup>個</sup>	一、三 <sup>寸</sup>	三、六 <sup>個</sup>
十二月二十九日採捕	一、九 <sup>寸</sup>	六、八 <sup>個</sup>	一、一 <sup>寸</sup>	三、六 <sup>個</sup>	一、二 <sup>寸</sup>	二、二 <sup>個</sup>
増 量	約二十分ノ一倍	約三倍弱	約二倍弱			

平均一升ノ個數 放養當時九十三個ニシテ採捕當時ニ於テハ四十一個トナリシヲ以テ約二倍ニ強ク増收トナレリ

採捕及整理 十二月二十八日及三月三十日ノ二回ニ採捕シタルモ暴風浪ノ爲メ脱出又ハ流出シタルガ爲メ得メタモノ僅カニ五斗六升餘ニ過ギズ然レドモ之レヲ其ノ成長度ニヨリ算出スルトキハ放養當時一升ノ個數ハ九十三個ナリシモ採取當時ニ於テハ一升平均四十一個ナリシヲ以テ約二倍強ク増收ヲ示セリ港村試験ニ於ケルガ如ク禁漁區ニ屬スルヲ以テ第一回ノ採取ニ止メ其ノ後採取セズ禁漁區内ノ天然放置區域ト禁漁區附近天然放置區域トノ兩所ニ於テ各五十坪宛ヲ採取シ其ノ蕃殖状態ヲ比較シタルニ次ノ結果ヲ得タリ

場 所 項 目	採取面積		採取量		個 數		重 量	
	禁 漁 區 内 天 然 放 置 區 域	禁 漁 區 外 天 然 區 域	禁 漁 區 内 天 然 放 置 區 域	禁 漁 區 外 天 然 區 域	禁 漁 區 内 天 然 放 置 區 域	禁 漁 區 外 天 然 區 域	禁 漁 區 内 天 然 放 置 區 域	禁 漁 區 外 天 然 區 域
禁漁區内天然放置區域	五〇坪	五〇坪	一升二合	四二個	五三〇匁	二〇個	一三〇匁	
禁漁區外天然區域	五〇坪	五〇坪	四合	二〇個	一三〇匁	二〇個	一三〇匁	

害敵 害敵トシテハ僅カニつめたがいヲ認メタルモ其ノ被害甚シカラズ  
産卵期 産卵期節調査モ港村試験地ニ於ケルト同様ノ方法ヲ以テシタルモ其ノ結果港村ニ於ケルト同一ナルヲ以テ之レヲ省ク

備考 海水比重ハ換算セズ水温示度ノ比重トス

月日	時	間	向風力	天候	氣温	水温	比量	備考
十月二十一日	同	十一時五十三分	西強	晴	11.0	10.0	1.010	
十月三十日	午後〇時	十分	北西和	晴	11.0	10.0	1.010	
十一月五日	午前十一時	五十分	北和	晴	11.0	10.0	1.010	
十一月十三日	正	午	西微	晴	11.0	10.0	1.010	
十一月十九日	午前十一時	五十分	西微	晴	11.0	10.0	1.010	
十一月二十八日	同	十一時五十分	西強	晴	11.0	10.0	1.010	
十二月四日	同	十一時五十六分	西強	晴	11.0	10.0	1.010	
十二月十二日	同	十一時五十分	東北和	曇	11.0	10.0	1.010	
十二月十八日	正	午	西強	曇	11.0	10.0	1.010	
十二月二十八日	午前十一時	四十八分	西微	曇	11.0	10.0	1.010	
大正三年一月三日	同	十一時五十分	東微	曇	11.0	10.0	1.010	
一月十一日	同	十一時五十三分	東北和	晴	11.0	10.0	1.010	
一月十七日	正	午	西強	晴	11.0	10.0	1.010	
一月二十七日	午前十一時	五十分	西強	晴	11.0	10.0	1.010	
二月二日	同	十一時四十五分	北西微	晴	11.0	10.0	1.010	
二月十日	同	十一時五十分	西強	晴	11.0	10.0	1.010	
二月十六日	同	十一時四十八分	北強	曇	11.0	10.0	1.010	
二月二十五日	同	十一時五十六分	北微	曇	11.0	10.0	1.010	
三月四日	同	十一時四十五分	東北和	雨	11.0	10.0	1.010	
三月十五日	同	十一時四十分	東強	雨	11.0	10.0	1.010	
三月十八日	同	十一時五十分	東北微	雨	11.0	10.0	1.010	
三月二十七日	同	十一時五十分	西強	晴	11.0	10.0	1.010	

港村地先蛤蕃殖試驗地觀測表

月日	時	間	向風力	天候	氣温	水温	比量	備考
五月二十七日	午前十一時	五十五分	南東強	晴	19.5	13.0	1.015	
六月五日	正	午	東疾	雨	18.5	13.0	1.005	
六月十一日	午前十一時	五十分	北東微	曇	18.5	13.0	1.005	
六月十九日	同	十一時四十五分	東和	曇	18.5	13.0	1.005	
六月二十五日	同	十一時五十分	北強	曇	18.5	13.0	1.005	
七月一日	同	十一時五十分	東北和	曇	18.5	13.0	1.005	
七月十一日	同	十一時四十分	西和	晴	18.5	13.0	1.005	
七月十九日	同	十一時四十五分	東南微	曇	18.5	13.0	1.005	
七月二十五日	同	十一時二十分	北西強	曇	18.5	13.0	1.005	
八月三日	同	十時五十分	北和	曇	18.5	13.0	1.005	
八月九日	同	十一時二十七分	東強	曇	18.5	13.0	1.005	
八月十七日	同	十一時五十分	西強	曇	18.5	13.0	1.005	
八月二十四日	同	十一時四十分	東南強	雨	18.5	13.0	1.005	
九月一日	正	午	北微	曇	18.5	13.0	1.005	
九月七日	午前十一時	五十分	東和	雨	18.5	13.0	1.005	
九月十五日	正	午	東北和	曇	18.5	13.0	1.005	
九月二十一日	午前十一時	二十分	西強	曇	18.5	13.0	1.005	
十月一日	同	十一時四十五分	北東強	曇	18.5	13.0	1.005	
十月七日	正	午	東北和	曇	18.5	13.0	1.005	
十月十五日	午前十一時	五十分	東北和	曇	18.5	13.0	1.005	

川越村地先蛤蕃殖試験地観測表

月 日	時 間	天 候	向 風 力	氣 温	水 温	比 重	備 考
五月十七日	午前 十時	晴	西 強	三〇.〇	一九.〇	一.〇〇〇〇	
五月二十一日	午後 一時	晴	北 和	二七.〇	三三.〇	一.〇一〇〇	
六月十一日	午前 十一時	曇	北 和	二七.〇	三三.〇	一.〇一〇〇	
六月十九日	午後 一時	晴	西 強	二六.〇	三三.〇	一.〇一〇〇	
七月二日	午前 十時	晴	東 和	二六.〇	三三.〇	一.〇一〇〇	
七月八日	午後 〇時	晴	南 強	二六.〇	三三.〇	一.〇一〇〇	
七月十八日	正 午	曇	南 強	二六.〇	三三.〇	一.〇一〇〇	
七月二十二日	午後 一時	曇	南 強	二六.〇	三三.〇	一.〇一〇〇	
八月二日	正 午	曇	南 強	二六.〇	三三.〇	一.〇一〇〇	
九月一日	午後 五時	曇	北 和	二八.五	三三.〇	一.〇一〇〇	
九月二十一日	同	曇	北 和	二八.〇	三三.〇	一.〇一〇〇	
十月六日	正 午	曇	北 和	二八.〇	三三.〇	一.〇一〇〇	
十月十四日	正 午	曇	南 和	二八.〇	三三.〇	一.〇一〇〇	
十一月四日	正 午	晴	西 強	二八.〇	三三.〇	一.〇一〇〇	
十一月十二日	正 午	晴	西 強	二八.〇	三三.〇	一.〇一〇〇	
十二月二十五日	午後 四時	晴	無 風	二〇.〇	一〇.〇	一.〇一〇〇	
一月三日	正 午	晴	無 風	二〇.〇	一〇.〇	一.〇一〇〇	
一月十三日	午後 四時 三十分	晴	無 風	二〇.〇	一〇.〇	一.〇一〇〇	
一月二十八日	同	晴	無 風	二〇.〇	一〇.〇	一.〇一〇〇	
二月十一日	同	晴	無 風	二〇.〇	一〇.〇	一.〇一〇〇	

備考 海水比重ハ換算セズ水温示度ノ比重トス

六、海鼠蕃殖試験

本試験ハ前年度來ノ續續事業ニシテ五ヶ所灣并ニ英虞灣ノ一部ニ禁漁區ヲ設ケ此處ニ海鼠ヲ放養シテ其成長ヲ計ルト同時ニ附近ニ種屬ノ蕃殖ヲ計ル目的ヲ以テ施行セラレ本年度ニ於テハ五ヶ所灣試験地ニ僅カノ種海鼠ヲ放養シタルノミニシテ英虞灣内濱島村地先試験地ニハ特ニ種海鼠ノ放養ヲナサズ單ニ禁漁區附近海鼠蕃殖ノ狀況ヲ調査シ試験地一面ニ人頭大ノ石ヲ投入シ海鼠ニ隠遁ノ場所ヲ與ヘ以テ種屬ノ蕃殖ヲ計リタリ

一、五ヶ所灣試験地

本試験地ノ底部ハ泥土、細砂又ハ藻類ノ蕃殖セル所ニシテ海鼠ノ棲息場トシテ不適當ノ場所ニハ非ラザレドモ潜水夫ヲ使役シテ詳シク調査セシメタル結果附近ニ海鼠ノ隠遁スベキ岩礁少ク加フルニ西南方ノ開ケタル五ヶ所ノ一部ニアルヲ以テ波浪比較的荒ク爲メニ放養セル海鼠モ其ノ適當ナル夏眠ノ場所ヲ得ズ附近ニ種屬ヲ蕃殖セシムルコト能ハザルノ状態ニアリシコトヲ知リシヲ以テ本試験地ニ於ケル種海鼠放養種屬蕃殖試験ハ本年度限リトシ明年度ヨリハ單ニ禁漁區トシテ其儘繼續セシムル他試験ノ施行ヲ中止スルコト、セリ

三月三日潜水夫ヲ使役シテ本試験地ニ於ケル海鼠ノ蕃殖狀況ヲ調査シタル際取揚ゲタル海鼠ハ皆一種類ニ限リ多クハ三四年生以上ノ大形ノモノノミニシテ二年生ト認メ得ベキモノ(重量六十五匁)二尾一年生ト認メ得ベキモノ(重量十一匁)一尾ヲ得タルノミ、而シテ三四年生以上ノモノモ時期猶ホ早カリシ爲メ何レモ皆其生殖素ハ未熟ナリキ、三四年生以上ト認メラレシモノノ

大サ及ヒ重量左ノ如シ  
 一斗枳ニ入ル數量 十五個乃至二十五個  
 一個ノ重量 四百三十匁乃至四百八十匁

本試驗地附近海鼠以外ニ棲息スル生物ノ重ナルモノ左ノ如シ  
 魚 類 ふぐ、ごんすい等  
 介 類 眞珠介、板屋貝、錦貝  
 其 他 うに類、苦藪蟲類等ノ下等動物及みる、ほんだわら等ノ海藻類  
 種海鼠放養

本年度本試驗地ニ移殖放養セル海鼠ノ產地、其ノ數量、運搬ノ方法等ヲ列記スレバ左ノ如シ  
 種海鼠ノ產地 英虞灣内濱島村地先海鼠蕃殖試驗地ニ於テ漁獲セルモノノ一部ヲ種海鼠トシテ使用ス  
 放養ノ數量 三石六斗(八百四十三尾)  
 運搬ノ方法及放養ノ時日

本場試驗船三水丸ノ活洲内ニ收容シ三月八日午後三時產地ヲ出發シ同日午後五時試驗地着直チニ全部ヲ放養シタリ  
 歩減 運搬ノ當日ハ海上風波稍高カリシト雖モ運搬中ノ歩減比較的僅少ニシテ三月五日濱島地先試驗地ニ於テ漁獲後移殖ノ當  
 日迄鱈活籠内ニ蓄養セシ爲メニ斃死セルモノト合シテ二斗(九十四尾)ニ過ギザリキ、之レ運搬時間ノ僅々二時間ニ過ギザリシ  
 ト活籠内又ハ活洲内ノ収容數比較的僅少ナリシニ依ルナラン

二、濱島村地先試驗地

大正三年三月五日潜水夫ヲ使役シテ精細ニ調査シタル結果ニヨルニ試驗地内「ガボ」島ノ南東側ニ於ケル岩礁附近ニハみる、  
 あじ藻等ノ寄生セル間ニ海鼠ノ稚兒ノ棲息多ク、又試驗地南側附近ノ岩礁ニハ二四年生以上ト認めラル、一斗ノ容數三十乃至

四十五ヲ數ヘラル、稍大形ノモノ多ク棲息シ猶ホ試驗地ノ中央部及其レニ近接セル試驗地以外ノ地域ハ其底ノ大部分ハ泥土ニ  
 シテ海鼠ノ棲生僅少ニ過ギザルヲ見タリ。斯ノ如ク小區域内ニ於テモ底部ノ狀況如何ニヨリテ海鼠ノ棲息數量ニ多寡ノ別アル  
 ノミナラズ其大サニ於テモ老幼ノ別アリ一様ニ論ズルコト能ハズト雖モ試驗地内海鼠ハ相當ノ蕃殖ヲ見猶ホ試驗地、附近各地  
 ニツキ調査セル結果ニ於テモ海鼠ノ増殖稍見ルベキモノアリ本年度ニ於テハ、最早種海鼠放養ノ必要ヲ認めザリシヲ以テ之レ  
 フ中止シ試驗地内ニハ一帯ニ人頭大ノ岩石ヲ投入シテ各種海藻類ノ蕃殖如何ニ別アル以外底部ノ狀況ヲシテ畧ホ同一ノモノタ  
 ラシメ海鼠ニ夏眠隠遁ノ適當ナル場所ヲ與フルト同時ニ試驗地内ニ隱密ニ桁網等ノ使用ヲナスコト能ハザラシメ以テ海鼠蕃殖  
 保護ノ效果ヲシテ一層確實ナラシメントセリ  
 今參考ノ爲メ本試驗地附近ニ於ケル最近數年間ニ於ケル海鼠ノ漁獲高ヲ關係漁業組合ニツキ調査セル結果ヲ示セバ左表ノ如  
 クニシテ大正二年ニ於テ灣内總漁獲高ハ急激ニ増加セルヲ見殊ニ試驗地ニ最モ近接セル神明村ノ漁獲高ニ著シキ増額ヲ示スガ  
 如キ先以テ本試驗ノ效果ヲ表示スルモノト云フモ過言ニアラザルベシ

自明治四十年 至大正二年 英虞灣沿岸海鼠漁獲高表		年	組 合 名	漁 業 組 合	布 施 田	立 神	濱 島	片 田	神 明	船 越	計
明 治	四 十 年	同	越 賀	三、〇〇〇	七、九〇〇	三〇〇	一、一七〇	六、八〇〇	一、九〇〇	八〇〇	二、九三〇
同	四 十 一 年	同	越 賀	一、八〇〇	二、三九〇	一〇〇	一、三〇〇	一、四〇〇	一、六〇〇	一、一〇〇	四、四三〇
同	四 十 二 年	同	越 賀	一、一〇〇	二、五〇〇	三〇〇	一、一七〇	一、四〇〇	一、六〇〇	一〇〇	四、五七〇
同	四 十 三 年	同	越 賀	四、〇〇〇	二、六九〇	五〇〇	一、一七〇	二、六〇〇	二、五〇〇	六〇〇	七、三三〇
同	四 十 四 年	同	越 賀	四、〇〇〇	三、九三〇	五〇〇	一、一七〇	二、六〇〇	二、五〇〇	七〇〇	八、四三〇
大 正	元 年	同	越 賀	三、三〇〇	五、一〇〇	一〇〇	六、七四〇	四、七二〇	一、七〇〇	五、八〇〇	四、二二〇
同	二 年	同	越 賀	三、六〇〇	一、〇八九	二、一〇〇	五、五九〇	八、七四〇	二、二〇〇	六、一〇〇	七、五九〇



七、櫛田川鱒放流事業

本事業ハ鱒卵ヲ孵化セシメ之レヲ櫛田川ニ放流シ以テ鱒魚ノ繁殖ヲ計リ沿川ノ利源タラシメントノ目的ニヨル樋口春吉氏ノ寄附委託ニ係ハルモノニシテ本場ニ於テハ之レヲ五ケ年間繼續事業トシテ前年度ヨリ着手シ本年度ニ於テ第二回ノ孵化放流ヲ行ヒタリ

一、孵化場ノ設定及其設備(附圖參照)

本年度ニ於テハ鱒卵野外孵化場トシテ多氣郡丹生村地籍猿子谷ノ地ヲ撰定シ其杉、竹等ノ生ゼル谷間ニ十個ノ「アツトキン」氏式孵化槽ヲ二列階段狀ニ排列シ十一月下旬ニ於テ孵化ノ設備ヲ完成シタリ。其設備ノ重ナルモノヲ舉グレバ左ノ如シ

孵化槽	長六尺三寸 巾二尺五寸 深一尺五寸	十個
孵化盆	枠金網 五分巾、一尺五寸五分平方 縱五分、横一分	四十五枚
沈澱槽	〔三尺平方〕 深三尺	一個
沈澱樽	四斗樽(徑一尺八寸)	一個
注水親樋	長九尺 巾五尺 深八寸	一本
外ニ竹樋	(長二間、十七尺、九尺)	三本
番小屋		一棟

二、孵化用水

孵化用水ハ猿子谷ニ流ル、溪流ニシテ水質清澄ニ見ユルト雖モ微細ナル浮泥比較的多量ナリシヲ以テ沈澱樽ニ注グ竹樋ニハ

其末端ニ「フランネル」ノ囊ヲ蔽ヒ其濾水ヲ充分ナラシム。用水ノ通路ハ先ヅ水源地ヨリ流下シテ沈澱樽ニ入り次デ「フランネル」ノ囊ニ濾サレテ樽ニ集リ然ル後親樋ニ流下ス、親樋ハ比較的深ク作ラレタルヲ以テ通過シ來レル浮泥ハ此處ニ於テモ沈降ス、故ニ孵化槽ニ於テハ第一段ノモノニ稍浮泥ノ沈積ヲ見ルト雖モ第二段以下ノモノニハ殆ンド之レヲ認メザル程ナリキ  
孵化用水量ハ一分間約一斗八升ニシテ一個ノ孵化槽ニ注下スル水量ハ一分間約八升ノ割合ナリキ

三、鱒卵ノ原產地及數量

鱒卵ノ原產地

秋田縣十和田湖

孵化ニ供セシ卵ノ數量

二十萬粒

四、鱒卵輸送及孵化場收容ノ時日

鱒卵ハ十二月二十三日日本場矢持養鱒場行ノ卵ト同時ニ原產地ヲ發送セラレ此レト同様ノ經路ヲ經テ二十六日午後五時參宮線相可驛着荷車ニヨリ翌二十七日早朝丹生村孵化場着直テニ孵化槽内ニ收容シタリ

五、荷造法及開函當時運搬槽内ニ於ケル卵ノ模様

鱒卵輸送ノ荷造法ハ矢持養鱒場ニ送付セラレタルモノト同様ニシテ開函當時卵ノ運搬槽内ニ於ケル狀態亦等シク卵ハ多少ノ動搖ニヨリ槽ノ一部ニ集積シ又水分ヲ失ヒテ多角形ニ萎縮セルモノヲ認メタリ

開函當時運搬箱内ノ温度

七度半乃至八度

運搬中ノ總死卵數

三千三百四十九粒

六、鱒卵ノ發育經過

採卵月日 大正二年十一月九日

發眼月日 同 年十二月九日

(育水温八度平均)

孵化月日 大正三年一月十二日始メテ孵化仔魚一二尾ヲ見、一月下旬孵化ノ盛期ニシテ二月十九日全部ノ孵化ヲ

終了ス (育水温、六度半乃至十二度観測表参照)  
 死卵總數 二萬六千九百八十三粒 (全卵ニ對シ一割三分五厘弱)  
 外ニ死仔魚數 九百三十一尾 (孵化當時)

七、孵化後稚魚ノ發育經過

孵化稚魚ハ三月上旬ヨリ臍囊ヲ吸收シテ浮游ヲ始メタルヲ以テ同月十九日餌料トシテ雞卵黃ノ煮タルモノヲ細粉トシテ投與ス

其後投餌ハ毎日二回乃至四回宛之レヲ行ヒタレドモ放流迄ニ使用シタル總投餌量ハ雞卵黃三十個ニ過ギズ

八、放 流

稚魚ハ槽内ニ於ケル游行活潑トナリ捕餌作用亦敏捷トナリシヲ以テ四月八、九兩日ヲ以テ全部ヲ櫛出川ニ放流セリ

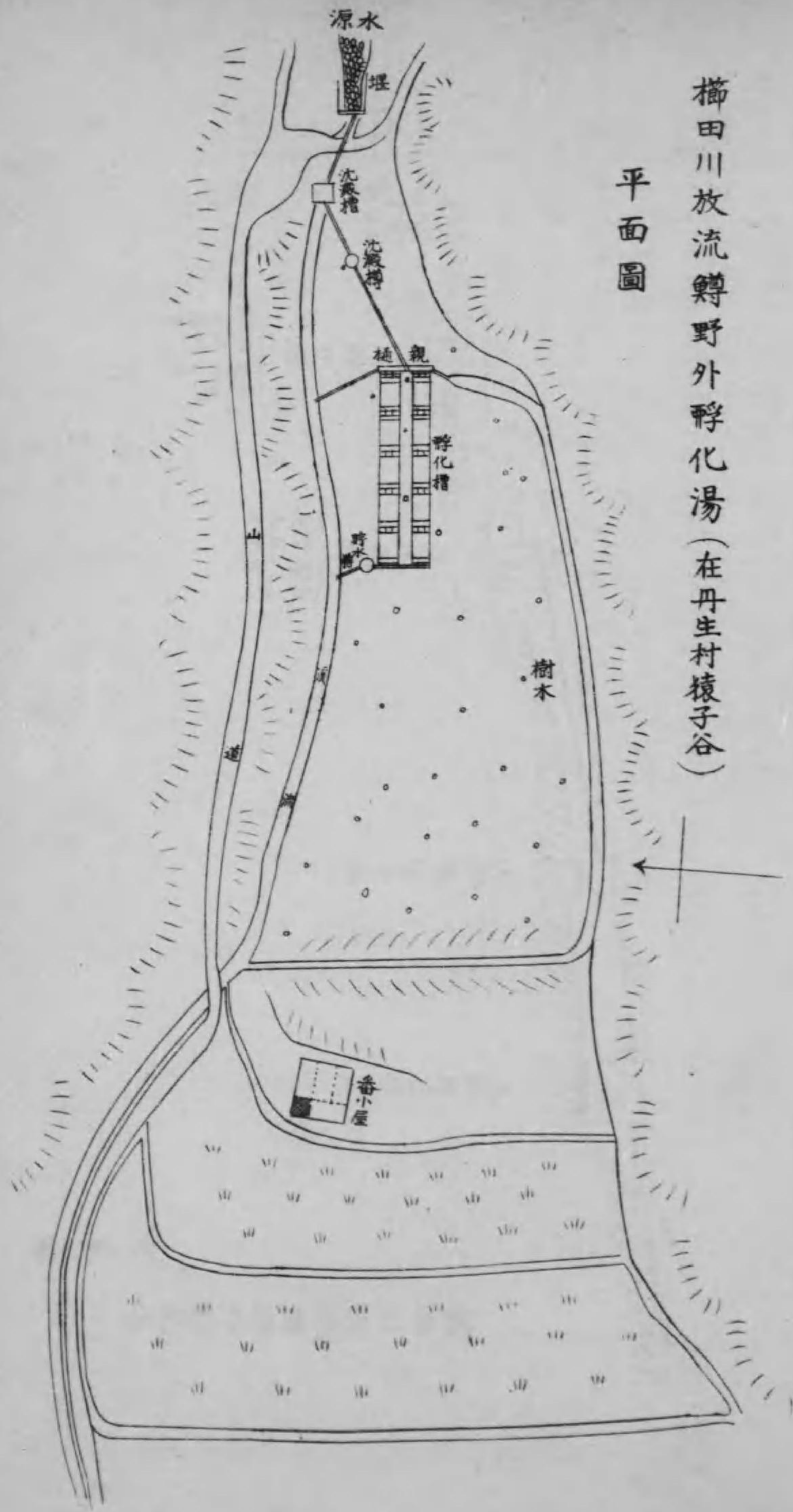
放流ノ場所ハ孵化場ヲ距ル十數町ナル丹生村堰堤ノ上流ニシテ水流稍緩ナルニケ所ヲ撰ビ運搬器トシテハ水ノ擔桶ヲ用ヒ一荷ニ七八千尾宛ヲ收容シ人背ニヨリテ放流場ニ運搬セリ、當日天氣晴朗氣候温暖ニシテ孵化場ヨリ放流場ニ至ル運搬時間平均二十分内外ヲ要シタレドモ其間ニ魚兒ノ斃死又ハ弱ハレルモノ無ク放流後ハ群ヲ成シテ活潑ニ游行スルヲ認メタリ

放流稚魚總數 十六萬九千五百六十一尾 (孵化後放流迄ノ死稚魚總數二千五百三十九尾)

放流時稚魚ノ大サ  
 體長 最大九分五厘、最小七分五厘、最多八分五厘  
 體重 二十五尾ノ重量八分

孵化中水温及氣象観測ノ結果セバ左表ノ如シ

櫛田川放流鱒野分孵化場 (在丹生村榎子谷)  
 平面圖





月	日	天候	向風力	氣温	示度	最高	最低	差	死卵數	備考
大正二年十二月	二十八日	晴	ナ	10.5	11.5	11.5	10.5	1.0	3,200	
二十九日	晴	北西、微	北西、微	9.8	11.7	11.5	11.0	0.7	1,200	
三十日	雨	北西、微	北西、微	8.1	11.5	11.0	11.0	0.0	1,200	
三十一日	晴	北西、和	北西、和	8.2	11.3	11.5	10.5	1.0	6	
大正三年一月	一日	快晴	南西、微	8.0	10.0	10.8	8.0	2.0	4,400	孵化槽上段ニ死卵多ク、又孵化盆ノ上部ノモノ下部ヨリモ死卵多シ
二日	快晴	南西、微	南西、微	8.6	10.5	11.2	8.5	2.0	1,200	本日沈澱槽、孵化槽ノ掃除チナス、
三日	曇	北西、和	北西、和	5.3	9.0	11.5	8.0	3.5	1,800	孵化槽蓋ニ結氷ヲ見ル、
四日	晴	南、微	南、微	7.3	9.0	10.0	7.0	2.0	1,000	孵化盆ノ金網目ニ埃マリ壓迫チ受ケテ死セル卵比較的多クヲ認ム、
五日	曇	ナ	ナ	3.1	9.0	10.5	6.5	2.5	4	死卵ノ檢出チナス、卵ノ洗滌淨泥除去チナス、
六日	曇	ナ	ナ	9.1	10.1	11.0	8.0	3.0	3,000	孵化槽、沈澱槽等ノ淨泥除去ノ爲メ大掃除チナス
七日	晴	西、強	西、強	5.4	9.8	11.0	7.5	2.0	3,000	サツプロレグニア、ノ繁殖比較的大ナリ、
八日	晴	西、強	西、強	3.6	9.1	11.5	8.5	3.0	1,000	附近水面結氷、
九日	晴	西、強	西、強	4.5	9.2	11.5	7.5	2.0	1,000	卵膜内ニ於ケル魚仔ノ運動活潑ナレヲ認ム、
十日	曇	ナ	ナ	3.5	9.0	10.0	8.5	1.5		
十一日	快晴	ナ	ナ	10.5	10.0	10.5	9.0	1.5		
十二日	快晴	ナ	ナ	8.2	10.3	11.8	10.0	1.8	2,000	各槽共一、二尾宛ノ孵化魚仔ヲ見ル、
十三日	晴	ナ	ナ	3.5	9.5	11.0	6.5	2.5		
十四日	雨後晴	ナ	ナ	11.2	11.8	13.0	10.0	3.0	1,200	
十五日	晴	西北、和	西北、和	8.8	10.5	11.5	10.5	1.0		
十六日	晴	西北、和	西北、和	6.9	10.5	11.0	10.0	1.0	1,400	

楠田川放流鯉孵化場観測表

(自大正二年十二月每月一回午前十時観測) 至大正三年四月



日	天候	風向	風力	湿度	雨量	備考
十五日	晴	西	微	四・五	四・五	一
十六日	晴	西	微	四・五	四・五	一
十七日	晴	無	無	九・〇	九・〇	二
十八日	曇	北	和	九・〇	九・〇	三
十九日	雨	無	無	七・〇	七・〇	四
二十日	曇	無	無	一〇・〇	一〇・〇	五
二十一日	曇	無	無	一〇・〇	一〇・〇	六
二十二日	曇後小雨	北	和	一〇・七	一〇・七	七
二十三日	曇後晴	西北	和	一〇・三	一〇・三	八
二十四日	快晴	無	無	一〇・一	一〇・一	九
二十五日	曇後雨	無	無	七・五	七・五	一〇
二十六日	晴	西北	強	八・二	八・二	一一
二十七日	晴	西北	和	七・三	七・三	一二
二十八日	快晴	西北	和	七・八	七・八	一三
二十九日	快晴	西	微	九・〇	九・〇	一四
三十日	雨	無	無	九・五	九・五	一五
三十一日	快晴	西	微	一〇・〇	一〇・〇	一六
三月一日	快晴	西	微	一〇・〇	一〇・〇	一七
二月	曇	西	和	一〇・〇	一〇・〇	一八
一日	快晴	西	微	一〇・〇	一〇・〇	一九

魚体ノ色素全身ニ互リ著明トナル臍蓋ハ孵化當時ノ約半分トナル、心臓ノ鼓動明カニ見ユ

臍蓋動脈明カトナリ、口ヲ開キテ呼吸スル狀著明ナリ、魚体全部茶褐色ヲ帯アルニ至ル、

卵全部孵化ヲ終ル、

死卵計二六、六八三粒

各槽底ニ小砂利ヲ敷ク、

殘卵數約二百粒

殘卵數約百粒

殘卵九十粒、孵化盆一枚ニ移ス、

日	天候	風向	風力	湿度	雨量	備考
十七日	快晴	北	和	一〇・〇	一〇・〇	一
十八日	曇後雨	ナ	シ	一〇・〇	一〇・〇	二
十九日	快晴	西	微	一〇・〇	一〇・〇	三
二十日	雨後	無	無	一〇・〇	一〇・〇	四
二十一日	快晴	北	強	一〇・〇	一〇・〇	五
二十二日	晴	西北	和	一〇・八	一〇・八	六
二十三日	晴後曇	無	無	一〇・三	一〇・三	七
二十四日	晴後曇	無	無	一〇・三	一〇・三	八
二十五日	晴	北	強	一〇・七	一〇・七	九
二十六日	快晴	西	強	一〇・八	一〇・八	一〇
二十七日	晴	西北	強	一〇・〇	一〇・〇	一一
二十八日	曇	西北	強	一〇・八	一〇・八	一二
二十九日	晴	北	和	一〇・八	一〇・八	一三
三十日	晴	西	和	一〇・八	一〇・八	一四
三十一日	曇後雪	北	和	一〇・〇	一〇・〇	一五
二月一日	快晴	西	和	一〇・〇	一〇・〇	一六
二日	晴	西北	微	一〇・〇	一〇・〇	一七
三日	晴	西北	微	一〇・七	一〇・七	一八
四日	晴	西北	微	一〇・七	一〇・七	一九
五日	晴	西北	和	一〇・八	一〇・八	二〇
六日	晴	無	無	一〇・八	一〇・八	二一
七日	曇	北	和	一〇・九	一〇・九	二二
八日	曇後雪	北	和	一〇・九	一〇・九	二三
九日	晴	北	和	一〇・七	一〇・七	二四

死卵中頭部ヨリ孵化セントシテ死セルモノ多シ

卵ハ孵化盆一枚ニ收容ス、

積雪約一寸

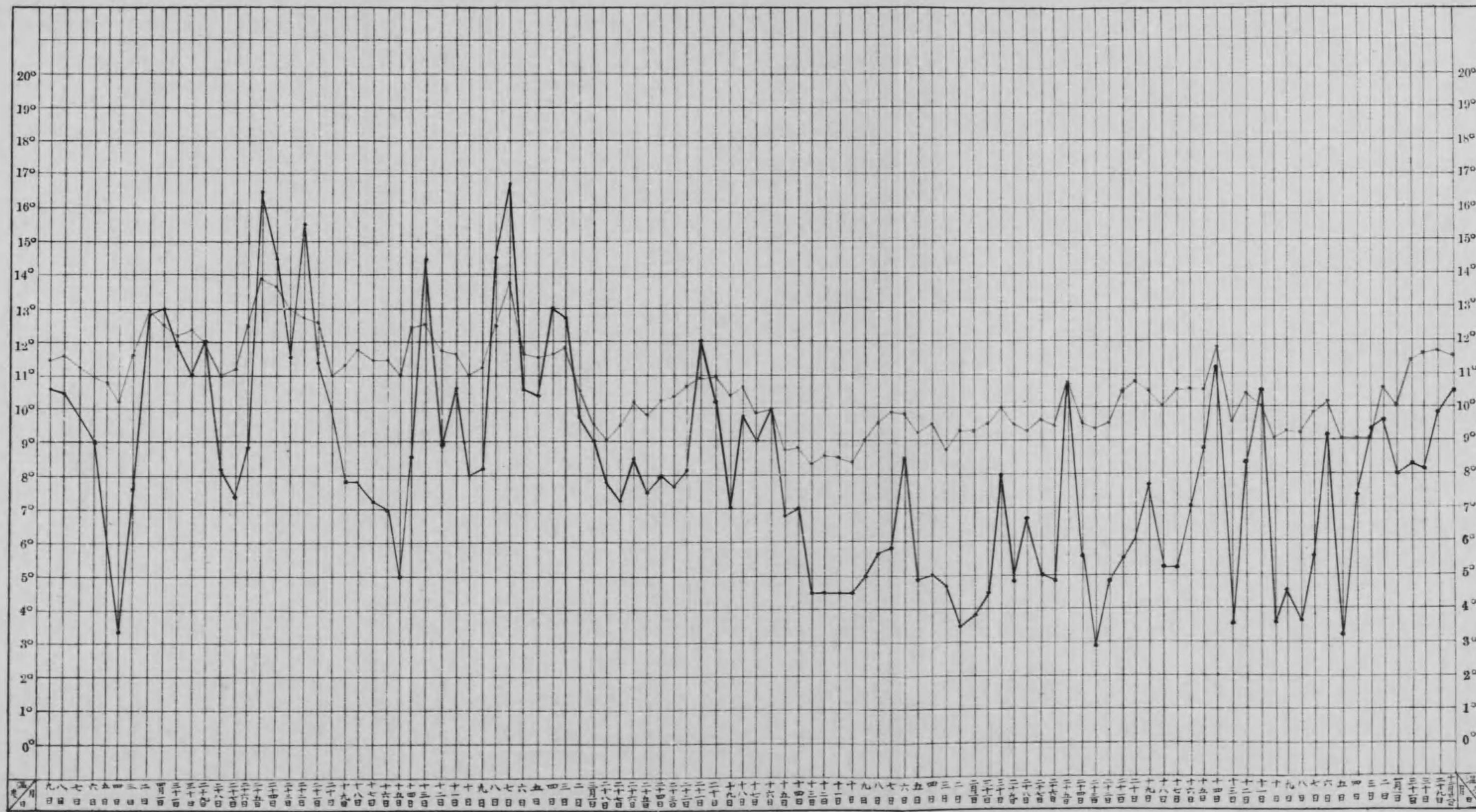


丹生村孵化場觀測圖

(每日十一時觀測圖)

(自大正三年十二月)

氣水



日	天候	風向	風力	水温	水深	投餌量	備考
三十日	雨	無	無	二〇.〇	一三.五	一〇.〇	投餌量雞卵黃一個半トス、 同 前
三十一日	快晴	西、強	二.九	二〇.〇	一三.〇	一〇.〇	同 前
四月一日	快晴	東、和	三.〇	二〇.〇	一三.〇	一〇.〇	各槽共捕餌良好投餌量、雞卵黃二個トス、 投餌量同前、一日三回ニ投餌
二日	雨	無	三.八	二〇.〇	一三.〇	一〇.〇	同 前
三日	晴	西北、烈	七.七	二〇.〇	一三.〇	一〇.〇	同 前
四日	雪後雨	無	三.〇	二〇.〇	一三.〇	一〇.〇	同 前
五日	晴	西北、強	七.〇	二〇.〇	一三.〇	一〇.〇	投餌量、雞卵黃三個トス、一日四回ニ投餌ス、 同 前
六日	晴	北、和	九.〇	二〇.〇	一三.〇	一〇.〇	同 前
七日	雨	無	九.八	二〇.〇	一三.〇	一〇.〇	大雨ノ爲メ投餌量、雞卵黃二個ヲ二回ニ投餌ス、 放流第一日、
八日	快晴	西、強	一〇.五	二〇.〇	一三.〇	一〇.〇	放流第二日、全部放流、
九日	快晴	西北、強	一〇.六	二〇.〇	一三.〇	一〇.〇	死種魚總數二千五百三十九尾

孵化場收容卵總數

二〇〇、〇〇〇粒

死卵總數

二六、九八三粒

死稚魚總數

二、五三九尾

放流稚魚總數

一六九、五六一尾

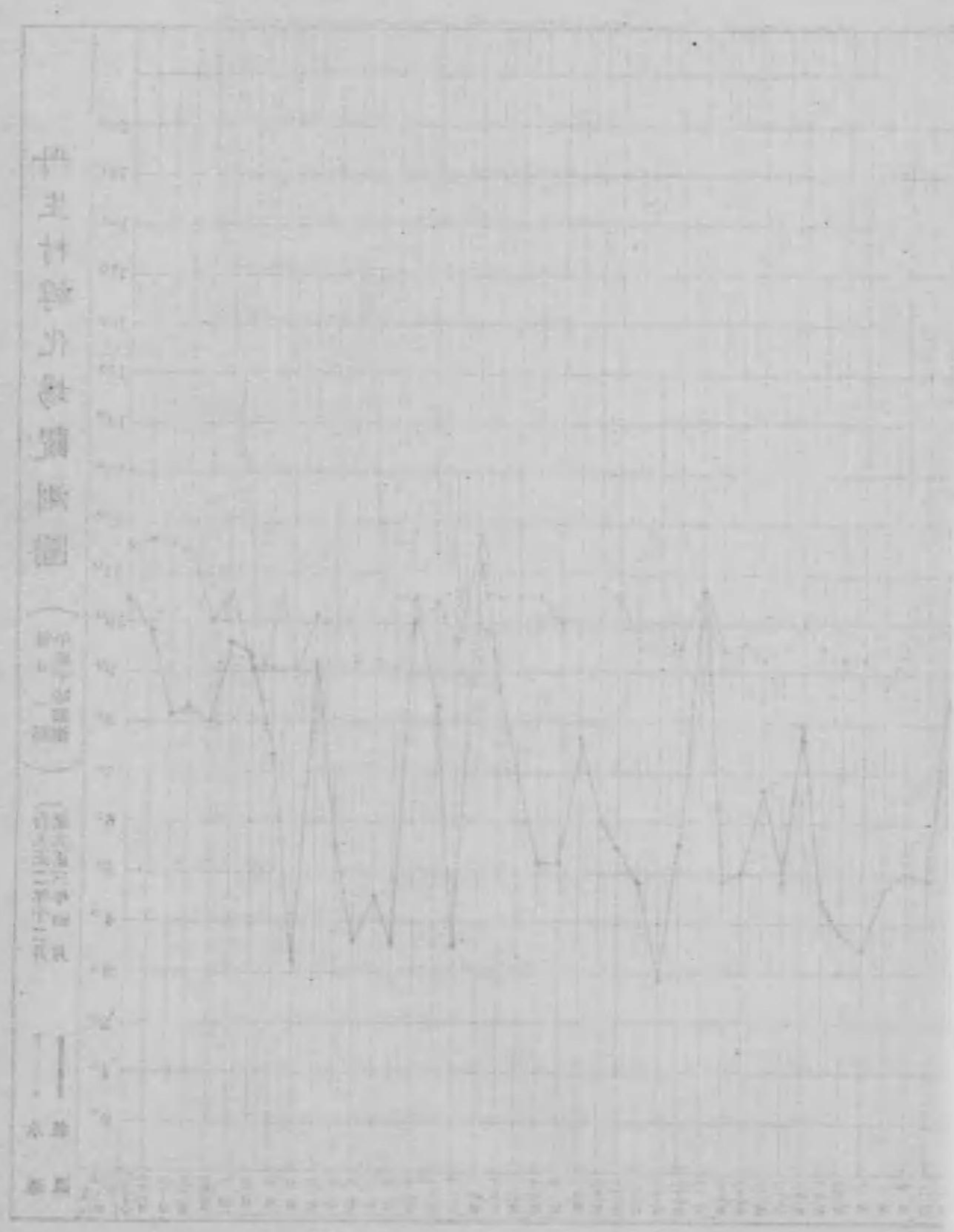
八、各種養殖事業實地指導

一、石花菜磯掃除指導

七、八月志摩郡及南北牟婁郡沿岸五ヶ所ニ於テ石花菜ノ蕃殖ヲ計ル目的ヲ以テ磯掃除ノ指導ヲ行ヘリ

二、真珠貝養殖指導

七、八月志摩郡及南牟婁郡ニ於テニヶ所真珠貝養殖實地指導ヲ行ヘリ





三、海苔養殖指導

飯南、一志、度會、南北牟婁郡沿岸七ヶ所ニ於テ海苔養殖指導ヲナセリ

四、各種池中養殖指導

本縣下各種池中養殖事業ニ對シ實地指導ヲ行ヒタルモノ十ヶ所ニ及ベリ

● 製 造 部

主任技手 森 谷 茂

製造部ニ於テ本年度施行セル業務種類左ノ如シ

一、鯉節製造試験

從來使用セル濕乾法ニ於ケル濕熱ノ調節ハ室内温度逃散等ノ手段ニヨルモノニシテ從テ熱度ヲ徒費スルコト多キヲ以テ濕度ニヨリ人爲的調節ヲナシ燃料ノ節減ヲ計ルノ目的ヲ以テ試験ヲ施行セリ

二、明鮑濕乾試験

製造經濟上製了時日ノ短縮ヲ圖ランカタメ鯉節製造用濕乾室應用ヲ目的トシ之レカ豫備的試験ヲ施行セリ

三、鯉節製造講習

製品ノ改良ヲ目的トシ本場及度會郡島津村北牟婁郡尾鷲南牟婁郡南輪内村ニ於テ指導セリ

四、蝦煎餅製造講習

河藝郡若松村ニ於テ同地饒産ノ小蝦ヲ利用シ副業的事業トシテ講習セリ

五、罐詰製造指導

鯉節製造指導ノ傍ラ度會郡島津村古和ニ於テ指導セリ

六、聯電築造指導

築造費燃料勞力ノ節減ヲ計リ生産力ヲ増大セシムルノ目的ヲ以テ河藝郡豐津村ニ四聯電ヲ築造シ之レガ獎勵ヲナセリ

七、海苔製造指導

製品ノ改良及一定ヲ計リ販路擴張ヲ主旨トシ桑名郡飯南郡及度會郡ニ於テ指導ヲナセリ

八、講 話

南牟婁郡ノ希望ニヨリ同郡荒坂村及南輪内村ニ於テ同地方ニ適當ナル製品ノ改良及計畫ニツキ獎勵セリ

一、鯉節製造試験

本製造試験ハ從來ノ繼續事業ニシテ試験ノ初時ニ於テハ乾濕球示度ノ程度ニヨル火膨レ龜裂及燃料消費量等專ラ經濟關係ニ對シ試験ヲ施行スルト同時ニ製品々質ニ付テハ各商人ノ品評ヲナサシメ或ハ各旅館等ニ賣却シ以テ實際的滋味上ノ評價ヲナサシメタル結果在來製造ニヨル製品ニ比シ遜色ナキヲ確認シタリ然レドモ時ニ濕乾法ニヨリタル製品ハ黒澤過度ナリトノ讒ヲナスモノアリ依テ前年度此レガ實否ヲ試験シタルニ當業者未ダ其ノ使用ニ詳カナラズ不注意ヨリ生スル過失ノ爲メ其ノ度ヲ強カラシムルニ外ナラサルヲ知レリ

前記ノ如ク濕乾法ハ從來製法ニ比シ遙カニ優越セル方法ナルヲ以テ當業者ニ於テモ其ノ利益ヲ認メ築造スルモノ縣下既ニ十數名ニ達セリ然レドモ未ダ使用上ノ欠点ナシト曰フ能ハズ而已ナラズ普通濕乾法ニヨルトキハ單ニ鯉節製造ノミニ使用シ得ルノ外他製品乾燥ニ利用スル能ハサルナリ依テ前年度以來他製品乾燥ノ利用ヲ目的トシ蒸烟ヲ直接室内ニ噴出セシムルコトナク電上ニ鉄板ヲ架シ重烟ハ竈後部ヨリ室内ヲ周廻セル惡鉛製煙導及前記鉄板面ヨリ放散セル温度ニヨリ間接ニ室内温度ヲ昇騰セシムルノ裝置トシ海鼠及明鮑ニ利用シ良淡ヲ得タリ然シテ濕乾調節ニ於テハ從來燃料燃燒ノ加減或ハ室内熱度放散等ノ手段ニ由ルモノニシテ換言セバ濕度ヲ以テ調節シ能ハサリシナリ故ニ熱度ヲ冗費シ從テ經濟上ノ影響少ナカラサリシヲ以テ本年度ニ於テハ室内釜中ニ水ヲ充スコトナク釜縁ノ周圍ニ亞鉛製小管(徑六分ノ多數ノ小孔ヲ穿テルモノヲ置キ其ノ小管ト外部水槽トヲ連絡セシメ焙乾初時ニ於テ濕度ノ多量ヲ要セサル際ハ水槽「コック」ヲ少シク開キ以テ少量ノ水分ヲ釜中ニ供給シ乾燥ノ進行ニ

供ヒ湿度ノ多量ヲ要スルニ至レバ「コック」ヲ開キ多量ノ水分ヲ供給シ以テ多大ノ發散ヲ促カシメ所要ノ湿度ヲ得バ其ノ湿度ヲ持續スル程度ノ水分ヲ給スルノ方法ヲ講シタルニ成績良好ニシテ蒸乾時間燃前ニ比シ早ク且ツ燃料ヲ節約シ得タリ左ニ試験成績ヲ記シ參考トスベシ

第一回濕乾試驗

事項	第一次	第二次	第三次	第四次	第五次	第六次	第七次	計	備考
月 日	五月二十三日	二十四日	二十五日	二十六日	二十七日	二十八日	二十九日		
焙乾開始時	午後二時	午前九時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時		
焙乾終時	午後四時	午後五時	午後一時	午後四時	午後五時	午後五時	午後四時		
焙乾時間	二時間	八時間	五時間	八時間	九時間	九時間	八時間	四十九時間	一回原料 三十二時間
乾球平均示度	八〇	七五	七三	六八	六八	七〇	六三		一回分平均 七二・八
濕球平均示度	五五	五五	五八	五五	五五	五六	五一		一回分 五五・六
濕乾球ノ差	二五	二〇	一五	一三	一三	一四	一四		一回分 一七・二
尾 數	一四三	一四三	一四三	四二八	四二八	二八五	二八五		一回分 一八・九
燃 料	一〇	一八	一三	二〇	二八	二三	二〇		一回分 八・九
一時間ニ於ケル平均燃料	五	二・二五	二・六	二・五	三・〇	二・四	二・五		一回分 二・三

前表ニ示セルガ如ク第一回焙乾ノモノハ三十二時間ニシテ乾了シ第二回焙乾ノモノハ三十四時間ヲ要セリ  
附記 燃料ハ一把平均五百匁價格壹錢四厘三弱

第二回濕乾試驗

事項	第一次	第二次	第三次	第四次	第五次	第六次	計
月 日	六月十九日	二十日	二十一日	二十二日	二十三日	二十四日	
焙乾開始時	午前九時	午前七時	午前八時	午前八時	午前八時	午前八時	
焙乾終時	午後四時	午後三時	午後四時	午後六時	午後二時	正午	
焙乾時間	七時間	八時間	八時間	十時間	六時間	四時間	三十三時間 三十六時間
乾球平均示度	七五	七五	七三	七〇	六七	六三	
濕球平均示度	五三	五八	五五	五五	五三	五一	
濕乾球ノ差	二二	一七	一八	一五	一四	一二	
尾 數	七二	二八三	二八三	一	一一一	一一一	
燃 料	一七	二〇	一八	二八	一六	一〇	第一 九八三 第二 九二
一時間平均燃料	二・四	二・五	二・二	二・八	二・七	二・五	平均 二・二五

第一回原料ハ三十三時間ニシテ乾了シ第二回原料ハ三十六時間ニシテ乾了セリ

一、明鮑乾濕豫備試驗

一、試驗ノ目的  
肉質堅緻ニシテ乾燥ニ長時間ヲ要スル鮑ヲ濕乾室ヲ利用シ單時日中ニ本固品トナサントスルニアリ

二、試験ノ方法

三、製 造 法

經節製造用濕乾室利用ノ豫定ナリシモ修繕ノ個所ヲ生シタルト原料價格高ク到底室内最下段ヲモ充滿セシムル能ハサルヲ以テ豫備試驗トシテ便宜上小形ナル焙乾品製造用焙爐ヲ利用セリ

濕乾室構造方一尺八寸、高四尺三寸ノ木枠ノ周圍ヲ低張トナシタルモノニシテ一面中央部ヲ境トシ上下段ニ分チ二個ノ扉ヲ有セシメ上段木枠ニハ三寸距リニ棧木ヲ附シ蒸籠ノ出入ニ便ナラシメ下段木枠内ニハ石油厨爐ヲ設ケ溫熱ヲ作り爐上ニハ亞鉛製蒸發器徑四寸五分深二寸五分ニ水ヲ盛リタルモノヲ掛ケ濕度ヲ供給セシム然シテ室内ノ溫濕度ハ上段木枠ノ最上部ニ濕乾量計ヲ裝置シ乾燥中毎時室内溫度ヲ觀測セリ

原料ハ凡テ大形ナルモノヲ撰別シ除殼シタルモノハ肉一貫タニ付キ食鹽三合ノ割合ヲ以テ樽中ニ攪漬ナスコト十二時間ヲ經テ洗滌シ度數回清水ニテ洗ヒ煮熟ス

煮熟シタルモノハ直チニ室内ニ入レ濕乾シ時々乾濕ノ程度ヲ見計ラヒ二度煮三度煮ヲナセリ

濕乾中ハ毎時室内溫度濕度ヲ檢シ又歩止ヲ調ベ品質ノ變化等ニ付キ注意セリ

本試驗ハ其後二回行ヒ各回ニ付キ原料煮熟濕乾ノ三項ニ分チテ記入セリ即チ左ノ如シ

第一回豫備試驗用原料歩留表

原料 個數	總 量	一個ノ重量	歩 留
貝付鮑總重量	五五個	一六六九	三割一分五厘
洗滌後鮑總重量	二、九〇〇	〇五二二	二割六分三厘
第一回煮熟重量	二、四〇〇	〇四三六	

備考 原料ハ御座村産ニシテ大正二年九月十日採集シタルモノナリ

第一回豫備試驗用鮑煮熟表

煮熟回數	煮熟時間	煮熟時期	煮熟溫度
一	一 時 間	鹽鮑ヲ洗ヒタル時	〇 六 度
二	二 十 分 間	濕乾十二時間後	七 十 五 度
三	二 十 分 間	同	七 十 五 度
四	二 十 分 間	同	八 十 五 度
五	二 十 分 間	同	八 十 五 度
六	二 十 分 間	同	八 十 五 度
七	二 十 分 間	同	八 十 五 度
八	二 十 分 間	同	八 十 五 度
九	二 十 分 間	同	八 十 五 度
一〇	二 十 分 間	同	八 十 五 度

第一回豫備試驗用鮑濕乾表

濕乾回數	濕乾時	乾球示度	濕球示度	乾濕ノ差	歩 留	石油注加量	備 考
一	一	五、〇	四、二	八、〇		二合五勺	
二	二	五、七	四、七	一、〇			
三	三	六、一	五、〇	一、一	二、三九		
四	四	五、七	四、六	一、一			
五	五	五、八	四、六	一、二			
六	六	五、〇	四、〇	一、〇		七合五勺	
七	七	五、四	四、三	一、一			
八	八	五、五	四、九	六、〇			
九	九	五、七	四、六	一、一			
一〇	一〇	五、九	四、六	一、三			

焙煙強ニ附着セルヲ以テ洗滌ス

濕 乾 中 止







六																		
五九	五八	五七	五六	五五	五四	五三	五二	五一	五〇	四九	四八	四七	四六	四五	四四	四三	四二	四一
五一〇	五二〇	五二〇	五一〇	五四〇	五四〇	五二〇	五〇〇	四一〇	四四〇	四五〇	四九〇	五六〇	六九〇	五九〇	五一〇	四八〇	四五〇	四二〇
四四〇	四四〇	四四〇	四四〇	四五〇	四五〇	四四〇	四二〇	三八〇	三八〇	三八〇	三九〇	四五〇	四六〇	四四〇	四六〇	四五〇	四一〇	三九〇
七〇	八〇	八〇	七〇	一〇〇	一〇〇	八〇	八〇	三〇	六〇	七〇	一〇〇	一一〇	二二〇	一五〇	五〇	三〇	四〇	三〇
七合五勺																		
五合																		
濕 乾 中 止																		
四度表ヲナス																		

四〇	三九	三八	三七	三六	三五	三四	三三	三二	三一	三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二
五五〇	欠測	欠測	五三〇	五六〇	五九〇	五四〇	五三〇	五二〇	四七〇	三五〇	四八〇	五七〇	五九〇	欠測	五八〇	五九〇	五八〇	六〇〇
四三〇			四四〇	四一〇	三九〇	四〇〇	四〇〇	四二〇	三八〇	二九〇	三五〇	四一〇	四二〇		四二〇	四一〇	四三〇	四三〇
一二〇			九〇	五〇	一〇〇	一四〇	一三〇	一〇〇	九〇	六〇	一三〇	一六〇	一七〇		一六〇	一八〇	一五〇	一七〇
一七〇											一八五							
七合五勺																		
濕 乾 中 止																		

計	六〇	五三、〇	四四、〇	九、〇	一、六三	濕 乾 中 止
	六一	三六、〇	三一、〇	五、〇		
	六二	四二、〇	三六、〇	六、〇		
	六三	四五、〇	三八、〇	七、〇		
	六四	四七、〇	三九、〇	八、〇		
	六五	四八、〇	三九、〇	九、〇		
	六六	四七、〇	三八、〇	九、〇		
	六七	四九、〇	四〇、〇	九、〇		
	六八	五一、〇	四二、〇	九、〇		
	六九	五一、〇	四二、〇	九、〇		
	七〇	欠 測				
	七一	欠 測				
	七二	欠 測				
	七三	欠 測			一、四〇	濕 乾 中 止

第二回試験成績ニヨレバ七十三時間ニシテ本固ニ近キ乾燥程度ノ品ヲ得タリ之レニ消費セシ石油量ハ三升二合五勺ニシテ毎時平均四勺四分餘ヲ要シタル割合ナリ製品ノ色澤ハ第一回試験ノ如ク赤褐色ヲ帯ヒ火膠ヲ生シタルモノアリ以上二回ノ實驗ニヨレバ本試験ノ目的ノ一タル乾燥時日ヲ短縮シ得ルコトハ確實トナレリ只茲ニ遺憾トスルハ品質ノ優劣ヲ定ムル標準ノ一タル色澤ノ赤褐色ヲ帯フル事ナリ蓋シ色澤赤褐色ヲ呈スルコトハ蒸焼シタル証ニシテ之レ室内温度ノ高マリシ爲

メナラン室内温度ハ上段下段各異ナリ下段最高ト上段最低ト數回ノ實驗ニヨレバ上段ト下段トハ十度以上二十度内外ノ差異アルモノニシテ前ニ示シタル濕乾表ノ温度ハ何レモ上段ノモノナルガ故ニ乾球五十度ノ時ハ下段ニアル飽ハ六十度乃至七十度ノ濕熱ヲ受ケタルコトヲ推知セラレ而シテ毎時觀測示度表ニヨレバ赤褐色ヲ帯ヒタル時ハ何レモ乾球六十度以上乾濕ノ差十七度以上ヲ呈セリ濕乾室ヲ利用シ八十時間内外ノ時間ヲ費セバ飽ヲ速製シ得ルモ前記試驗ニ徵スレバ乾球六十度(乾濕度ノ差十七度以上)ニ上昇シ數時間繼續スル時ハ製品ヲシテ焦損セシムルノ憂アルモノノ如シ然レ共前述ノ如ク上下段熱度ニ多大ノ差異ヲ生スルハ一ツハ周壁ノ種類ニ關係スルモノニシテ今回試用シタル焙乾ノ如キ紙片ヲ用ヒタルヲ以テ下底ニ生シタル熱ハ上部ニ上昇セントスルニ際シ下段原料ノ爲メ遮キラレ熱量ノ幾分ハ紙片ヲ通過シ外圍ニ放散セラレ他ノ殘熱ニヨリ上段原料ハ乾燥セラル、ノ結果ニ外ナラザルヲ以テ若シ紙壁ニ代フルニ熱ヲシテ通過逃散セシムルコトナキ板或ハ土塀ヲ以テセバ上下熱量ノ平均ヲ來タシ且ツ焦燒ノ患ナキハ前年度經驗濕乾室ニ於テ試驗セル結果ニ徵スルモ分明ナリト雖モ本年度ニ於テハ之ヲ修繕セルトキハ之レカタメ時期ヲ逸スルノ恐レアリタルヲ以テ次年度ノ繼續事業トシ本年度ニ於テハ前記焙乾ヲ使用シ且ツ濕度及温度ノ適否等ニ對シ本試驗ヲ施行セリ

明 飽 濕 乾 本 試 驗

試 驗 ノ 方 法

豫備試驗ニ於テ乾燥ニ要スル時間温度石油量ノ概要ヲ知リタルヲ以テ本試驗ハ普通製法ト比較シ乾燥時日ノ長短燃料消費高勞力ノ多少歩留製品ノ形状色澤ノ如何ニ付試驗ヲ施行セリ

- 一、濕乾室ハ豫備試驗ニ使用シタルモノヲ用ヒタレ共蒸發器ハ前回ニ使用シタルモノヨリ蒸發面ノ廣キ口徑一尺三寸五分、深四寸五分ノ水盤ニ改メタリ
- 二、製法ハ前ト畧同一ナレ共濕乾法ニヨルモノハ第一回蒸熱時間ヲ短縮シ回数ヲ五回ニ増加シタリ普通製法ニヨルモノハ回数九回ニシテ日乾及焙乾ヲナセリ



明鮑濕乾本試驗原料步留表

產 地	採集年月日	鮑 個 數	貝付鮑總重量	除殼後重量	洗滌後重量	第一回蒸熟後重量	除殼鮑ノ步留	洗滌後ノ步留	第一回蒸熟後ノ重量
志摩郡御座村	大正二年九月十九日	三十八	八、〇〇〇 匁	三、八〇〇 匁	二、八〇〇 匁	二、六〇〇 匁	四割七分五厘	三割五分	三割二分五厘
普通ノ原料	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	九月十三日	三十六	九、〇〇〇 匁	四、〇〇〇 匁	三、一二〇 匁	二、九〇〇 匁	四割四分四厘	三割四分六厘	三割二分二厘

明鮑濕乾本試驗蒸熟比較

蒸熟回数	濕 法			普 通 法		
	溫 度	時 間	燃 料 價 格	溫 度	時 間	燃 料 價 格
一六十度乃至七十度	二〇分	一、二〇〇	〇、一七六	一六十度乃至七十五度	一五分	一、二〇〇
二十七十五度乃至八十五度	一五分	一、一〇〇	〇、一六七	二十七十五度乃至八十五度	同	一、一〇〇
三十六十五度乃至九十五度	一三分	九〇〇	〇、一三三	三十六十五度乃至百度	一三分	同

明鮑濕乾本試驗乾燥比較成績表

比較事項	乾 燥 法		普 通 法	
	濕 法	乾 法	普 通 法	普 通 法
第一回蒸熟後本固ニ近キ製品ニ至ルマデノ時間	一〇	五	一	九
消費燃料數料	石油 四升九合五勺			

今兩者ヲ比較スルニ蒸熟回数ハ普通法ニヨルモノハ九回濕乾法ニヨルモノハ五回ニシテ之レニ消費セシ燃料前者ハ十貫六匁、後者ハ五貫六匁、此價金壹圓四拾八錢後者ハ五貫六匁、此價金八拾錢ナリ即チ此差額五貫匁、價金六拾八錢ハ普通製ニヨルモノニ多キヲ消ヒタル割合ナリ蓋シ時々蒸熟スルノ要ハ乾燥ヲ早メ肉ヲ緊縮スルノ手段ニシテ大鮑ニ於テ殊ニ必要トス而シテ蒸熟時間ヲ延長シ蒸熟回数ヲ少クスル方燃料ノ消費高ヲ減シ得レ共製品ノ歩留少キヲ以テ本試驗ニ於テモ毎回蒸熟時間ヲ少クシ回数ヲ増加シタルナリ然レ共濕乾法ニヨルモノハ長時間連續シ乾燥シ得ルノ便アルヲ以テ肉ノ緊縮比較的早キガ故ニ蒸熟ヲ四回ニシテ止メタルナリ

計	四九十五度乃至百度				
	九	八	七	六	五
溫 度	六八分	同	同	同	同
時 間	五、六〇〇	同	同	同	同
燃 料 價 格	八〇〇	同	同	同	同
溫 度	同	同	同	同	同
時 間	百〇三分	同	同	同	同
燃 料 價 格	一、六〇〇	同	同	同	同
燃 料 價 格	一、四八〇	同	同	同	同

同 價	格 壹圓拾貳錢參厘
留 一割四分六厘	一 割 四 分

備考 炭ハ焙乾二回ノ燃料ニシテ乾燥初時ニ於テ雨天ニ際會シタル爲ニ行ヒタルナリ  
 濕乾法ニ於テ乾燥時間ハ前豫備試驗ノ場合ヨリ約二十時間多ク要セリ之レ前回ヨリ温度低カリシ爲メナラヌ石油消費料ハ前回  
 ニ比シ甚ダ少ク毎時平均四勺九分強ヲ費セリ今室内乾濕球平均温度ヲ示セバ左ノ如シ

回数	時間數	乾球平均温度	濕球平均示度	乾濕球ノ差
一	六	五三、〇	四四、〇	九、〇
二	九	五一、〇	四一、二	九、九
三	九	五一、〇	四四、〇	七、〇
四	九	五一、〇	三八、〇	一三、〇
五	九	四九、六	三六、二	一三、四
六	九	五一、五	三八、七	一二、八
七	九	五〇、九	三七、八	一三、一
八	一〇	五〇、三	四〇、二	一〇、一
九	一〇	四九、六	三八、五	一一、一
一〇	一一	五〇、二	三六、二	一四、〇
計	一〇〇	平均 五〇、八	平均 三九、〇	平均 一一、八

普通法ニ於テ乾燥セシ日數ハ十九日間ナレ共漸次乾燥ノ進ムニ從ヒ二日乃至五日間位罷蒸へ必要アルト雨天ニ際會シ日乾シ得  
 ナリシ爲メトニヨリ全ク乾燥ニ費セシ時數ハ以上ノ成績ニヨレバ多大ノ差異アルモノニシテ即チ前者ハ四晝夜ト四時間ヲ要シ  
 後者ハ三十七晝夜ヲ要シタル割合ナリ製品ノ形狀色澤ニ至リテハ兩者共ニ同一ニシテ何等ノ異狀ヲ認メズ而シテ之レニ要シク  
 ル勞力ハ試驗原料僅少ノ爲メ特ニ人夫ヲ雇ヒ入レサリシヲ以テ今此ニ比較スルコトヲ得サレ共製造日數延長セバ從テ之ニ比例  
 シ多ク勞力ヲ要スベシ歩留ハ普通法ニヨリタルモノハ一割四分ニ止マリ濕乾法ニヨリタルモノハ一割四分七厘ニ止マリタルヲ  
 以テ前者ハ後者ニ比シ七厘丈歩減少キ割合ナレ共本製品ハ全ク本固ノ乾燥ニ達セザルカ故ニ今後幾  
 何カノ歩減アルヲ免カレザルベシ

結 論

- 一、濕乾法ハ普通法ニ比シ乾燥ニ燃料ヲ要スレ共形狀色澤ヲ害セシテ乾燥時數ヲ短縮スルコトヲ得
- 二、濕乾法ハ普通法ニ比シ乾燥ヲ早メ勞力ヲ減スルコト大ナルヲ以テ之ヲ實際ニ應用セバ利益アルコト多シ特ニ製造中雨天ニ  
 際會シタル場合又ハ明飽相場ノ上騰シタル時急速ニ製造スルノ要アル場合等ニ利用セバ効果一層大ナリ
- 三、煮熟燃料ハ濕乾法ニヨルモノ普通法ニ比シ節減スルコトヲ得
- 四、考究スベキハ濕乾室ノ構造ニシテ本試驗ニ使用シタルモノハ周圍紙張ナルヲ以テ室内温度上昇セントスルニ當リテ下段原  
 料ニヨリ掩閉セラル、ノ結果熱度ハ紙壁ヲ透シ外部へ散スルノ傾キアルヲ以テ上下温度ノ差違著シク從テ上部原料ニ適度  
 ノ温度ヲ與ヘント欲セバ下部ハ熱度高キニ失シ途ニ焦燒セシムルノ止ムナキニ至ル試驗ノ結果明瞭ニシテ室内温度ヲ適  
 當ニ調節セシムルニ困難ナリ故ニ紙壁ニ代フルニ逃散ノ患ナキ板壁トセバ室内温度平均シ且ツ燃料ニ於テモ其消費量ヲ減  
 スルノ理ニシテ延テ乾燥時數ヲ一層短縮シ得ベキナリ

三、經節製造講習

本場經節製造試驗ニ伴ヒ五月廿一日ヨリ六月二十日ニ至ル三十日間外海四郡ヨリ生徒ヲ募集シ學理及實地ニ關シ講習ヲ開催シ

尙講習終了後ハ希望各村へ本場員及實業手ヲ派遣シ指導セリ

實業手及講習生住所 名

實業手	福田 力太郎
講習生	山崎 源次郎
	柴原 安藏
	谷水 岩吉
	尾崎 堯次
北牟婁郡九鬼村	
各郡指導狀況	

度會郡

一、教師 大正元年度雇聘セズ四十四年度静岡縣燒津町ヨリ雇入レ四十日間部内五ヶ所村及磯浦ニ於テ指導ス

一、講習ノ方法 五ヶ所浦ニ於テハーケ所ト定メ専ラ製造場主及其ノ家族並ニ雇入レノ者數名ニ實習ヲナシ磯浦ニアリテハ製

造家各戸ヲ巡回指導セシメタリ

一、効果 同郡ニ於ケル生切法ハ不熟練又ハ庖丁ノ用法ニ於テ改良スベキ点アリ教師雇聘後此ノ点ニ於テ約一割ノ利益ヲ得タ

リト云フ

南牟婁郡

一、教師ハ静岡縣田子村ヨリ雇入レ六月二十二日ヨリ八月十五日マテ同郡荒畑村ニ於テ指導ス

一、講習方法 一定ノ場所ニ生徒ヲ集合セシメタリ

一、効果 本年度ニ於テハ原料不獲ノ爲メ切方充分ナラザリシモ削リハ比較的成績見ルベキモノアリ而シテ本郡ニ於テハ微付ニ熟練セルモノ少ナカリシモ教師指導ノ結果微付方法ヲ知得シ且ツ鯉節全體ノ改善セラルルニ至レフ此後主要地一ヶ所三ヶ年間繼續講習ヲナシ其ノ改良ヲ俟テ漸次他村ニ及ホサントス

四、蝦煎餅及義助煮製造講習

大正二年六月二十五日ヨリ同二十九日ニ至ル五日間河藝郡若松村ニ於テ同郡主催講習へ講師ニ派遣シ生徒三十三名ニ對シ同地方ニ饒産シ乾燥スルノ外利用ノ途ニ窮セル小蝦ヲ原料トシ蝦煎餅及儀助煮製造實地講習ヲナセリ

五、罐詰製造指導

本年度鯉節製造指導ノ傍ラ度會郡島津村古和ニ於テ同郡ノ希望ニヨリ生徒三十餘名ニ對シ罐詰製造ノ原理及同製造ノ梯段タル空罐製造及鯉味付罐詰ニツキ實地指導ヲナセリ

六、聯電築造指導

本縣下煮干鰯ハ内灣ニ於ケル重要製品ニシテ産額多シト雖モ其ノ骨隨タル電ヲ見ルニ不完全ニシテ甚ダシキニ至リテハ煙突ノ設ケナク火焰ハ焚口ヨリ逆散シ燃料ノ冗費ヲ顧ミサルノ状態ナリ依テ此等電ノ改善ヲナシ製品ノ改良ト直俟テ經濟上ノ收利ヲ多カラシムルノ目的ニヨリ曩ニ農商務省ト協力シ河藝郡豊津村ニ四聯電ヲ築造セルモ築造費ニ莫大ノ資金ヲ要シ個人經營トシテ普及ニ困難ナルヲ感シタルヲ以テ本年同郡へ可及的築造費節減ヲ目的トシ僅々拾餘圓ヲ以テ四聯電ノ築造シタルニ在來電ニ比シ燃料ノ節約セラル、コト多キト築造ニ資力ヲ要スル少ナキノ結果當業者ノ注目スルニ至リ且ツ同郡ニ於テハ之レガ普及ノ目的ヲ以テ同郡白塚村ニ築造講習ヲ開催シ本場員ヲ講師トシト派遣シ電ニ對スル必要々件及築造法ヲ實地指導セリ

七、海苔製造指導

前年度ヨリノ繼續事業ニシテ各郡ノ希望ニヨリ製造時期ニ際シ各生産地ニ於テ製造指導ヲナシタル結果各地東京式製品ノ販出

ヲナスニ至リ飯南郡港村織師ノ如キ海苔業ニ對スル方法及器具ニ至ルマテ總テ範ヲ東京ニ倣ヒ漸時市價ヲ拍スルニ至リ度會郡二見町今一色ノ如キハ各抄製者澁キ梓一定セサルヲ以テ製品ハ大小區々別々ニシテ市場ニ販出スルノ價値ヲ認メサリシヲ以テ本場指導ニ際シテハ梓及枙ヲ一定シ製品ノ統一ヲ計リタルニ俄然製品價格ヲ昇進セシムルヲ得タリ

前述ノ如ク製品々質ニ於テハ大ニ其ノ面目ヲ更メシムルヲ得タリト雖モ海苔製品ハ之レニ貯藏ノ方法ヲ施スニアラサレバ長時ノ貯藏ニ堪フル能ハズ故ニ製造者ニシテ該方法ヲ知ラザレバ勢ヒ速賣ノ止ムナカルベシ然ルニ商人ハ此ノ弱點ヲ利用シ價格ヲ左右スルハ古來ノ慣習ニシテ製造者ニトリテハ貯藏法ハ海苔事業上緊要ナル事項ナリ仍テ本場ハ抄製ト日時ニ桑名郡木曾岬村ニ於テ貯藏法ノ指導ヲナシタルニ成績良好ニシテ完全ニ目的ヲ達シ利得スルトコロ大ナリキ

八、製造講話

大正二年十二月南牟婁郡役所ノ希望ニヨリ同郡二木島村及南輪内村古江ニ於テ同地經營トシテ適當ナル製造法及經節速成法等ニ對シ講話セリ

● 調査ノ部

主任技手 川 上 宗 治

本年度ニ於テ調査セル事項左ノ如シ

- 一、定期海洋観測
- 二、多氣郡沿岸養殖適地調査
- 三、桑名郡地先海苔養殖場調査

一、定期海洋観測

本調査ハ漁業基本調査ノ一部トシテ明治四十三年以降繼續本年度ヲ以テ完成セルモノニシテ毎月三回、上旬中旬及下旬一定ノ場所ニ於テ海洋観測及浮游生物ノ採集調査ヲ行ヒ以テ此等海況ガ沿岸漁業ニ及ボス影響ノ如何ヲ窺知スルヲ以テ目的トセリ

今本年度ニ於テ調査セル結果ヲ綜合スレバ左ノ如シ

一、観測ノ場所

志摩郡和具村南西南方約二哩ノ地点

(和具村沖小島ト麥岬見通線ト 御座岬、濱島村南張濱見通線トノ 交叉点)

同所ハ水深十二尋ニシテ底部砂質ナリ

二、氣 温

観測地点附近ニ於ケル一ケ年ノ平均氣温ハ一九、四度弱ニシテ本年度四月下旬乃至五月中旬及十一月下旬ノ氣温ニ近ク、又本年度ニ於ケル最低氣温ハ二月上旬ニシテ七、五度ヲ示シ最高氣温ハ八月中旬ニシテ三〇、五度ヲ示セリ

三、水 温

観測点ニ於ケル一ケ年ノ平均水温ハ一九、七度強ニシテ一ケ年平均氣温ヨリモ稍高シ

本年度ニ於ケル最低水温ハ氣温ノ最低ヲ示セル頃ヨリ稍後レ二月中旬ニ於テ表ハレ一、二、五度ヲ示シ最高水温ハ氣温ノ最高ヲ示セル頃ト同時即チ八月中旬ニシテ二八、〇度ヲ示セリ。之レニヨリテ見ル時ハ本年度ハ此地方ニ於テハ水温ト氣温トハ其最高最低ハ畧同一時期ニ於テ現ハレタリト雖モ、其最高最低ノ差ハ水温ニ於テハ一、五、五度ナルニ對シ氣温ニ於テハ二、三、〇度ニシテ兩者ノ相違七、五度ニ達スルヲ見ル

四、海水比重

海水比重ハ一ケ年ヲ通ジテ大ナル變化無ク、其平均比重ハ一、〇二五四六強ニシテ本年度十月中旬以後十二月上旬迄ノ比重ト畧等シ、本年度最低ノ比重ヲ示セルハ六月下旬ノ一、〇二三五〇ニシテ八月上旬一、〇二六五五ヲ示セルヲ最高比重トス

五、水色及透明度

水色及透明度ハ天候ノ如何、波浪ノ有無、浮游生物ノ多少等ニヨリ同一場所ニ於テモ常ニ多少ノ相違アルモノニシテ観測地點附近ニ於テハ水色ハ薄青乃至藍色ヲ示シ透明度少ナキ時ハ青色ニ近ク透明度大ナル時ハ藍ニ近シ又此附近ニ於テハ透明度ハ冬